

MZ Platform 工程管理システム簡易版

= 操作説明書 =

MZ Platform.3.3



独立行政法人
産業技術総合研究所

= 目次 =

第 1 章 SQL ファイルの作成	3
1-1 SQL ファイルが存在するフォルダへの移動	3
1-2 「production.sql」 ファイルの編集と保存	7
1-3 バッチファイルの実行処理	10
第 2 章 工程管理システム操作	21
2-1 使用するファイルのロードと実行	21
2-2 接続先データベースの切り替え	27
第 3 章 独自の工程管理データ作成	31
3-1 サンプルデータの修正によるデータ作成	31
3-1-1 サンプルデータの表示	32
3-1-2 行の追加	34
3-1-3 追加した行へのデータ登録	37
3-1-4 記載内容の修正	43
3-1-5 行の削除	48
3-2 新規に受注番号を登録してデータ作成	49
3-2-1 「受注情報表」が空白でない場合	49
3-2-2 「受注情報表」が空白	57
3-3 受注番号情報の削除	63
3-4 ガントチャート操作による予定日時変更	66
第 4 章 ガントチャートの表示形式の設定	68
4-1 表示期間の変更	68
4-2 表示項目数の設定	71
4-3 表示開始日時の設定	73
4-4 大目盛間隔の設定	75
4-5 小目盛間隔の設定	77
4-6 タスク名の表示	79
4-7 稼動日時の設定	81
4-8 稼動時間の設定	83
4-9 非稼働日の追加	85
4-10 非稼働日の削除	88
4-11 帯グラフの移動時間幅の設定	91
第 5 章 日付別負荷状況（工程指定）グラフの表示形式の設定	93
5-1 グラフ表示期間の変更	93
5-2 グラフの最大値変更	95
5-3 数値軸の目盛間隔の変更	97
5-4 積上棒グラフの値変更	99
第 6 章 工程別負荷状況（日付指定）グラフの表示形式の設定	101
6-1 日付選択の範囲変更	101
6-2 グラフの最大値変更	103
6-3 数値軸の目盛間隔の変更	105
6-4 積上棒グラフの値変更	107

第 7 章 ネットワーク接続の設定	109
7-1 工程管理システムのロードと起動.....	109
7-2 サーバ名の設定変更	115
7-3 アプリケーションファイルのクライアントへのコピー	119
7-4 ファイアウォールの設定	124
7-5 パソコンのコンピュータ名の取得.....	127

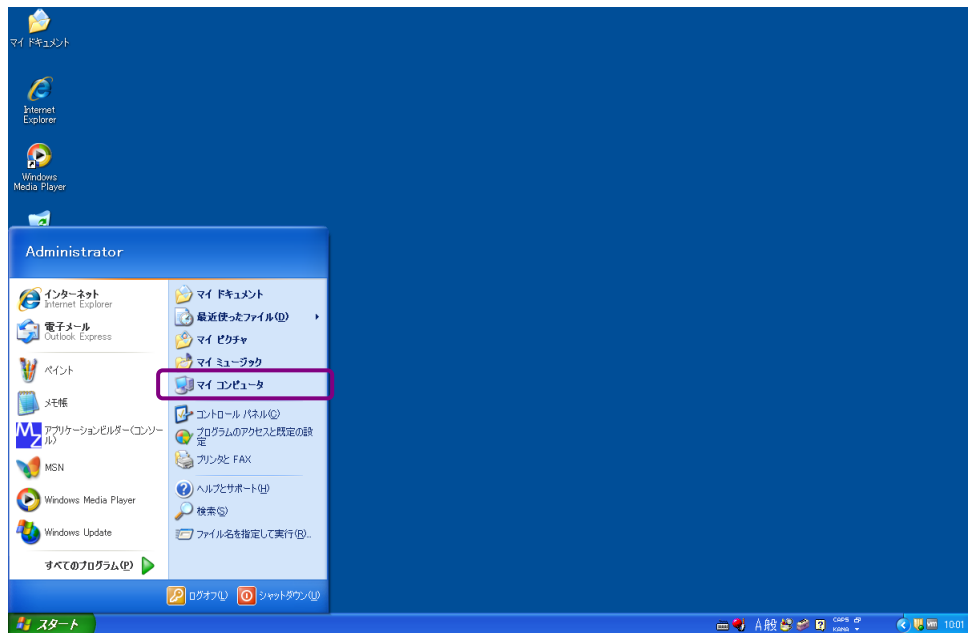
第1章 SQL ファイルの作成

(工程管理データ保存用フォルダ作成)

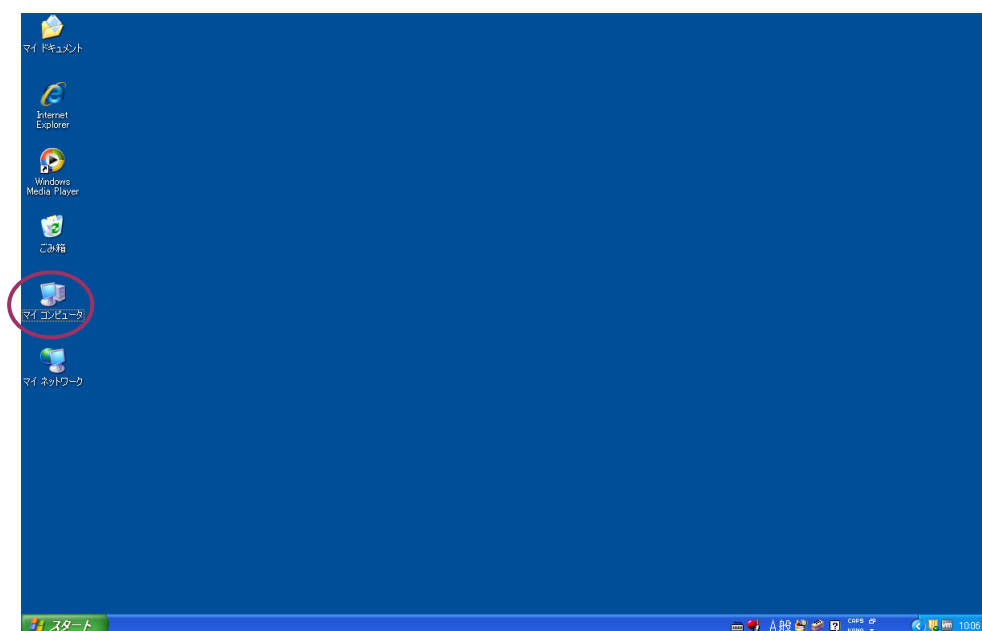
工程管理システム簡易版を基に、独自の工程管理システムを作成するには以下の手順で行います。

1-1 SQL ファイルが存在するフォルダへの移動

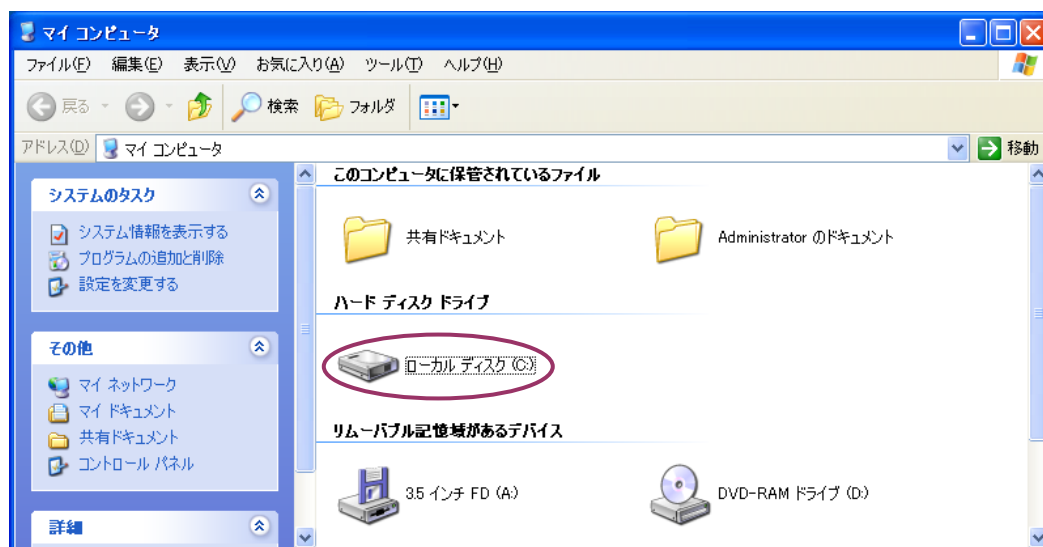
- ①デスクトップ上に「マイコンピュータ」アイコンが表示されていない場合
「スタート」→「マイコンピュータ」とたどり、左クリックします。



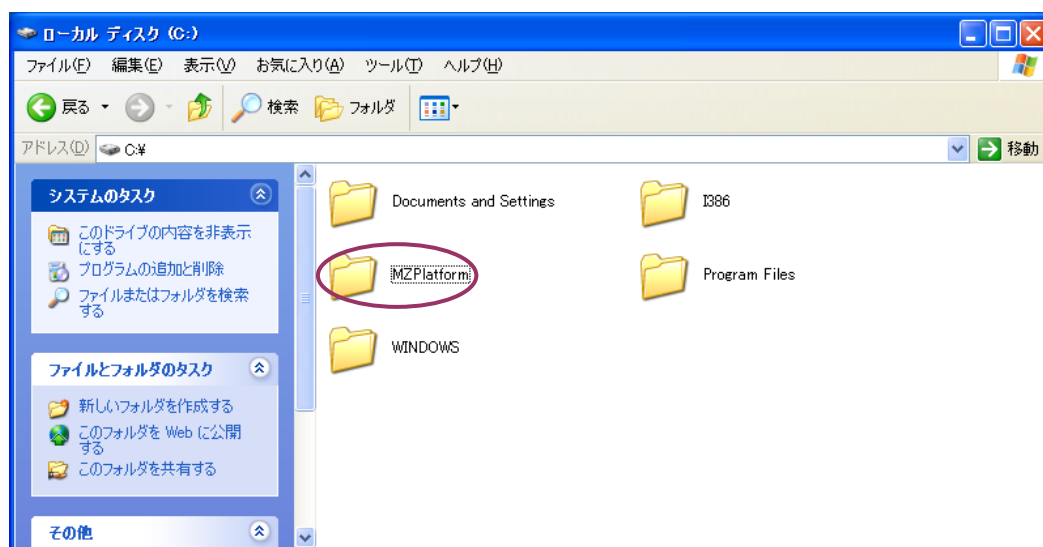
- ②デスクトップ上に「マイコンピュータ」アイコンが表示されている場合
「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。



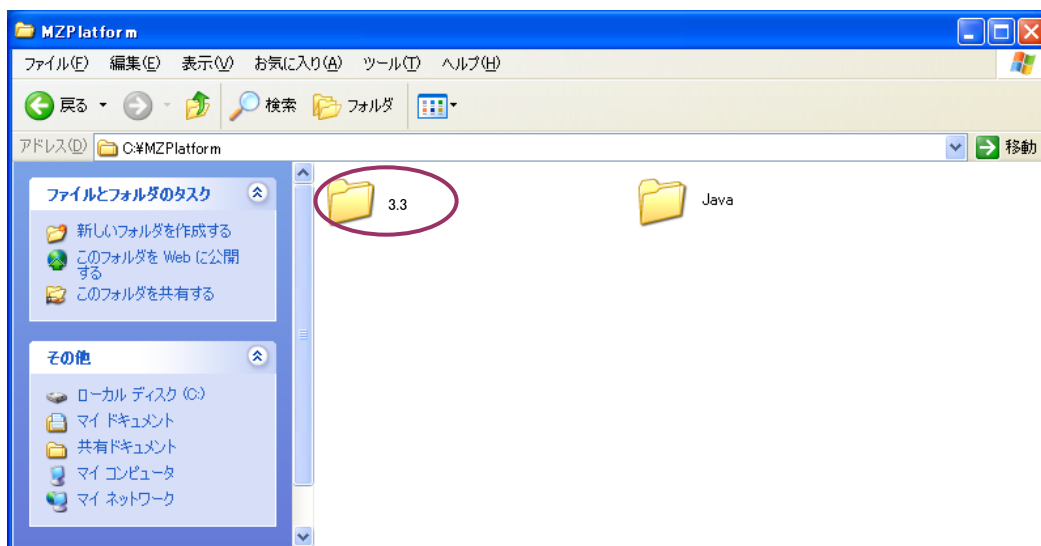
「マイコンピュータ」 ウィンドウが表示されます。「ローカルディスク (C:)」 アイコンをダブルクリックします。



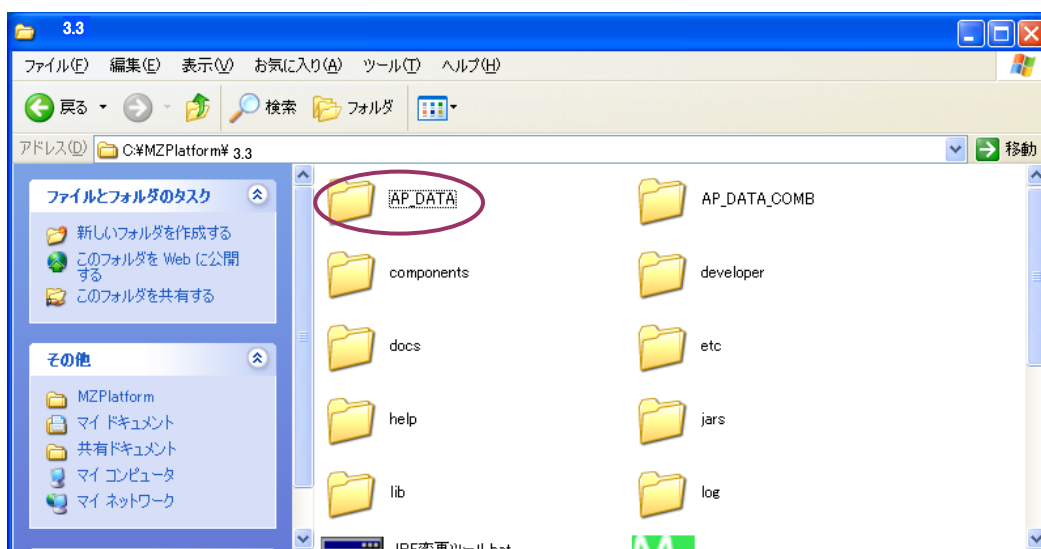
「ローカルディスク (C:)」が表示されます。「MZPlatform」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



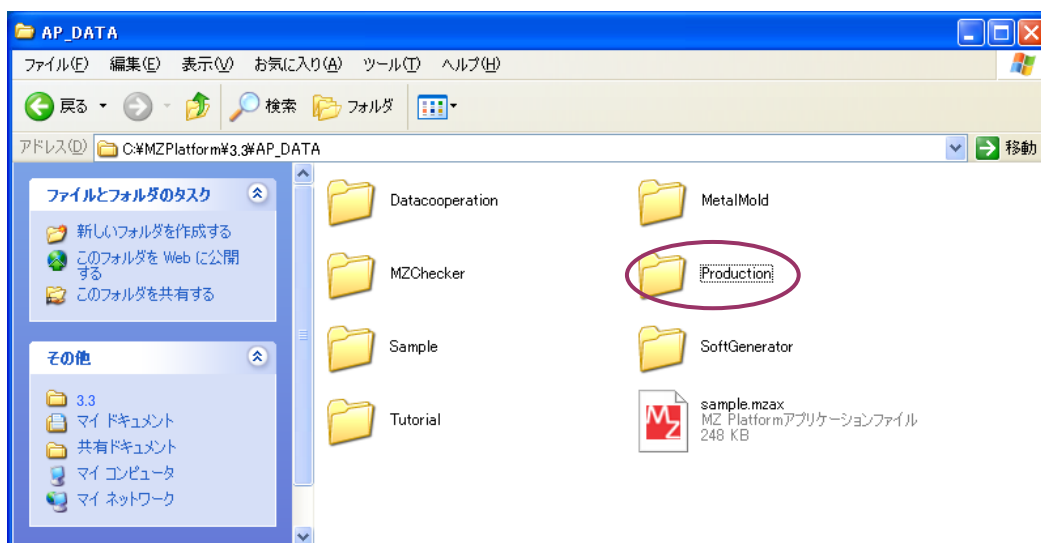
「MZPlatform」フォルダが表示されます。「3.3」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



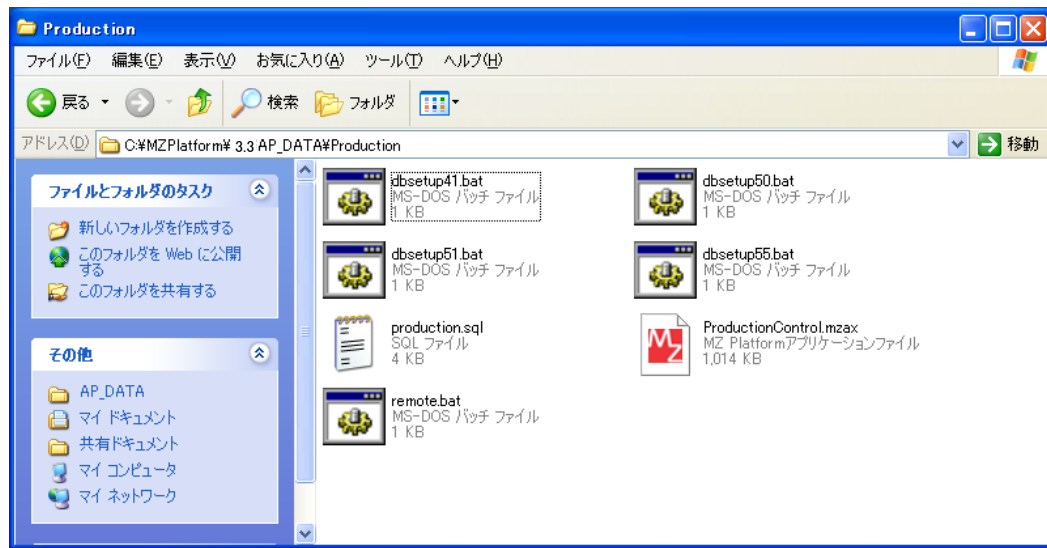
「3.3」フォルダが表示されます。「AP_DATA」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



「AP_DATA」フォルダが表示されます。「Production」フォルダのアイコンをダブルクリックします。

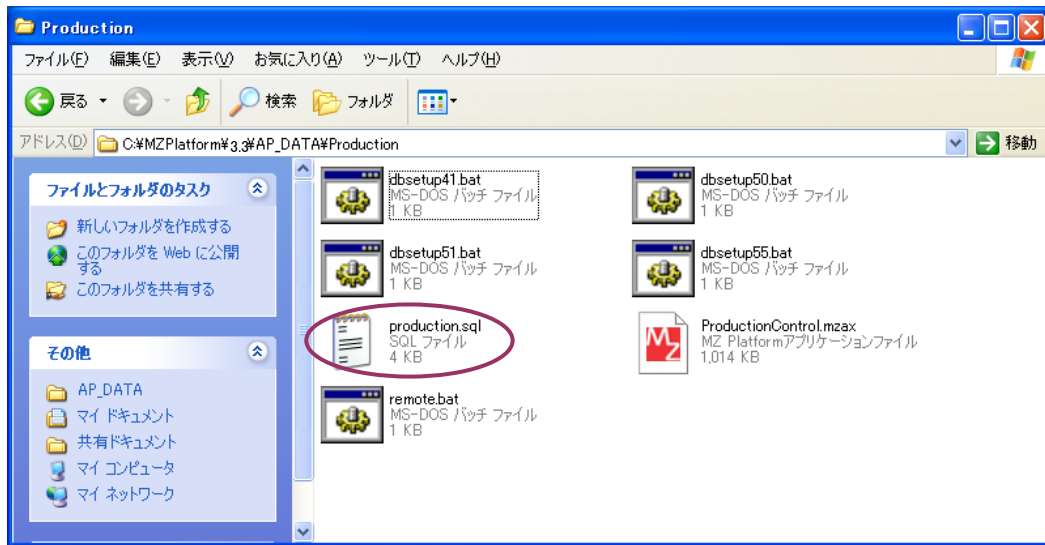


「Production」 フォルダが表示されます。



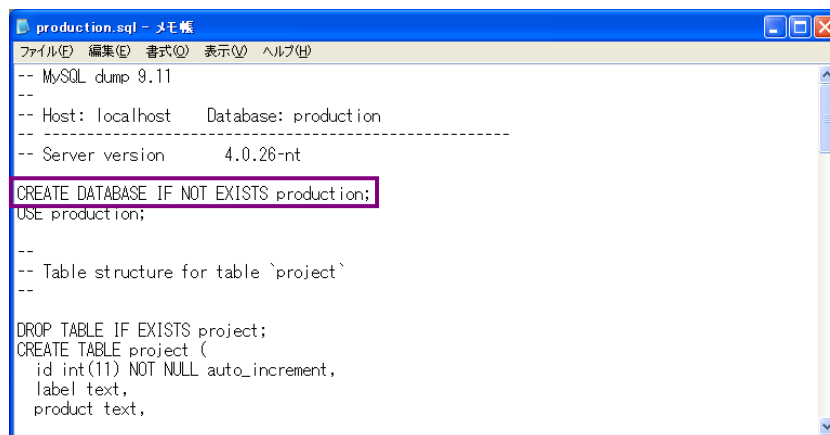
1-2 「production.sql」 ファイルの編集と保存

「1-1 SQL ファイルが存在するフォルダへの移動」(P. 3) でたどったフォルダ内に、「production.sql」ファイルがあります。アイコンをダブルクリックして、ファイルを開きます。

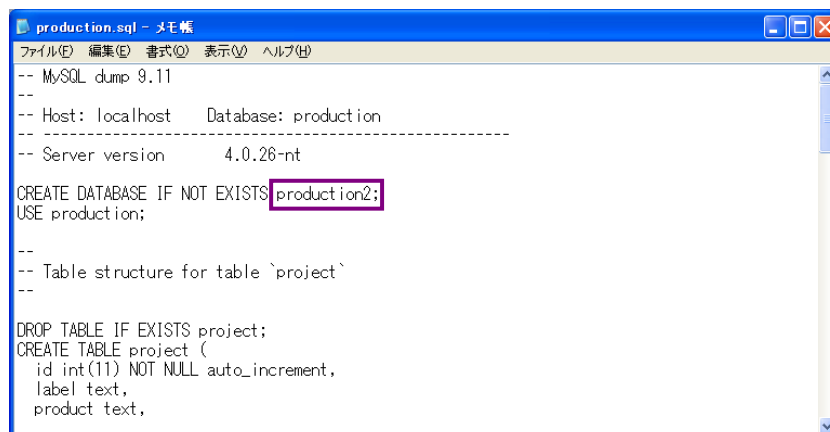


SQL 文を記述した画面が表示されます。以下の記述があります。

```
CREATE DATABASE IF NOT EXISTS production ;
```

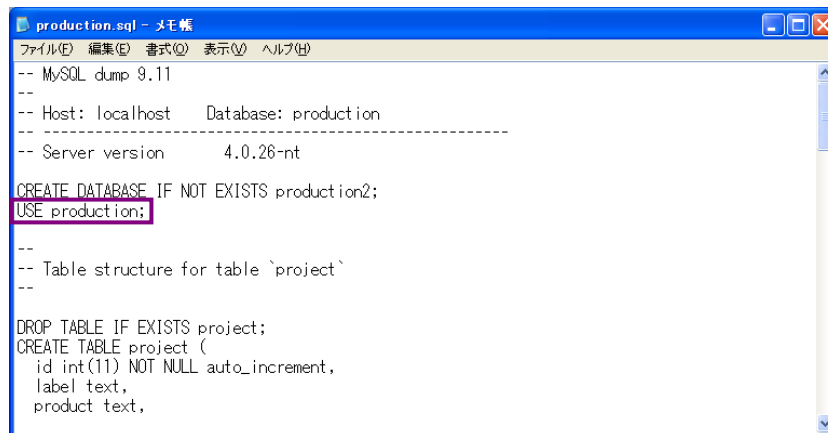


「production」の部分を変数、変更する名前に書き換えます（例えば、「production2」と記述する）。



次の行に、以下の記述があります。

```
USE production ;
```



```
production.sql - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)

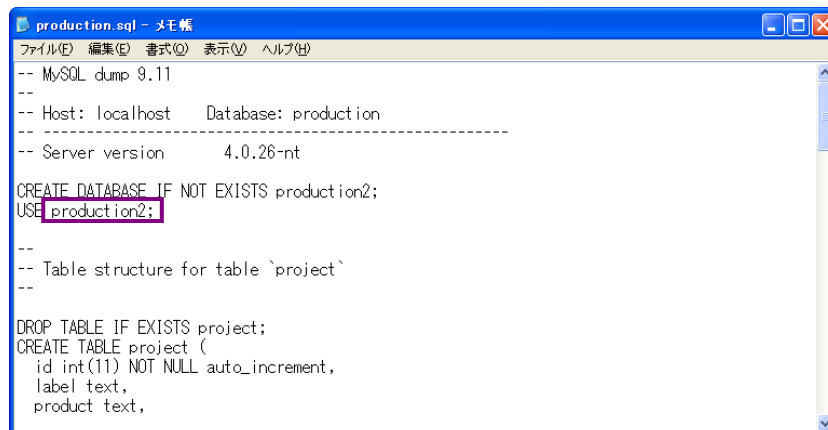
-- MySQL dump 9.11
--
-- Host: localhost    Database: production
--
-- Server version      4.0.26-nt

CREATE DATABASE IF NOT EXISTS production2;
USE production;

--
-- Table structure for table `project`
--

DROP TABLE IF EXISTS project;
CREATE TABLE project (
  id int(11) NOT NULL auto_increment,
  label text,
  product text,
```

「production」の部分を変えて、変更する名前に書き換えます（例えば、「production2」と記述）。



```
production.sql - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)

-- MySQL dump 9.11
--
-- Host: localhost    Database: production
--
-- Server version      4.0.26-nt

CREATE DATABASE IF NOT EXISTS production2;
USE production2;

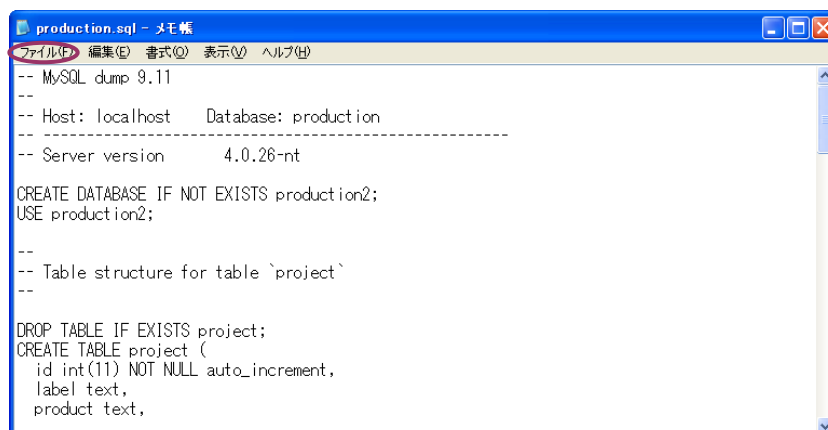
--
-- Table structure for table `project`
--

DROP TABLE IF EXISTS project;
CREATE TABLE project (
  id int(11) NOT NULL auto_increment,
  label text,
  product text,
```

！！注意事項！！

- (1) 変更する箇所は、同一名にします。
- (2) 「production」の右隣にある「;」を消去してはいけません。
- (3) 入力は半角で行います。

ここで行った設定を保存します。メニューバーより、「ファイル(F)」を左クリックします。



```
production.sql - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)

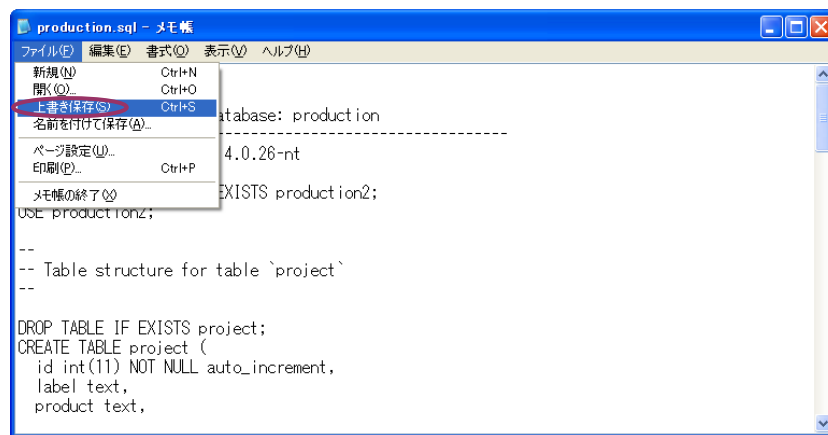
-- MySQL dump 9.11
--
-- Host: localhost    Database: production
--
-- Server version      4.0.26-nt

CREATE DATABASE IF NOT EXISTS production2;
USE production2;

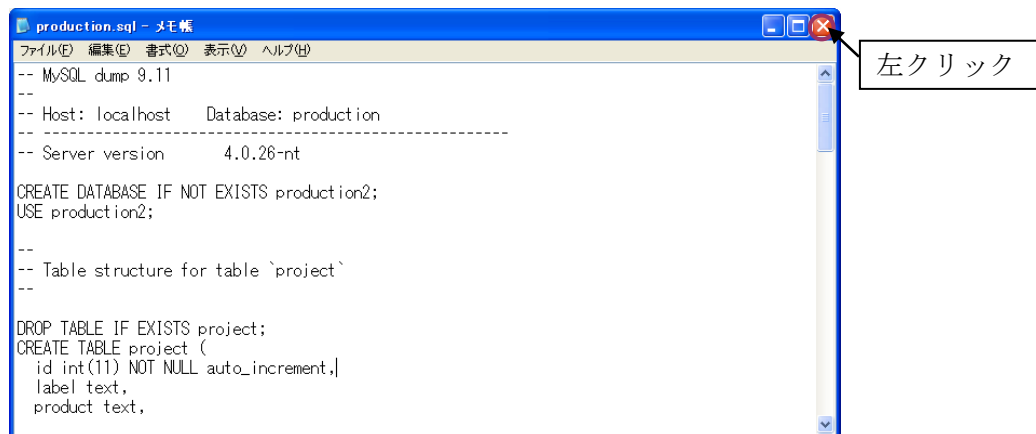
--
-- Table structure for table `project`
--

DROP TABLE IF EXISTS project;
CREATE TABLE project (
  id int(11) NOT NULL auto_increment,
  label text,
  product text,
```

メニュー一覧から「上書き保存(S)」を選択し、左クリックします。



[×]ボタンを左クリックし、画面を閉じます。

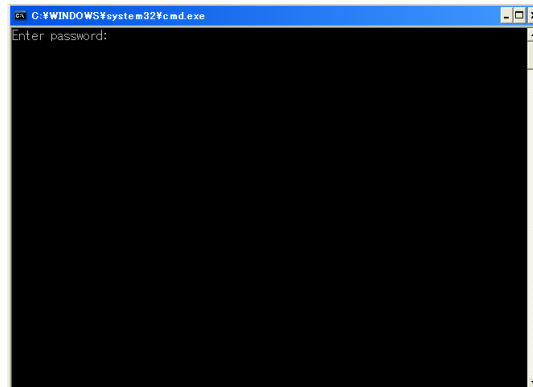


1-3 バッチファイルの実行処理

「Production」フォルダへ戻り、利用する MySQL のバージョンに対応したバッチファイルを実行します。インストールした MySQL のバージョンの確認方法は、P.129 を参照してください。

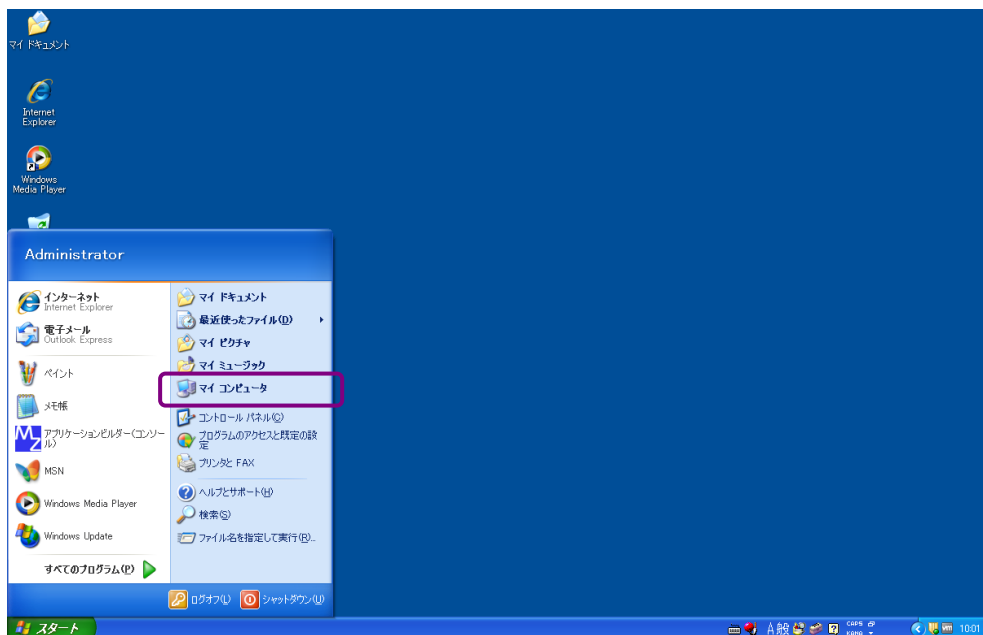
① MySQL4.0.x をご利用の場合

「dbsetup40.bat」ファイルを左ダブルクリックで開くと、以下の画面が表示されます。MySQL をインストール後、何も設定をしていない時は[Enter]キーを押すだけです。パスワードを設定した時は、そのパスワードを入力してから[Enter]キーを押します。

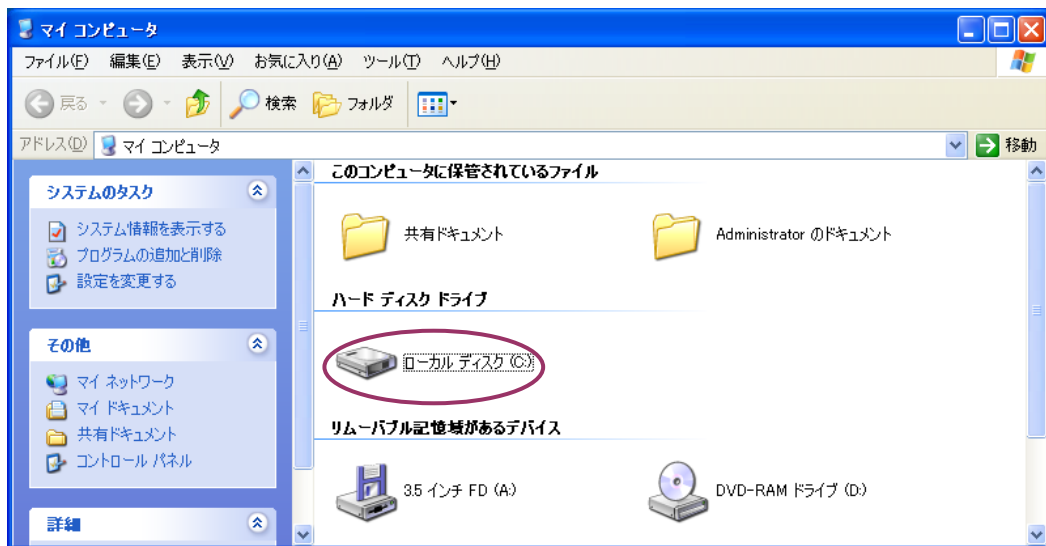


新しく作成したデータベースの確認は、以下の手順で行います。

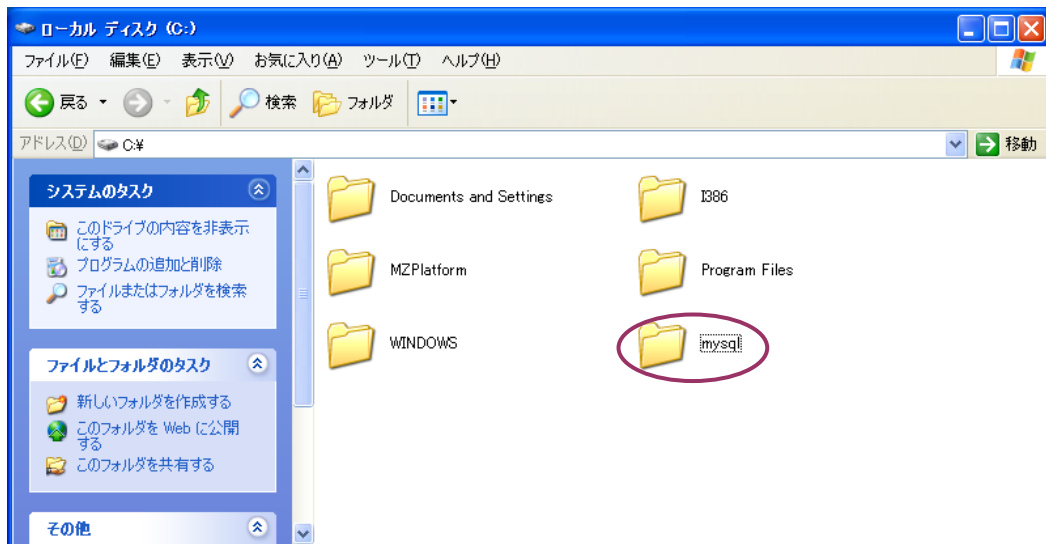
「スタート」→「マイコンピュータ」とたどり、左クリックします。



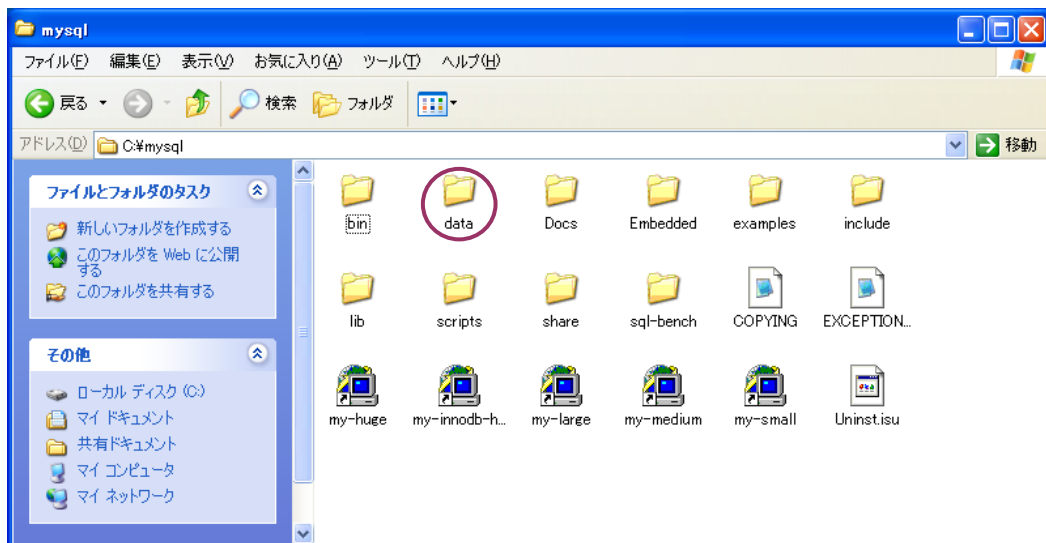
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。「ローカルディスク (C:)」アイコンをダブルクリックします。



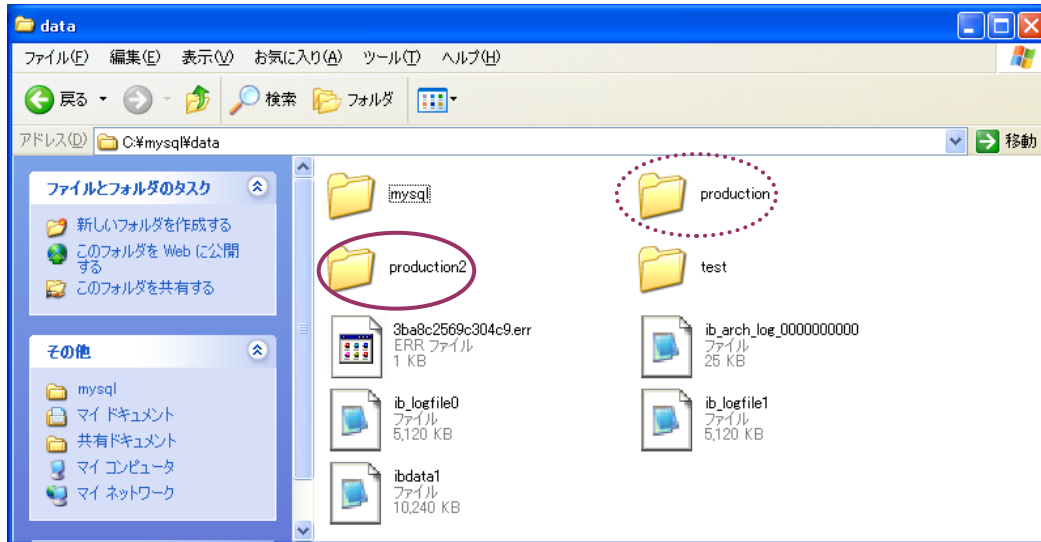
「ローカルディスク(C:)」が表示されます。「mysql」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



「mysql」フォルダが表示されます。「data」フォルダのアイコンをダブルクリックします。

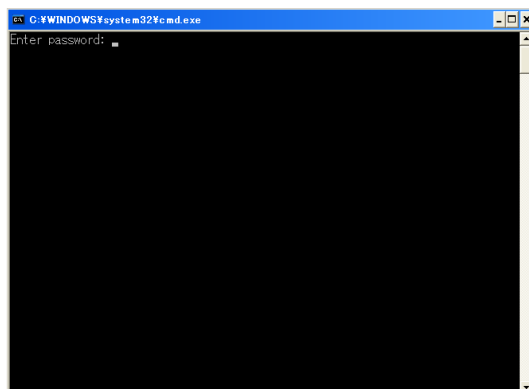


「data」フォルダが表示されます。「production2」フォルダが作成されているのが確認できます。



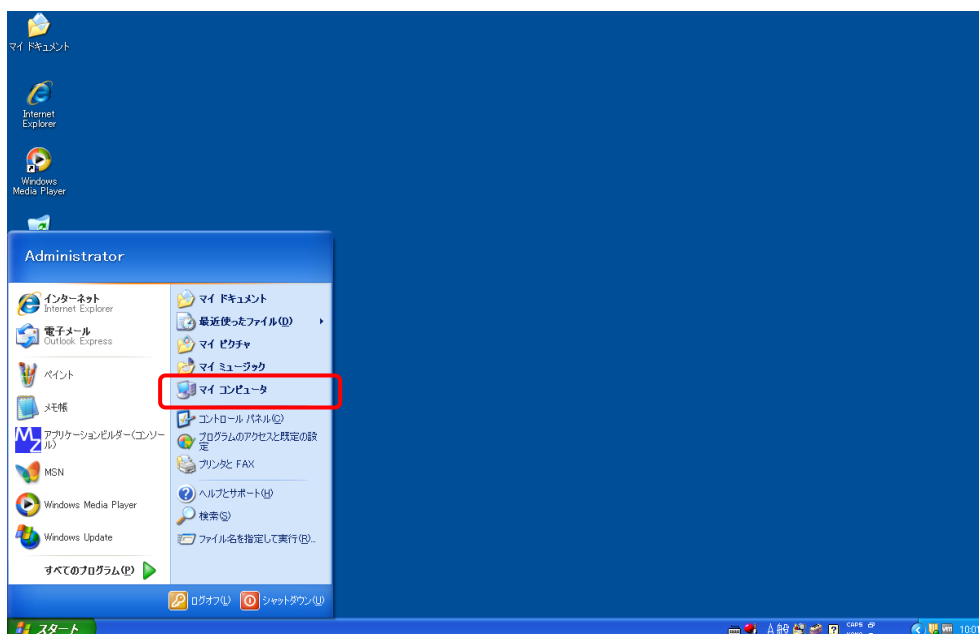
② MySQL4.1.x をご利用の場合

「dbsetup41.bat」ファイルを左ダブルクリックで開くと、以下の画面が表示されます。MySQL のインストール時に設定したパスワードを入力し、[Enter]キーを押します。

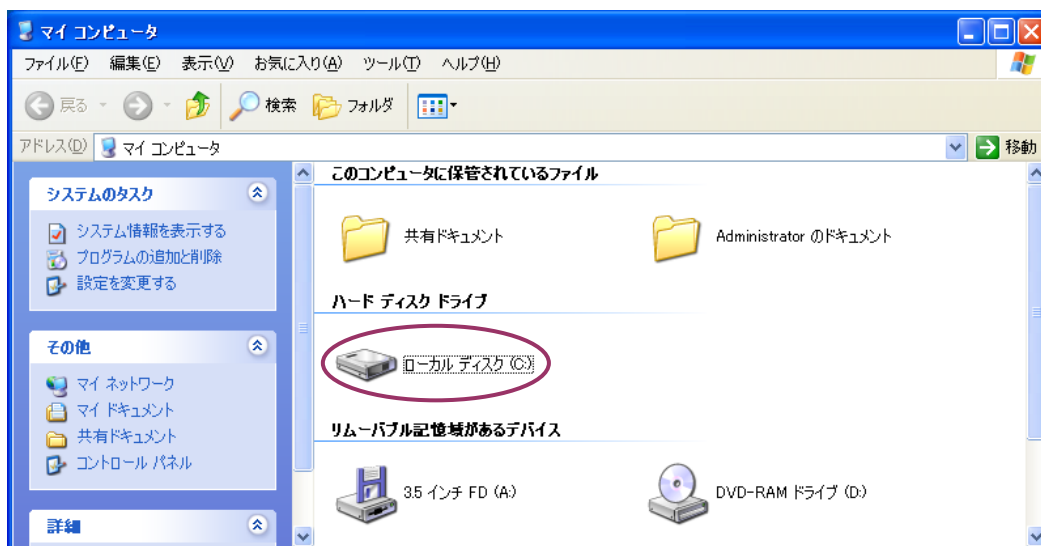


新しく作成したデータベースの確認は、以下の手順で行います。

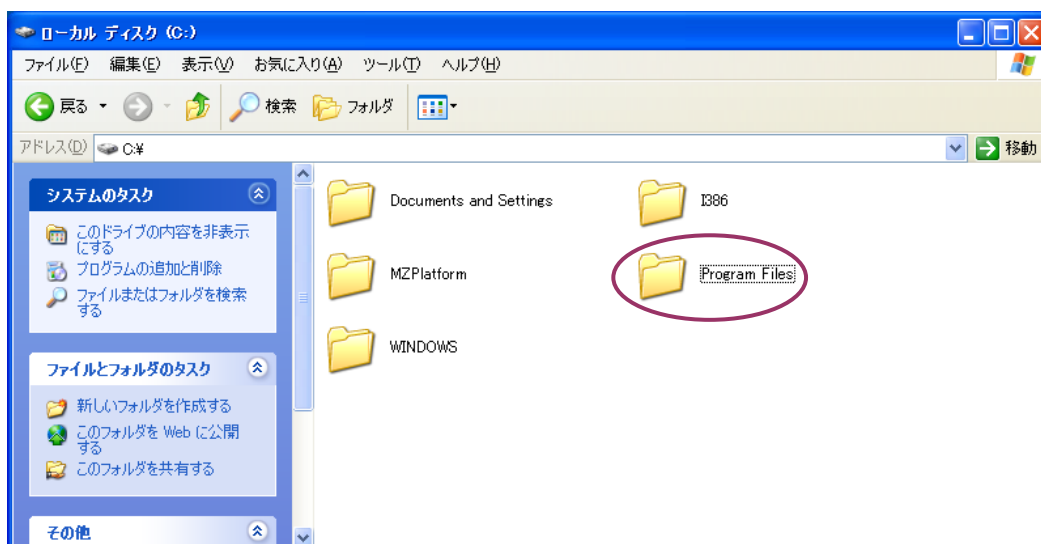
「スタート」→「マイコンピュータ」とたどり、左クリックします。



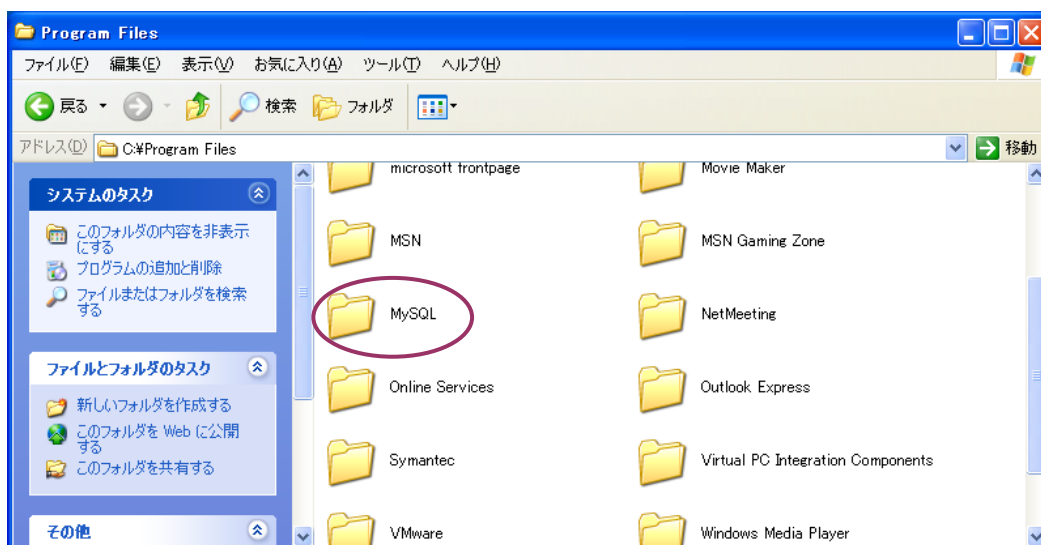
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。「ローカルディスク(C:)」アイコンをダブルクリックします。



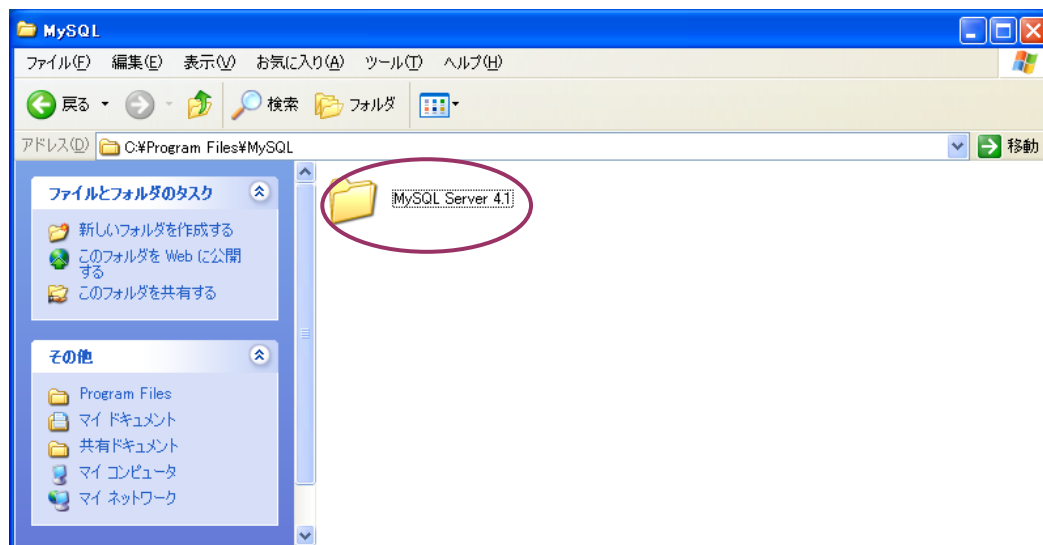
「ローカルディスク(C:)」が表示されます。「Program Files」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



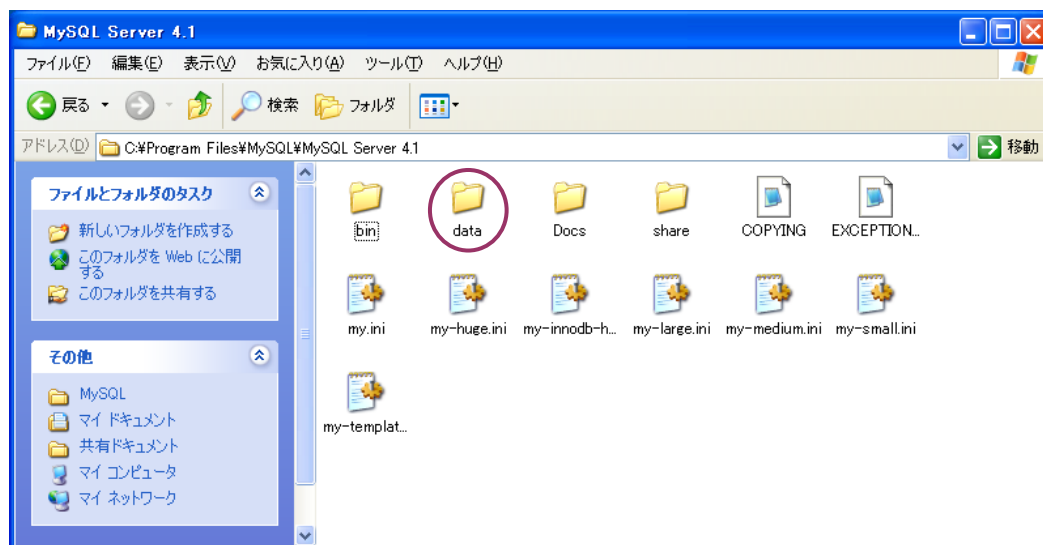
「Program Files」フォルダが表示されます。「MySQL」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



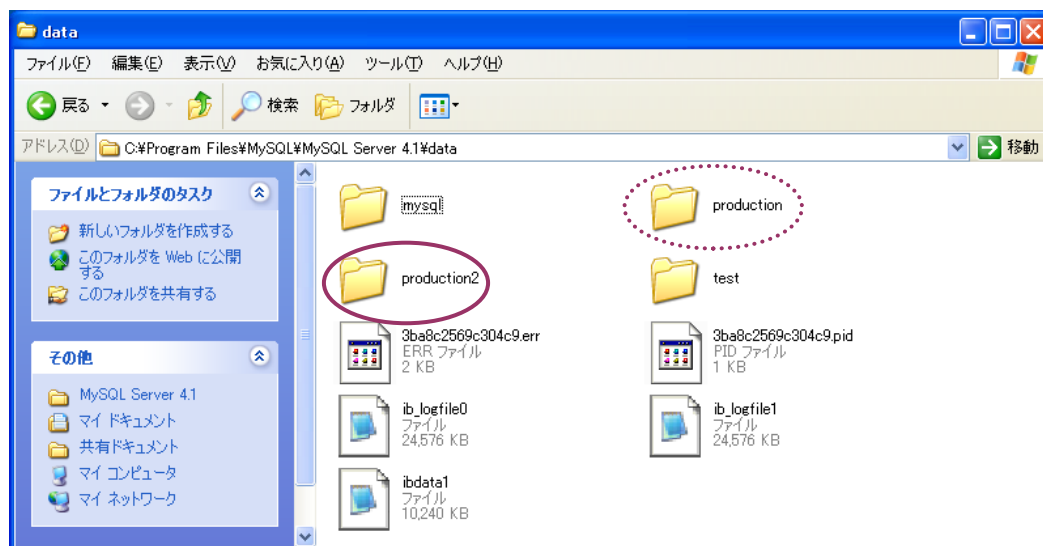
「MySQL」フォルダが表示されます。「MySQL Server 4.1」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



「MySQL Server 4.1」フォルダが表示されます。「data」フォルダのアイコンをダブルクリックします。

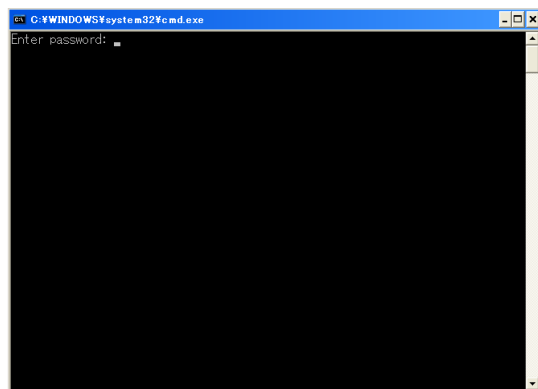


「data」ダイアログが表示されます。「production2」フォルダが作成されているのが確認できます。



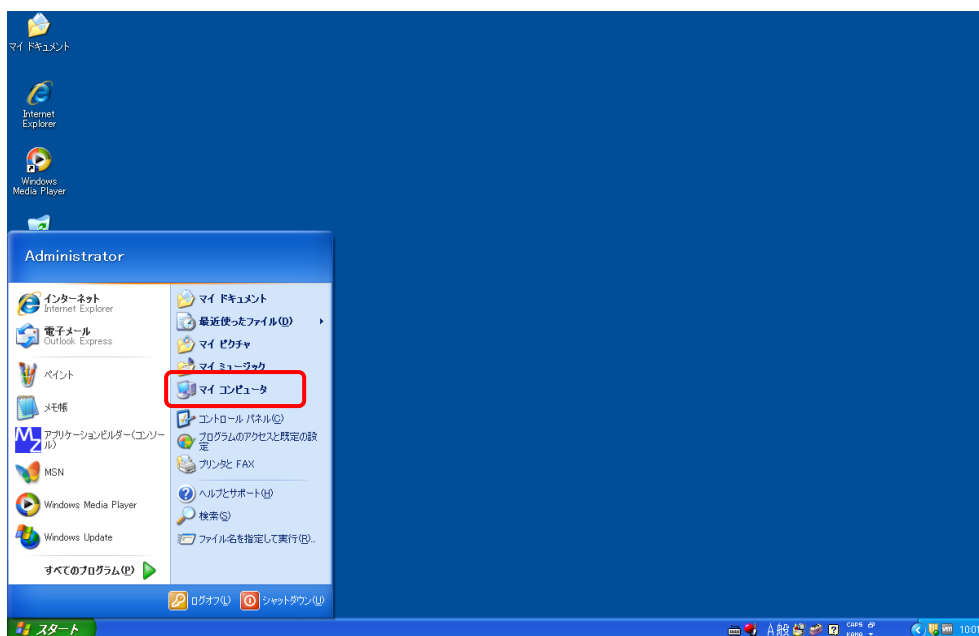
③ MySQL5.0.x をご利用の場合

「dbsetup50.bat」ファイルを左ダブルクリックで開くと、以下の画面が表示されます。MySQL のインストール時に設定したパスワードを入力し、[Enter]キーを押します。

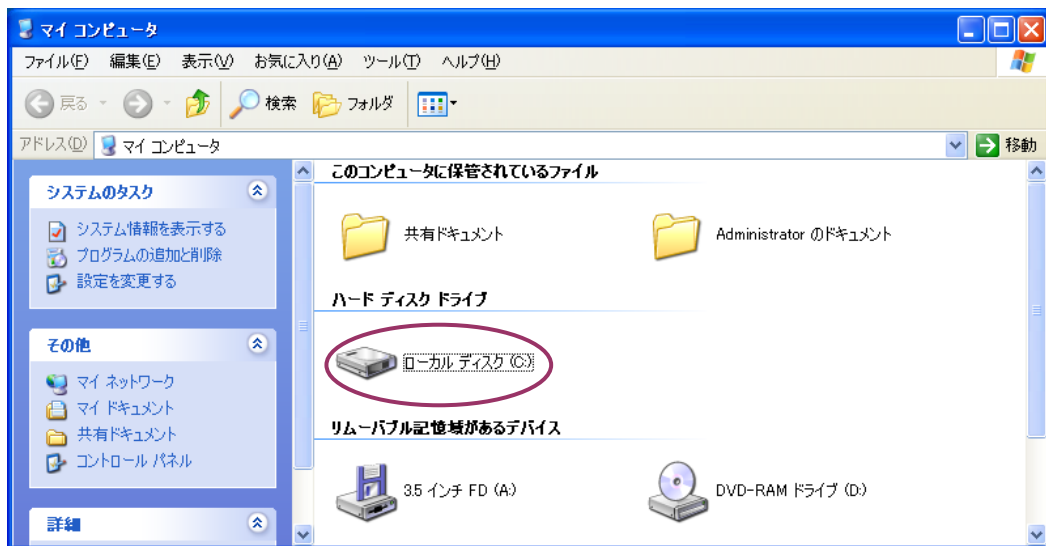


新しく作成したデータベースの確認は、以下の手順で行います。

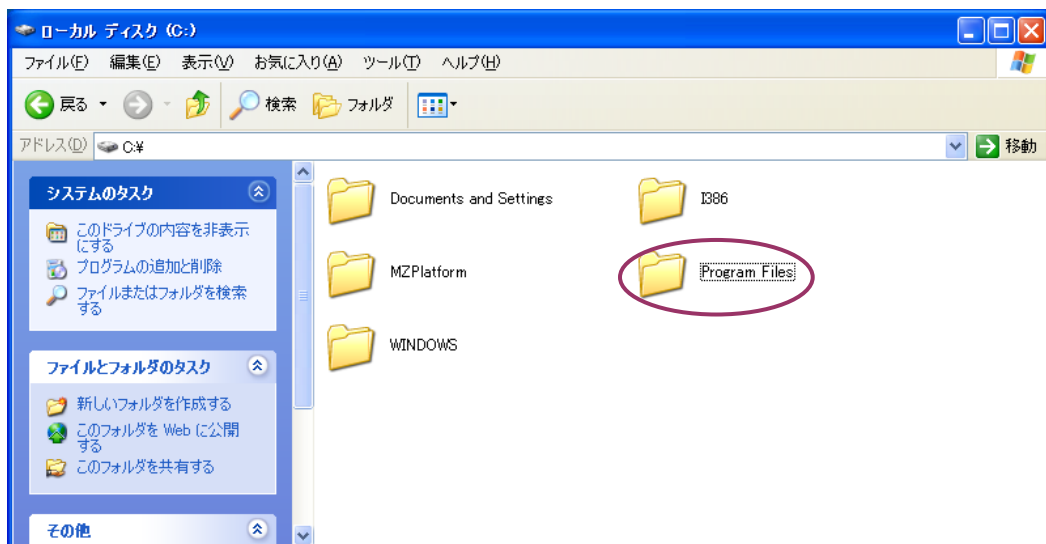
「スタート」→「マイコンピュータ」とたどり、左クリックします。



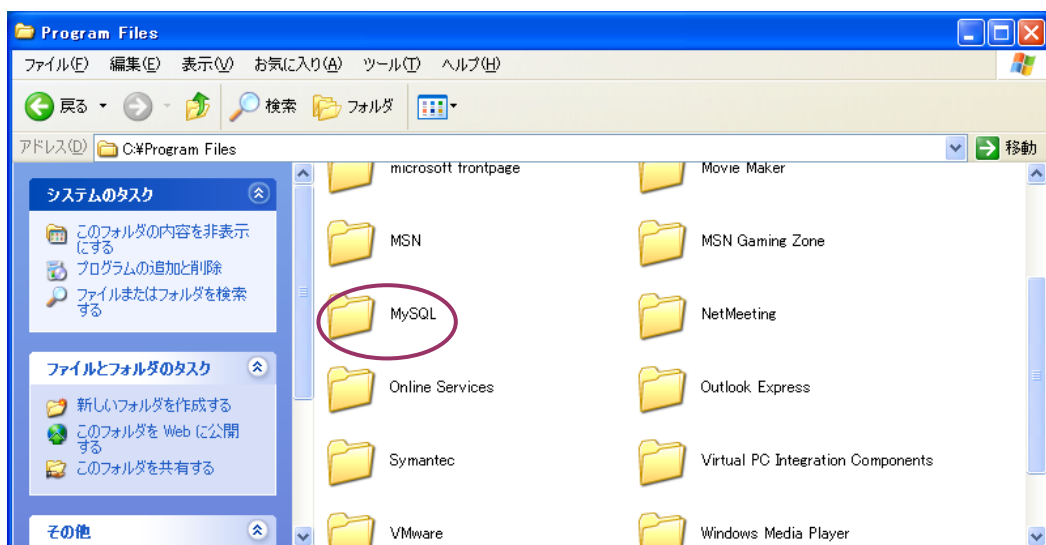
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。「ローカルディスク(C:)」アイコンをダブルクリックします。



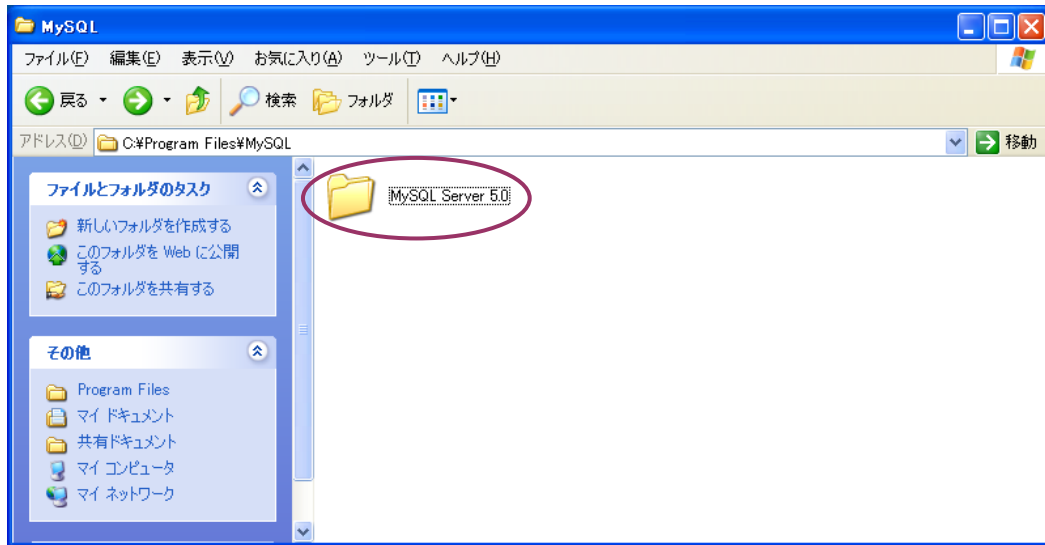
「ローカルディスク (C:)」が表示されます。「Program Files」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



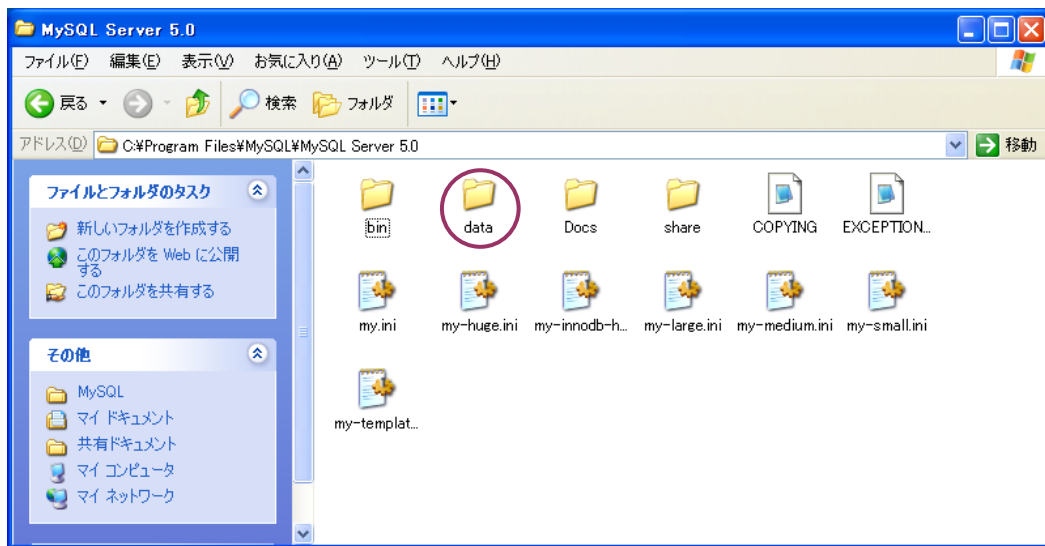
「Program Files」フォルダが表示されます。「MySQL」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



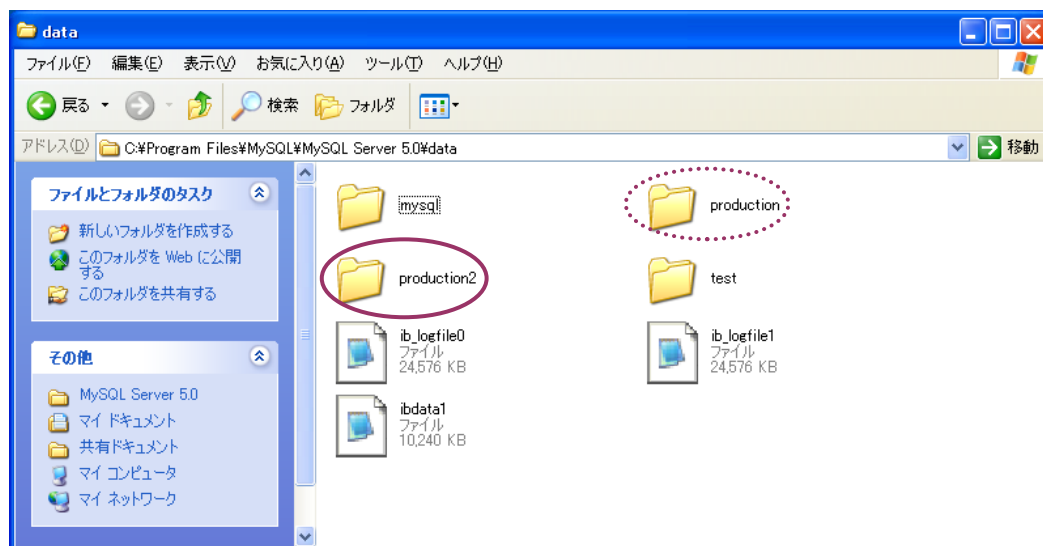
「MySQL」フォルダが表示されます。「MySQL Server 5.0」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



「MySQL Server 5.0」ダイアログが表示されます。「data」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



「data」ダイアログが表示されます。「production2」フォルダが作成されているのが確認できます。



※※補足※※

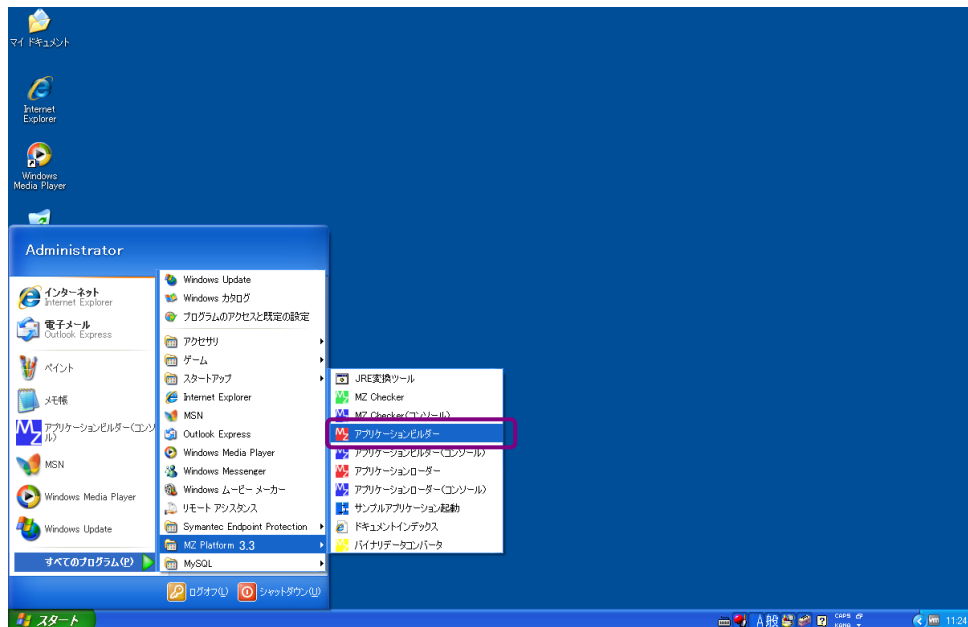
- Production : 工程管理のサンプルデータが入っているフォルダ
- Production2 : これから作る工程管理データを保存するためのフォルダ

第2章 工程管理システム操作

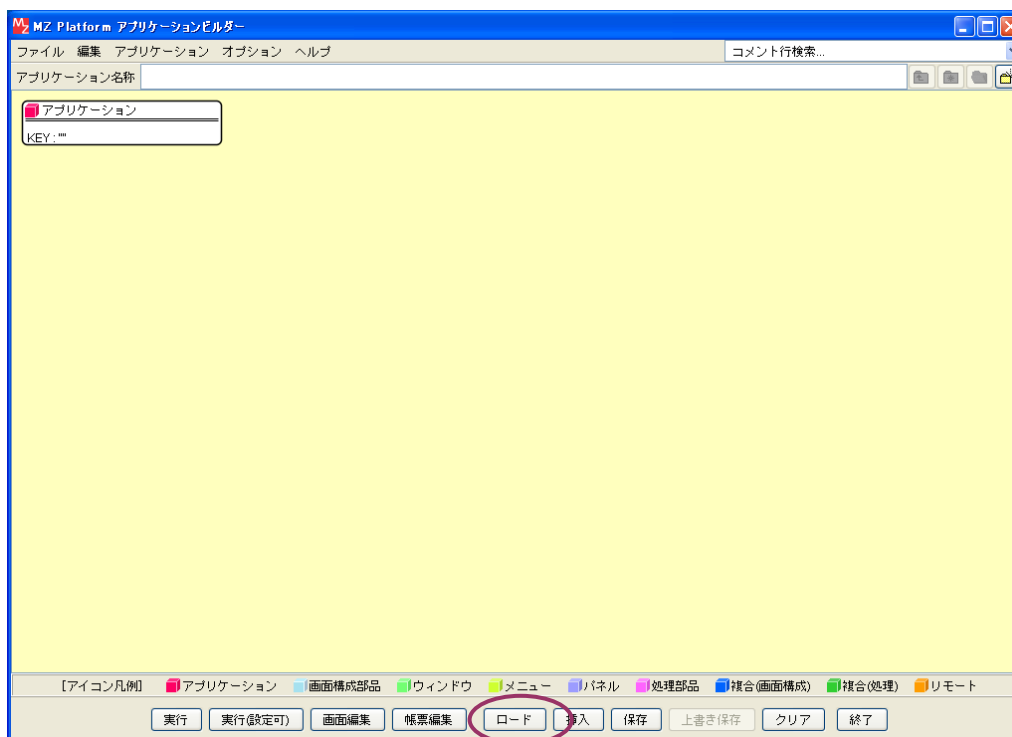
(サンプルデータの工程管理データ保存用フォルダへのコピー)

2-1 使用するファイルのロードと実行

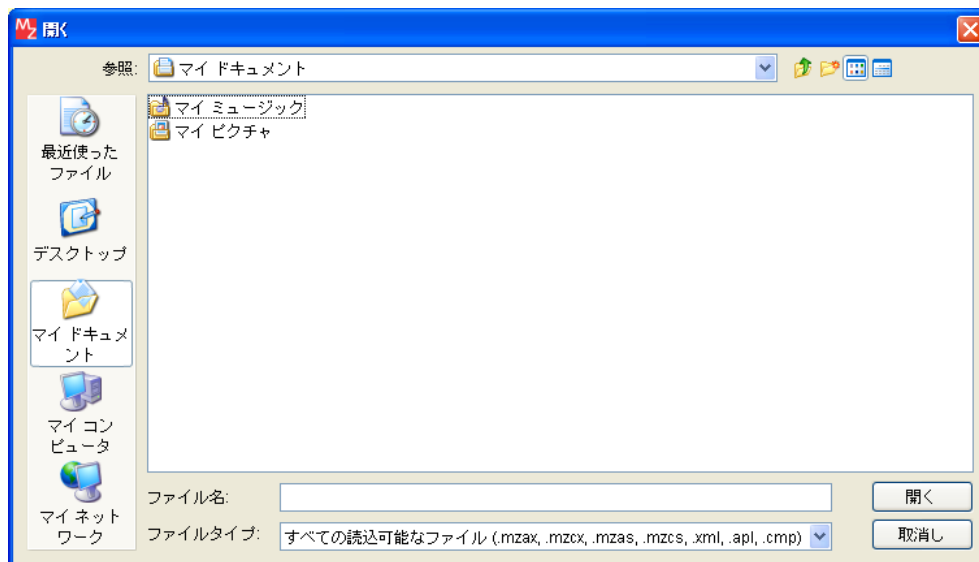
「スタート」→「すべてのプログラム(P)」→[MZ Platform 3.3]→「アプリケーション ビルダ」
とたどり、左クリックします。



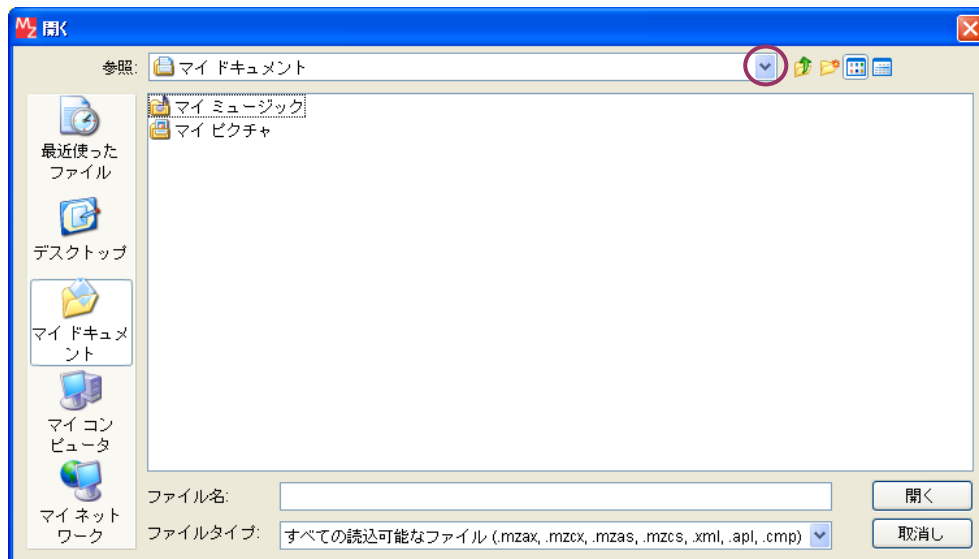
以下の画面が表示されたら、[ロード]ボタンを左クリックします。



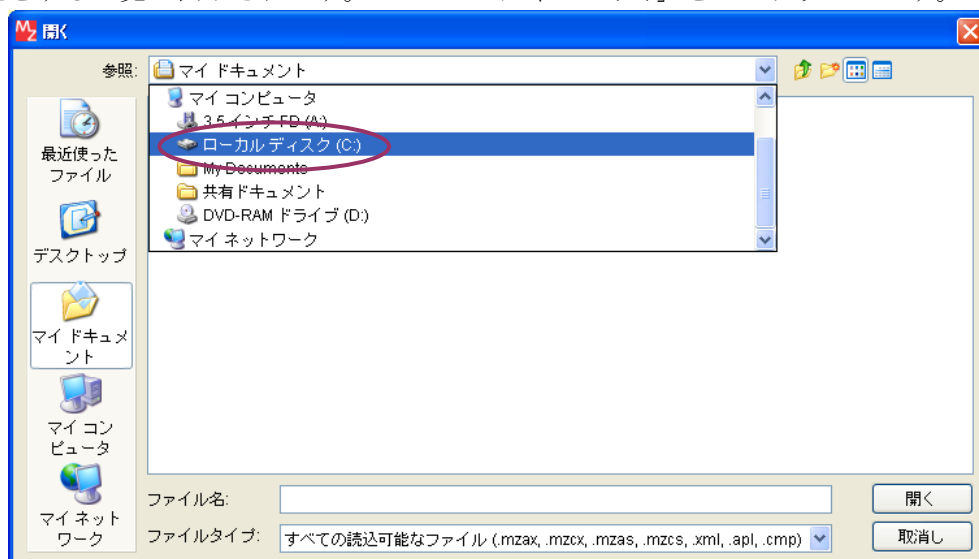
「開く」ダイアログが表示されます。



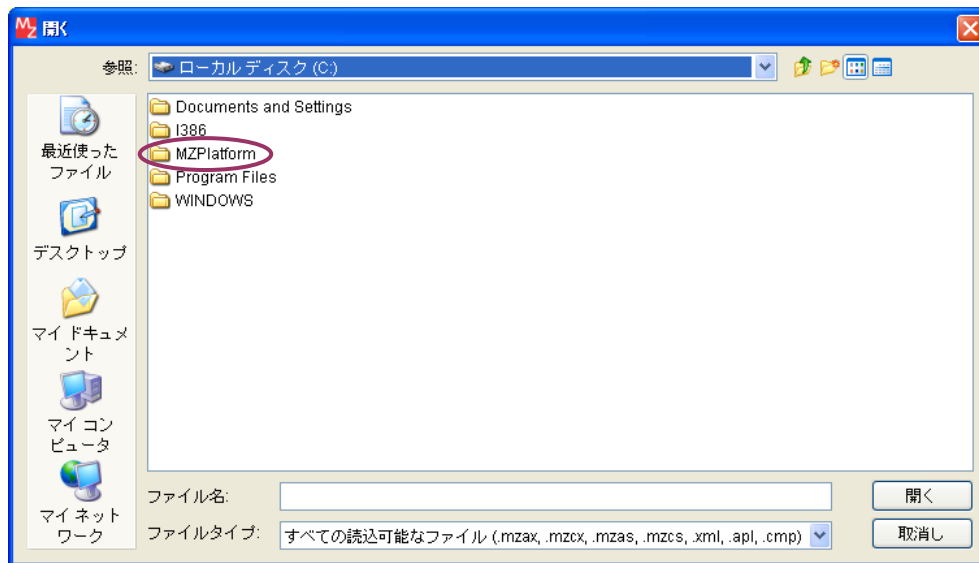
「ProductionControl.mzax」ファイルのある場所を指定します。「参照:」右隣にあるボックスの[v]を左クリックします。



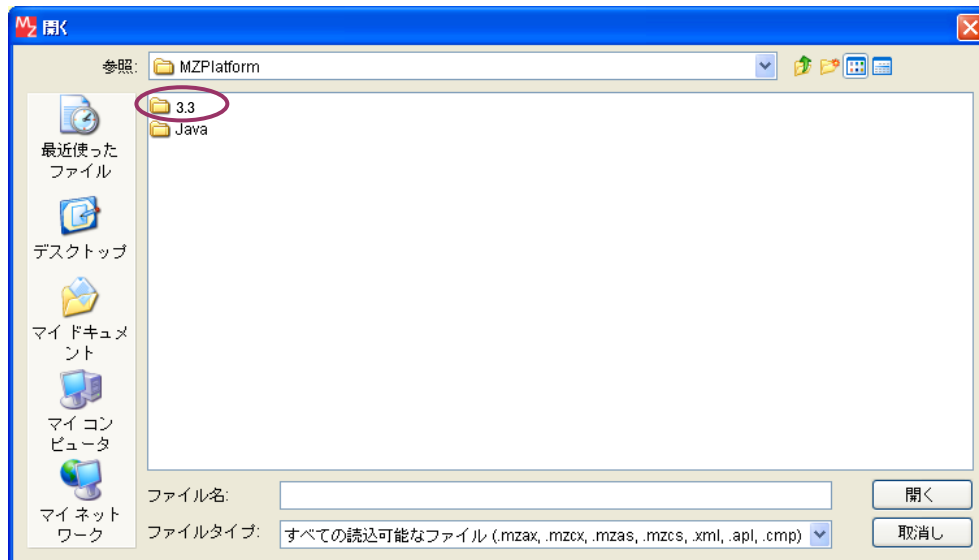
場所指定をする一覧が表示されます。「ローカルディスク(C:)」を左クリックします。



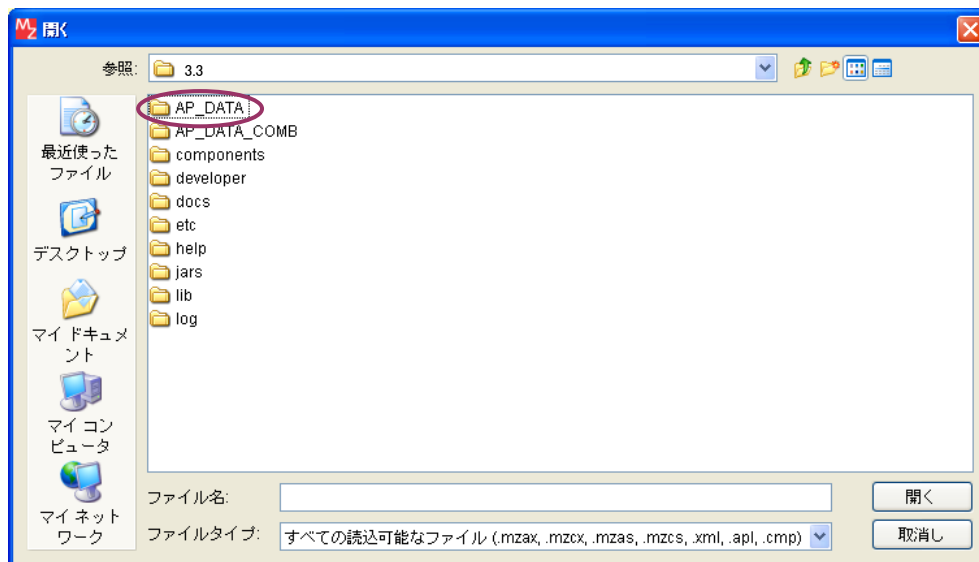
「MZPlatform」フォルダをダブルクリックします。



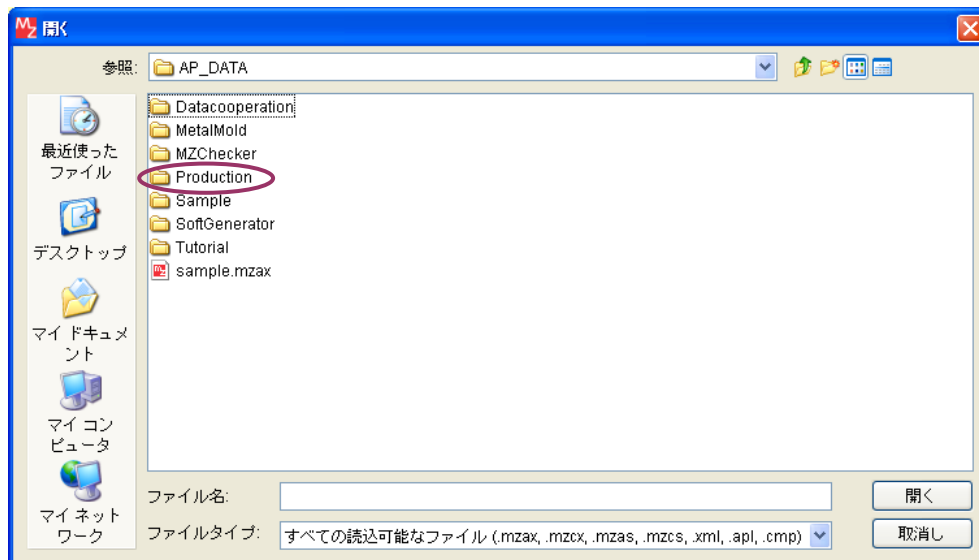
「3.3」フォルダをダブルクリックします。



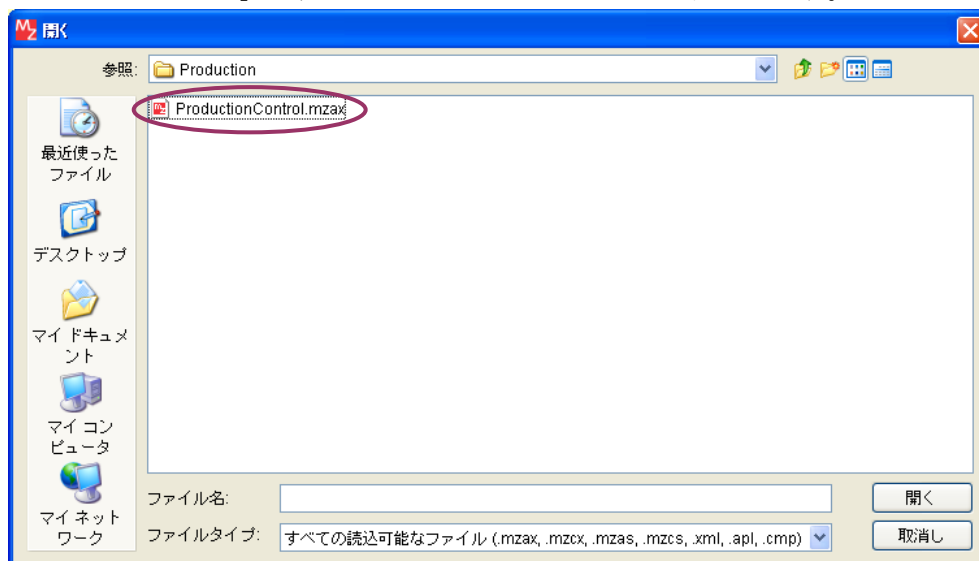
「AP_DATA」フォルダをダブルクリックします。



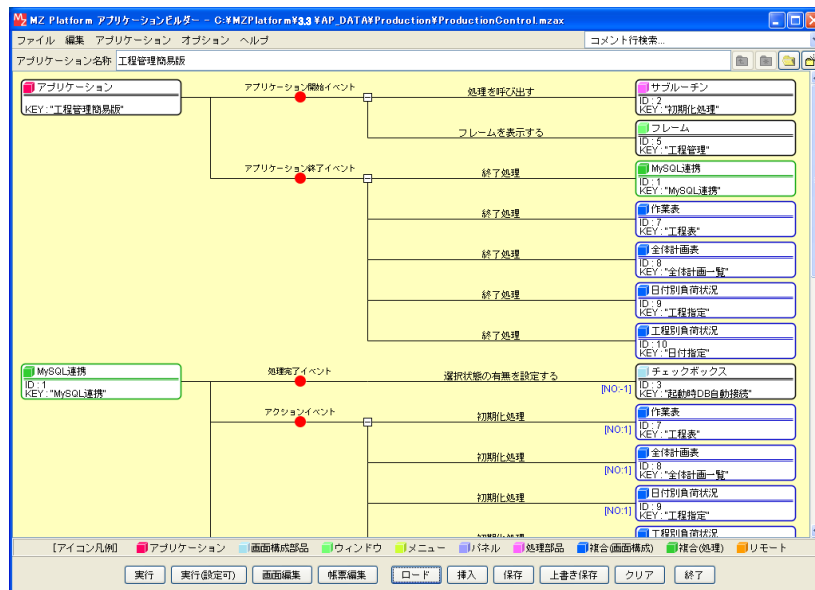
「Production」フォルダをダブルクリックします。



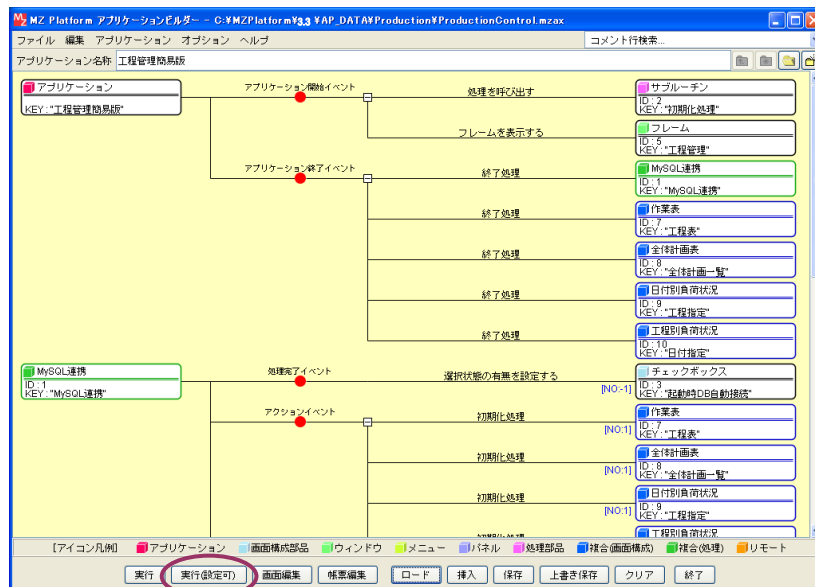
「ProductionControl.mzax」ファイルのアイコンをダブルクリックします。



ファイルの情報が読み込まれ、以下の接続画面を確認できます。



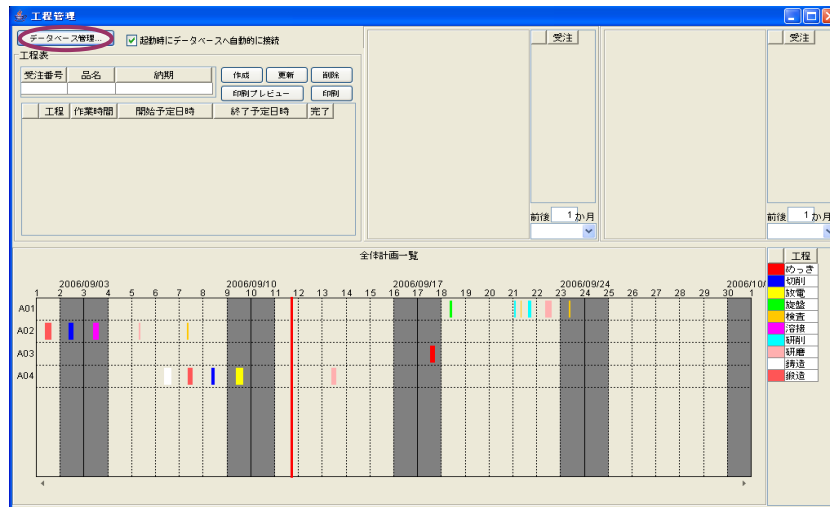
[実行(設定可)]ボタンを左クリックします。



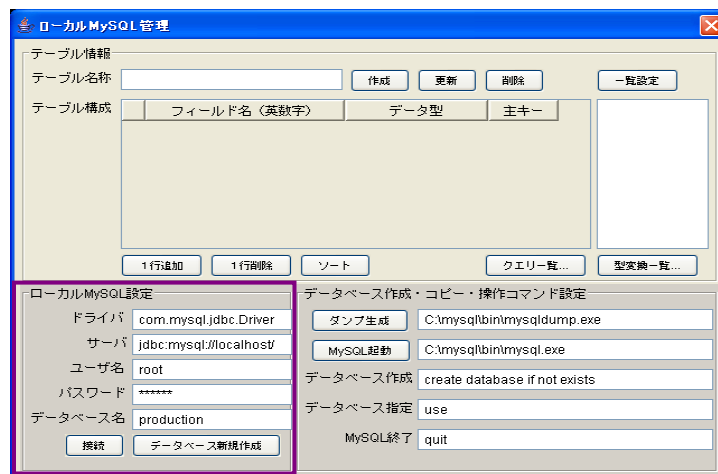
「工程管理」画面が表示されます。

2-2 接続先データベースの切り替え

「2-1 使用するファイルのロードと実行」(P. 21) の操作により、「工程管理」画面を表示します。
[データベース管理...]ボタンを左クリックします。



「ローカル MySQL 管理」画面が表示されます。画面左下部に「ローカル MySQL 設定」欄があります。

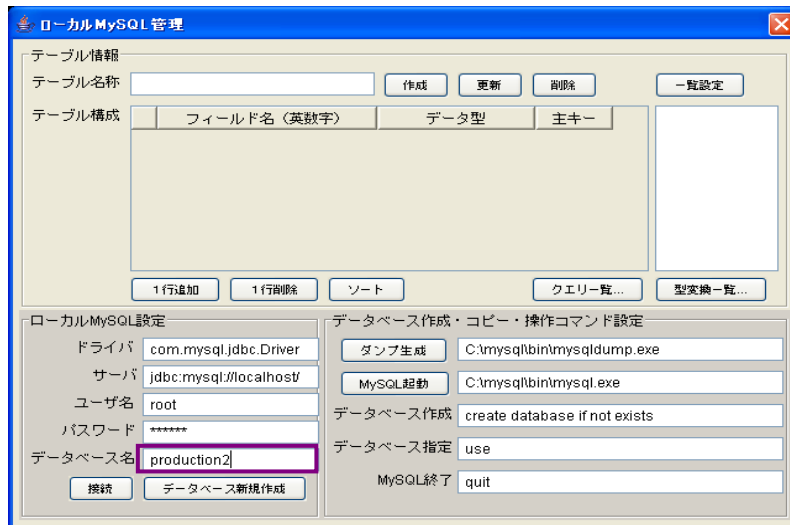


欄内の5行目に、「データベース名」項目があります。



項目名右隣のテキストボックスに、「production」の記述があります。これは、データベース「production」に接続して、このデータベースを使用していることを示します。

データベース名を、これから使用するデータベースの名前（例えば「production2」）に書き換えます。



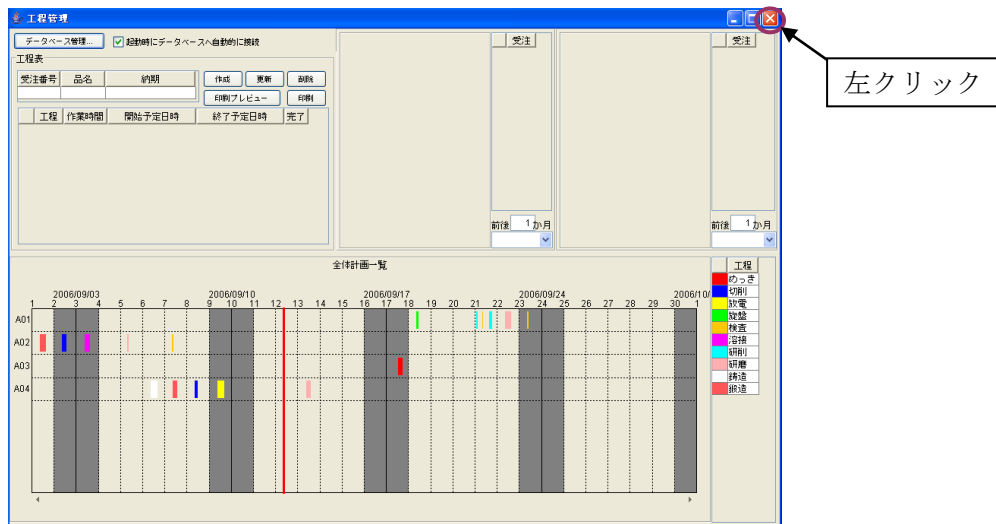
[接続]ボタンを左クリックします。



「×」ボタンを左クリックし、「ローカル MySQL 管理」画面を閉じます。

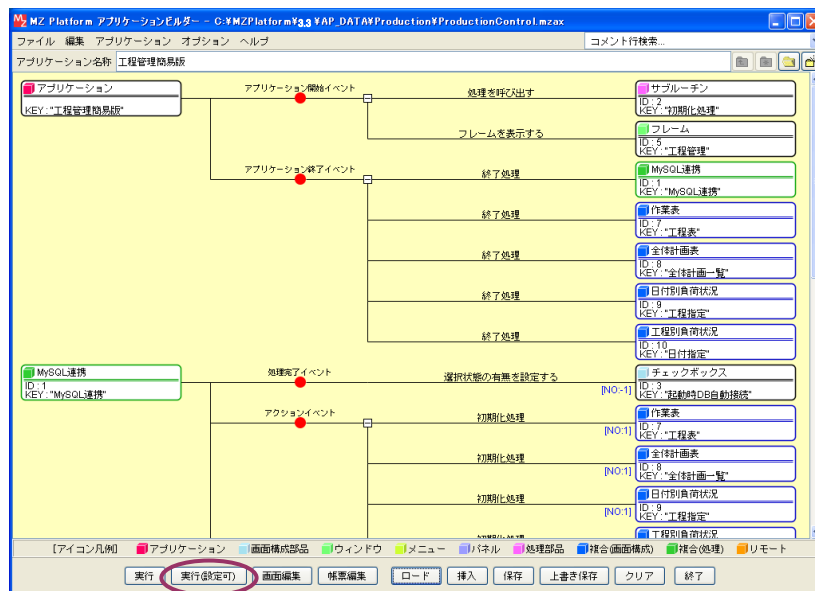


「×」ボタンを左クリックし、「工程管理」画面を閉じます。



「アプリケーションビルダー」画面で[上書き保存]ボタンを左クリックすると、設定した内容が保存されます。

[実行(設定可)]ボタンを左クリックすると、起動した工程管理の画面に「production2」データベースの内容が表示され、接続先が切り替わったことが確認できます。

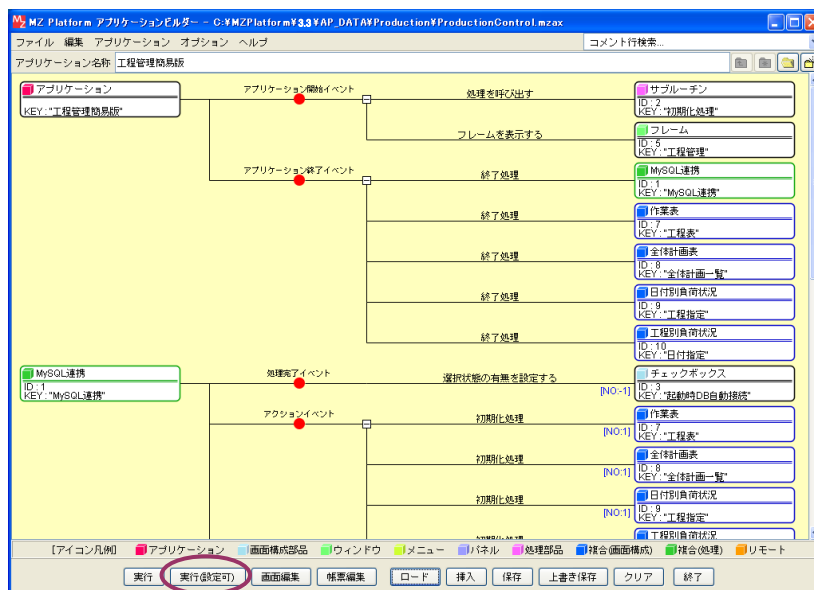


次章では、「production2」データベースに対するデータ修正、データ追加、データ削除の操作方法を説明していきます。

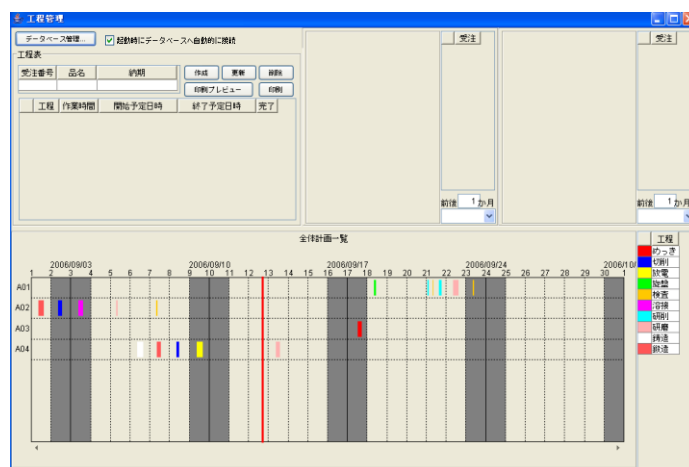
第3章 独自の工程管理データ作成

3-1 サンプルデータの修正によるデータ作成

「ProductionControl.mzax」 ファイルをロードします（操作手順は P. 21）。「アプリケーションビルダー」画面上の[実行(設定可)]ボタンを左クリックします。



「工程管理」画面が表示されます。



〔受注番号〕項目の下部に空白セルがあります。左クリックします。

[illegible]

④ 工程管理

データベース管理...
☒ 起動時にデータベースへ自動的に接続

受注管理
受注書表
受注番号
品名
納期
作成
更新
削除
印刷プレビュー
印刷

工程
作業時間
開始予定日時
終了予定日時
完了

前戻
1 か月

受注

前戻
1 か月

全体計画一覧

工程	タスク	作業時間	開始予定日時	終了予定日時
A01	タスク1	2006/09/03 - 2006/09/08	2006/09/03	2006/09/08
A01	タスク2	2006/09/10 - 2006/09/11	2006/09/10	2006/09/11
A02	タスク3	2006/09/03 - 2006/09/04	2006/09/03	2006/09/04
A02	タスク4	2006/09/07 - 2006/09/08	2006/09/07	2006/09/08
A03	タスク5	2006/09/17 - 2006/09/18	2006/09/17	2006/09/18
A04	タスク6	2006/09/10 - 2006/09/11	2006/09/10	2006/09/11
A04	タスク7	2006/09/14 - 2006/09/15	2006/09/14	2006/09/15

4 30

工程管理

データベース管理 ☒ 起動時にデータベースへ自動的に接続

工程表

受注番号	品名	納期	作成	更新	削除
104			印刷プレビュー	印刷	

工程 作業時間 開始予定日時 終了予定日時 完了

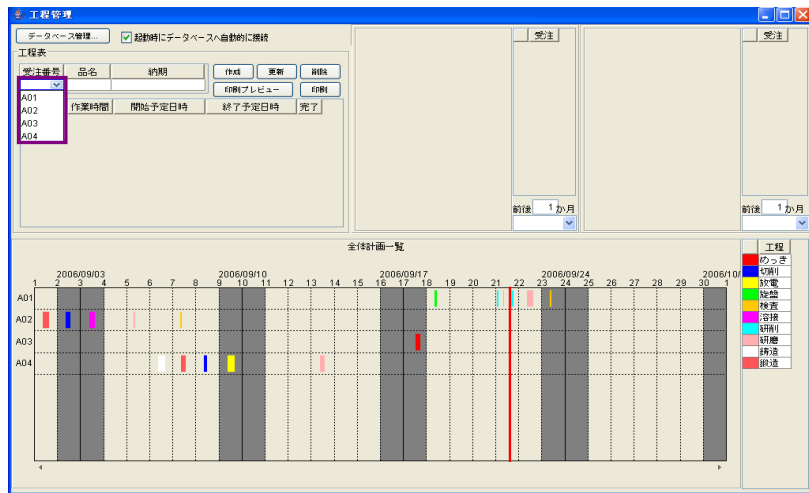
前日 1ヵ月

全工程計画一覧

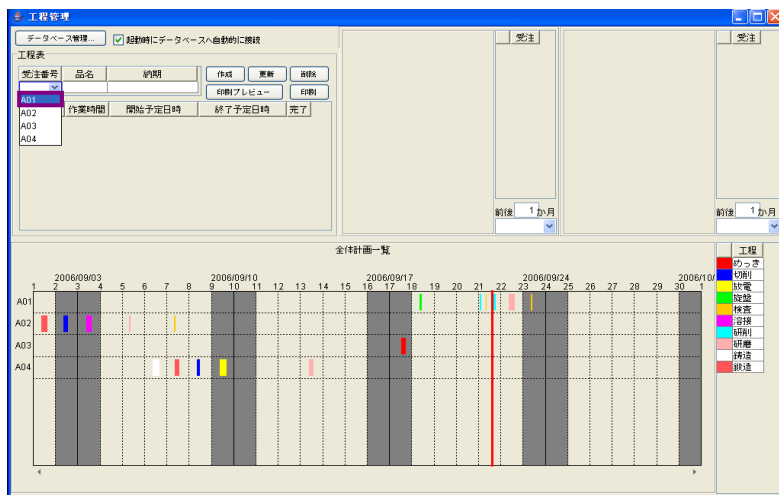
Legend:

- 工程 (Engineering)
- のっぎ (Nogiki)
- 印刷 (Printing)
- 仕電 (Shiden)
- 治具 (Jigu)
- 検査 (Kensa)
- 治具 (Jigu)
- 印刷 (Printing)
- 研磨 (Rinpa)
- 検査 (Kensa)
- 組立 (Kusuri)

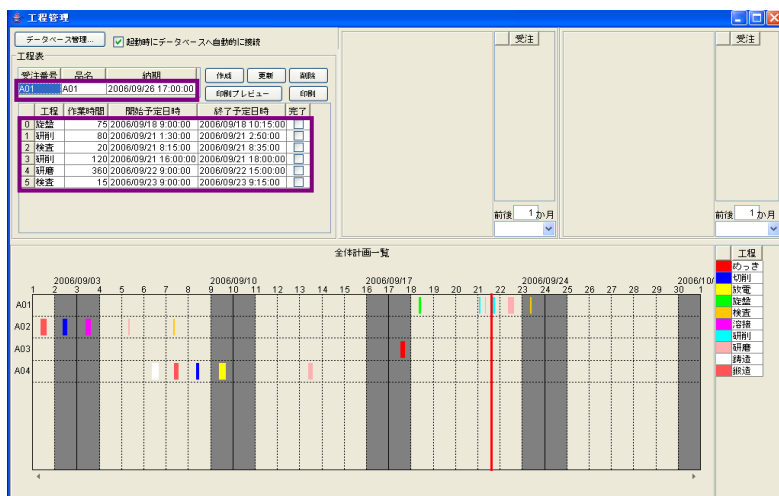
受注番号一覧が表示されます。



一覧に表示されている受注番号の1つを選択します。受注番号上にマウスポインタを移動し、左クリックします（例えば、【A01】上で左クリック）。

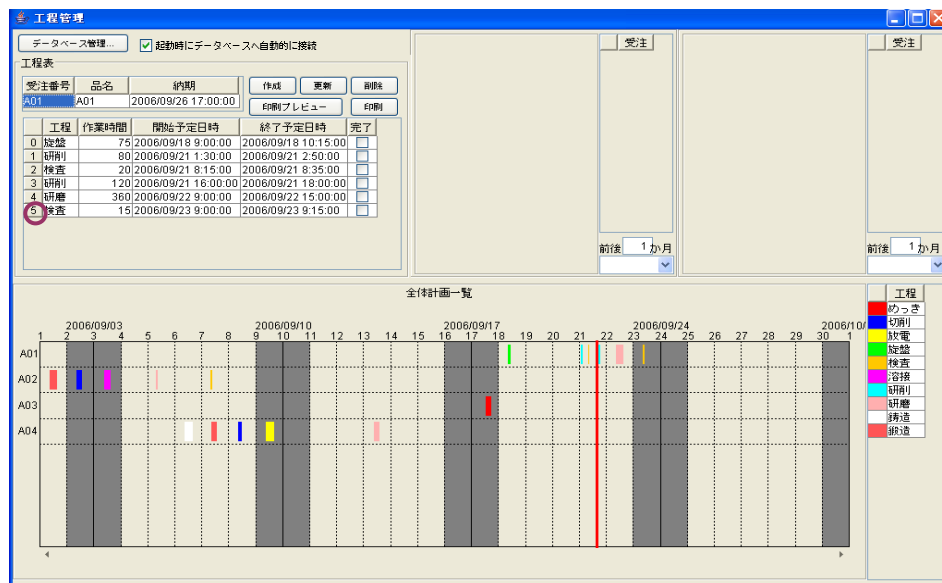


「受注情報表」、「工程指示表」に【A01】の内容が表示されます。

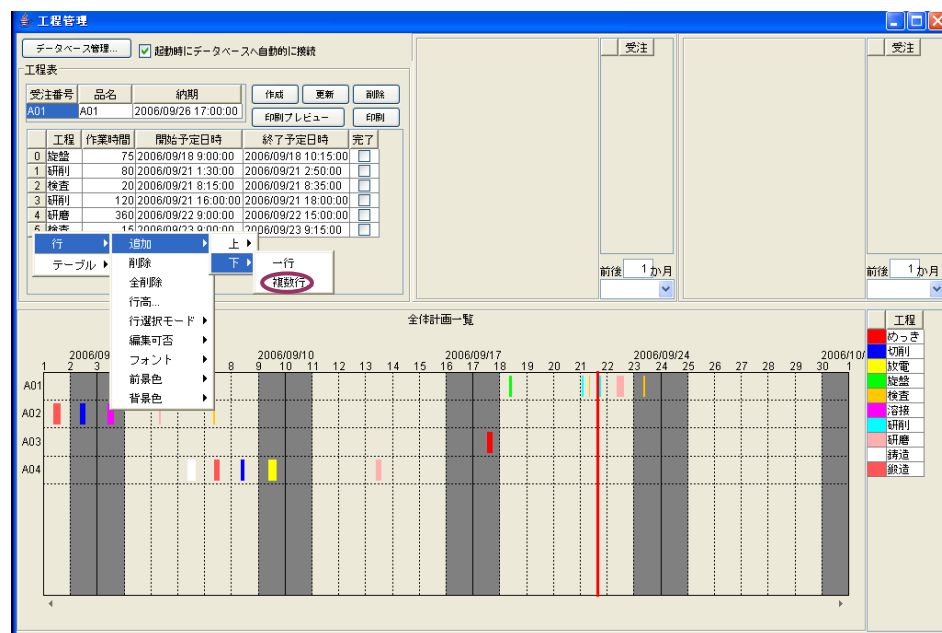


3-1-2 行の追加

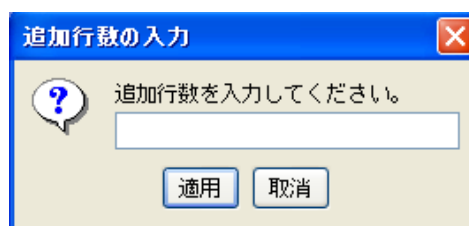
「工程指示表」の「工程」項目左隣に番号があります。任意の番号上にマウスポインタを移動し、右クリックします（受注番号の選択方法は、P. 32 を参照）。



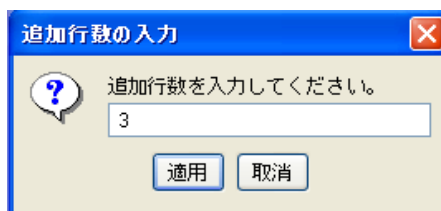
ポップアップメニューが表示されます。一覧から、「行」→「追加」→(「上」または「下」)→(「一行」または「複数行...」)とたどり、左クリックします。下図の例では、「行」→「追加」→「下」→「複数行...」とたどり、左クリックしています。



「追加行数の入力」ダイアログボックスが表示されます。

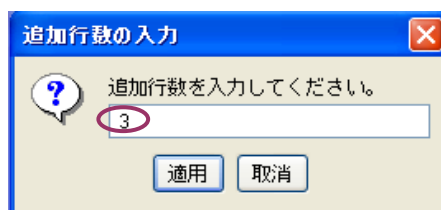


追加する行数を入力します。例えば、3行追加する時には「3」を入力します。



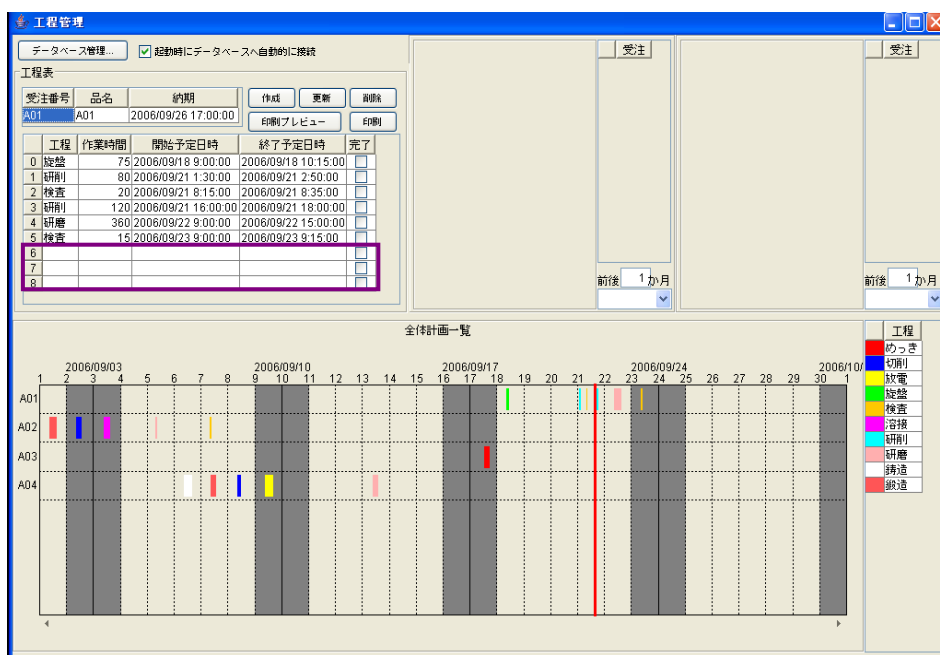
A dialog box titled "追加行数の入力" (Input of number of rows to be added). It contains a question mark icon, the text "追加行数を入力してください。" (Please input the number of rows to be added.), a text input field containing the number "3", and two buttons: "適用" (Apply) and "取消" (Cancel).

[適用]ボタンを左クリックします。



A dialog box titled "追加行数の入力" (Input of number of rows to be added). It contains a question mark icon, the text "追加行数を入力してください。" (Please input the number of rows to be added.), a text input field containing the number "3" which is circled in red, and two buttons: "適用" (Apply) and "取消" (Cancel).

「工程指示表」に3行追加されたことが確認できます。(行番号 6～8)

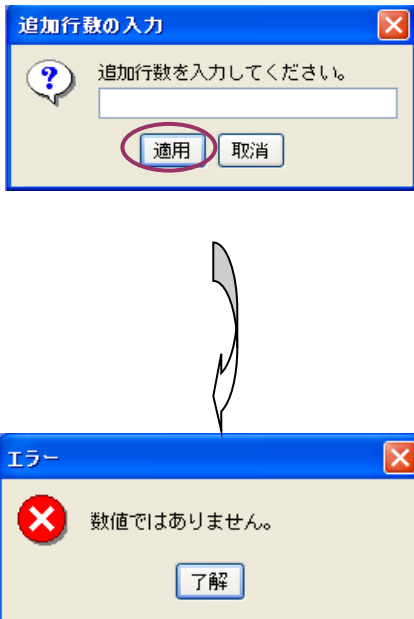
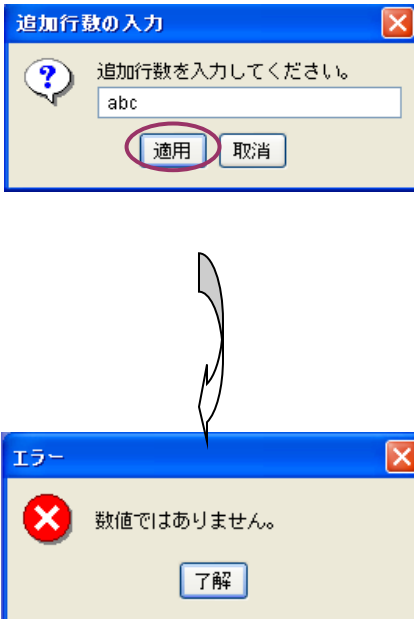


！！注意事項！！

「追加行数の入力」ダイアログボックスのテキストエリア内に行数を入力せずに[適用]ボタンを左クリックした場合、エラーメッセージが表示されます。また、数値以外の文字列を入力した場合も同じエラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージが表示された場合には、いったん[了解]ボタンを左クリックします。その後、前頁からの操作をもう一度行って下さい。

☆具体例☆

空白状態	数値以外の文字列(例えば、abc)を入力
	

補足

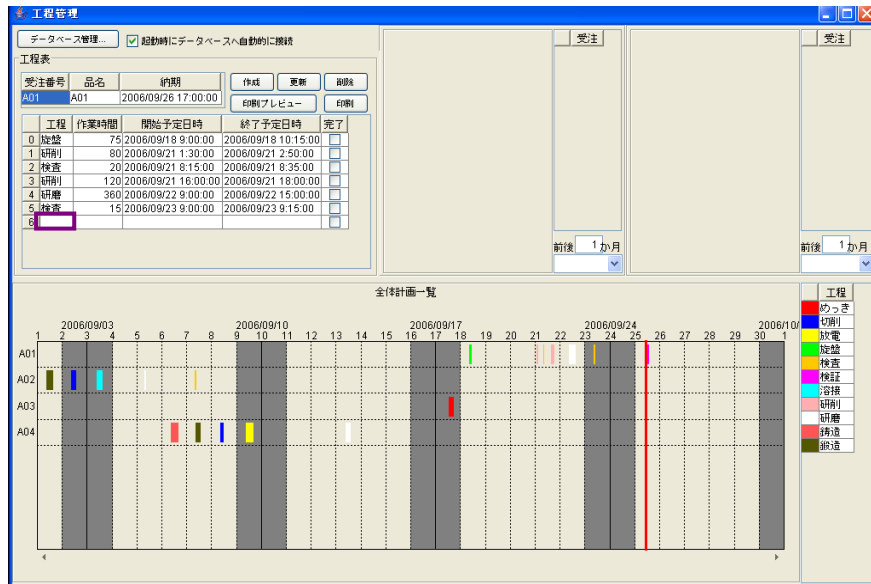
「工程指示表」の行番号の表示が【1】ではなく、【0】から始まっています。その理由は、プログラムの世界では一番最初は0から数え始めるからです。

3-1-3 追加した行へのデータ登録

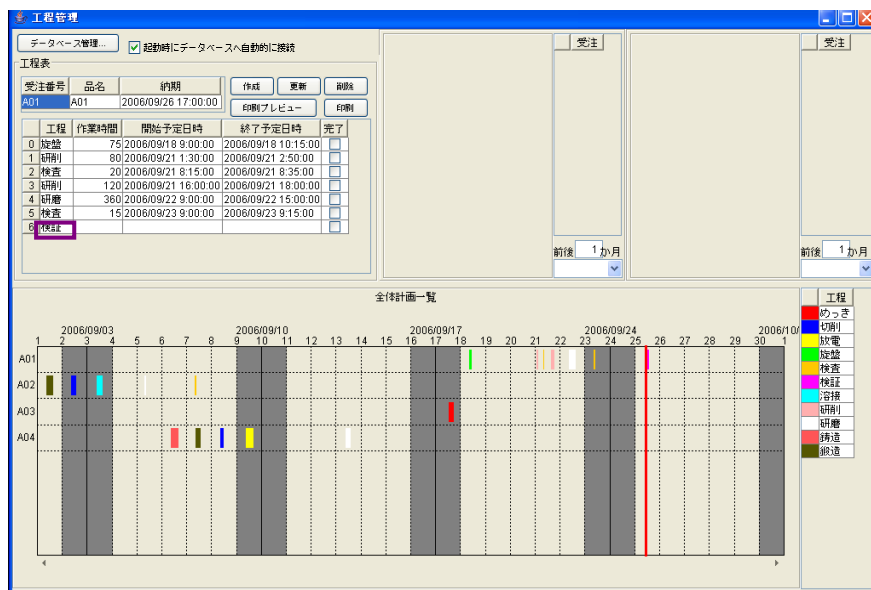
(サンプルでは【A01】～【A04】が登録済み)

〈工程の登録〉

全角文字を入力する場合、空白セルをダブルクリックします。ダブルクリックしないと、セルにデータが入力されません。入力文字が半角英数字の場合は、セルをダブルクリックする必要はありません。



データを入力します (データ例: 検証)。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

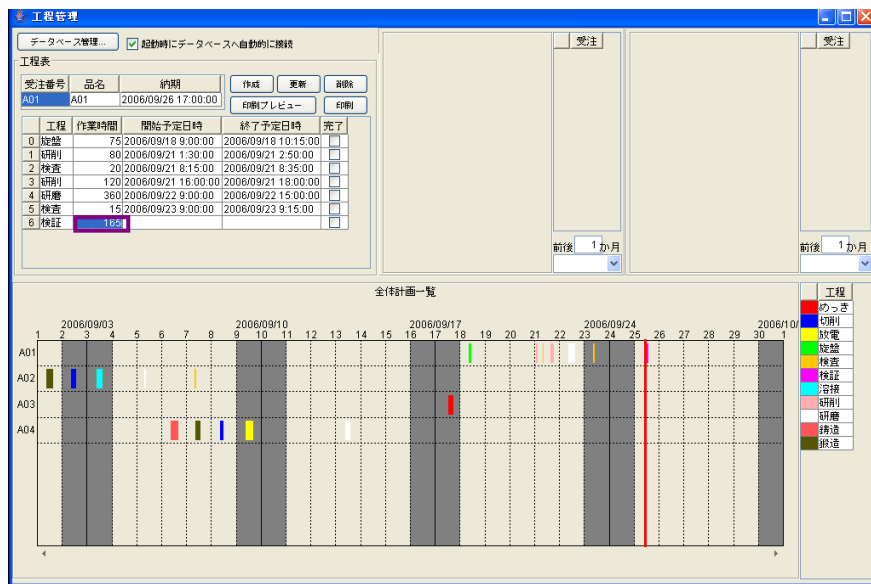


〈作業時間の登録〉

作業時間の入力は、半角文字で入力します。「半角／全角」ボタンを押して、半角英数字モードに切り替えます。これで「作業時間」項目のセルは、ダブルクリックをする必要がなくなります。

半角／
全角

「作業時間」項目のセルヘデータをを入力します。

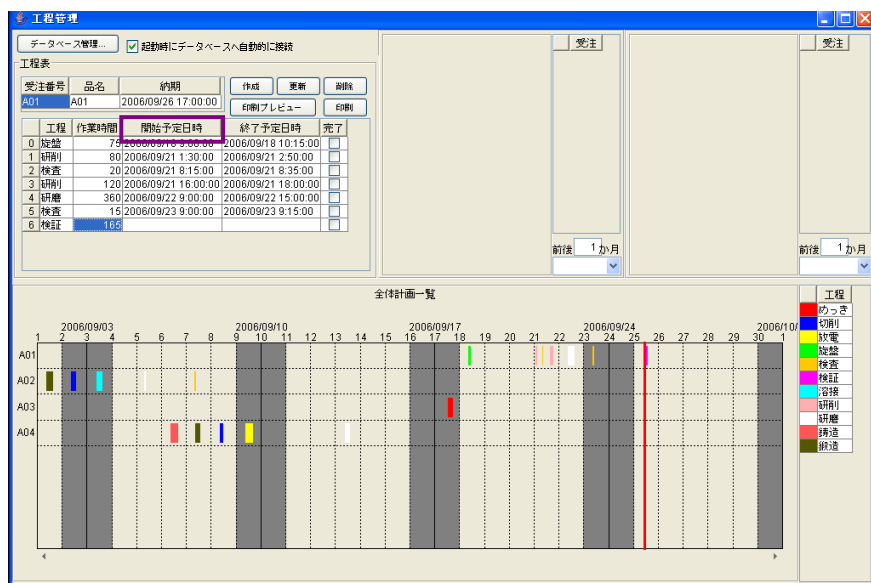


！！注意事項！！

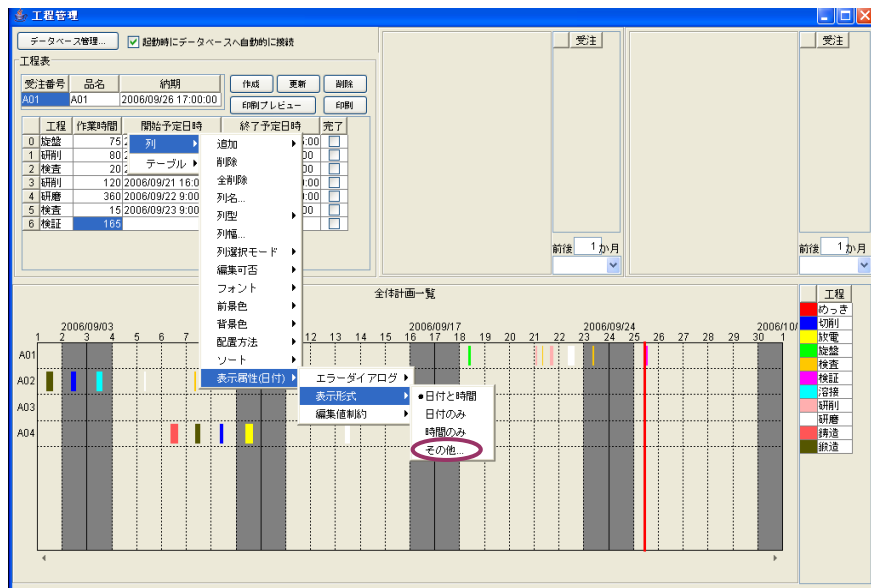
- (1) 「作業時間」を省略することはできません。
- (2) 「作業時間」の単位は〔分〕に設定されています。
入力データは、〔分〕単位に換算して行います。
例えば、1 時間なら 60、2 時間 15 分なら 135 と入力します。

〈開始予定日時の登録〉

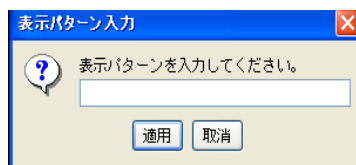
既定の設定では、〔秒〕単位まで入力するになっています。〔分〕単位までの入力に設定を変更します。「開始予定日時」項目上にマウスポインタを移動し、右クリックします。



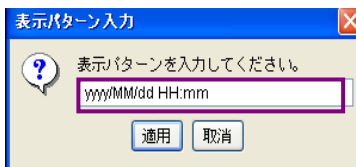
ポップアップメニューが表示されます。「列」→「表示属性(日付)」→「表示形式」→「その他..」とたどり、左クリックします。



「表示パターン入力」ダイアログが表示されます。



テキストボックスに表示形式 (yyyy/MM/dd△HH:mm) を入力します。

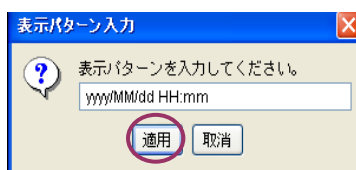


！！注意事項！！

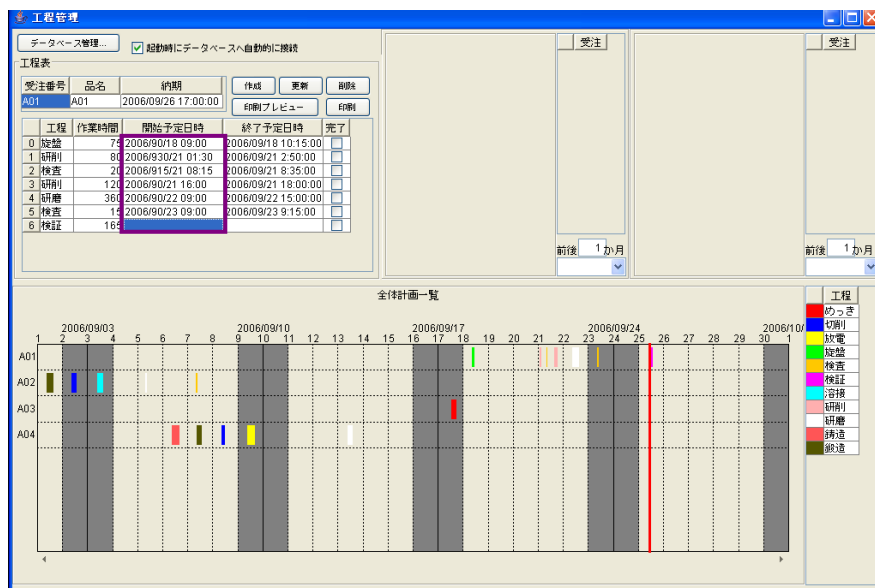
- (1) 表示形式の入力は半角で行います。
- (2) yyyy/の右隣の MM と HH の部分は、必ず大文字で入力します。
- (3) △部分は半角スペースを入力します。

yyyy は年(西暦 4 桁)、MM は月、dd は日、HH は時間、mm は分を表します。

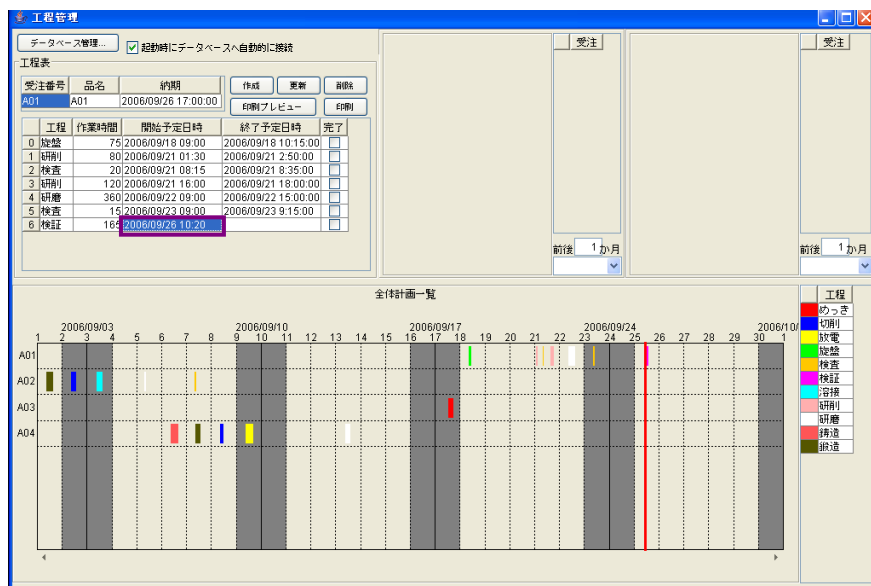
[適用]ボタンを左クリックします。



「開始予定日時」項目の書式が〔分〕単位に変更されたことが確認できます。(下図の囲んだ部分が自動で〔秒〕単位を省略した形式に変更されます。)



「開始予定日時」項目のセルにデータを入力します。例えば、2006年9月26日10時20分を入力するには「2006/9/26△10:20」と記入します。



！！注意事項！！

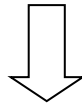
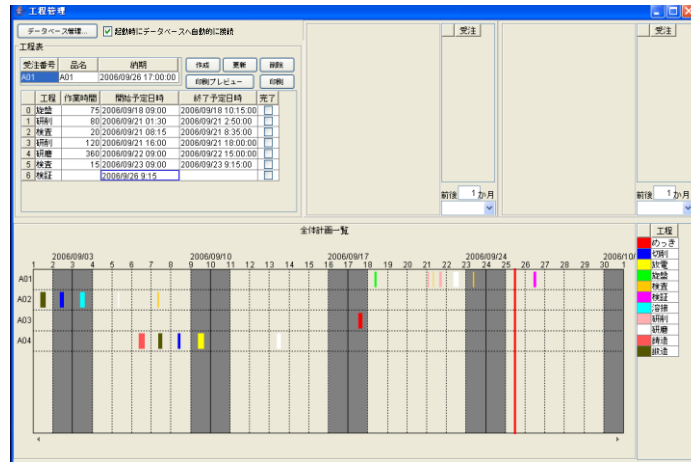
- (1) 日時データの入力は半角で行います。
- (2) △部分は、半角スペースを入力します。

「納期」、「終了予定日時」の書式設定方法も同じ手順で行います。

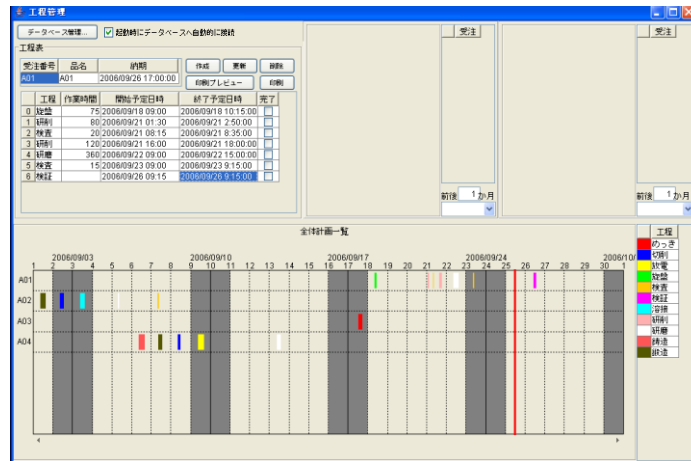
「開始予定日時」のデータを確定した時点で、「終了予定日時」は自動表示されます。

☆「作業時間」は省略不可☆

「作業時間」項目のセルを空白状態にすると、0〔分〕とみなされます。
 「作業時間」を空白、「開始予定日時」を 2006/9/26△9:15 と入力します。
 ※△部分は、半角スペースを入力する。

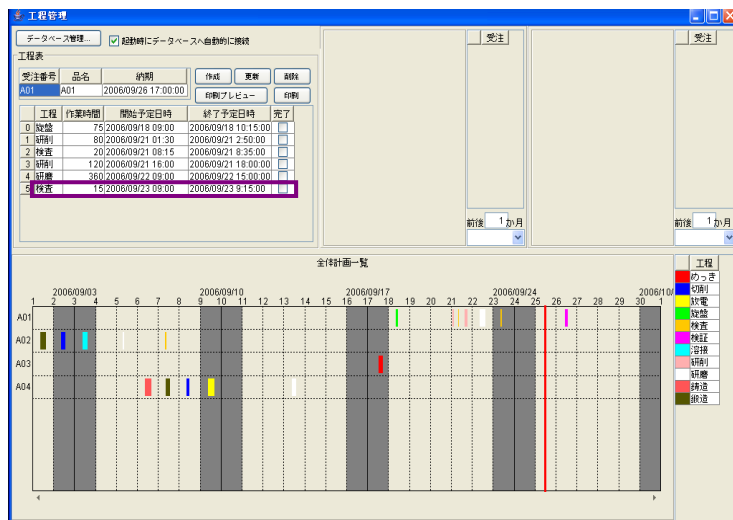


「終了予定日時」項目のセルに、2006/9/26△9:15:00 と表示されてしまいます。

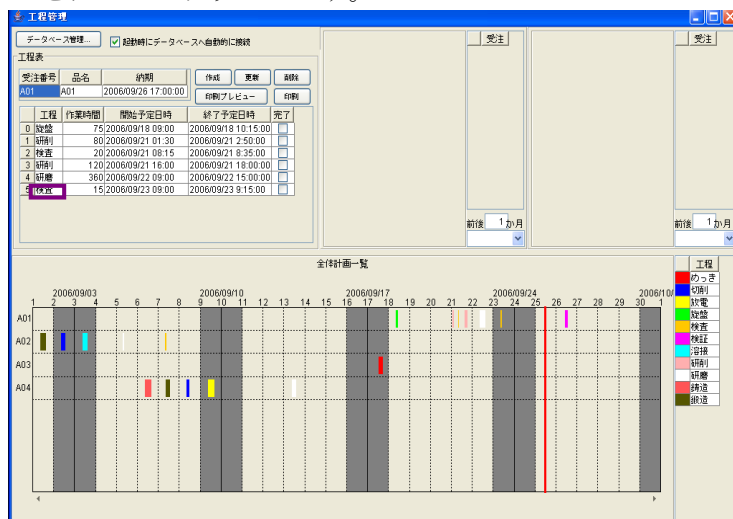


3-1-4 記載内容の修正

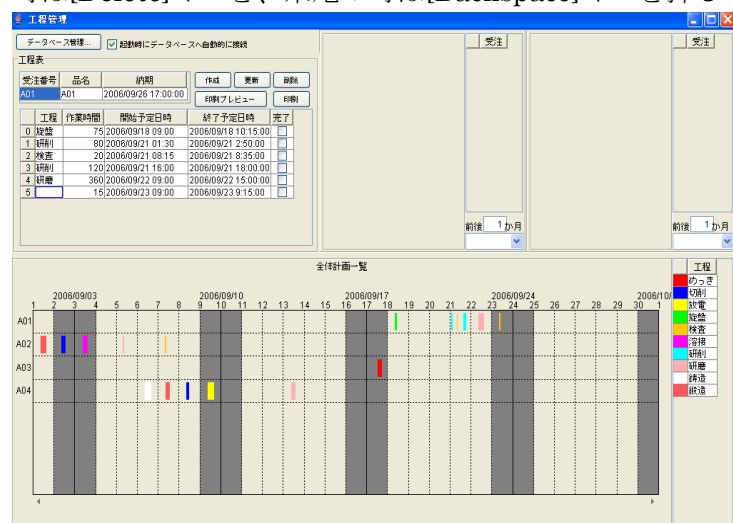
「工程指示表」に登録されているデータの内容を修正します。例として、行番号 5 のデータを修正します。



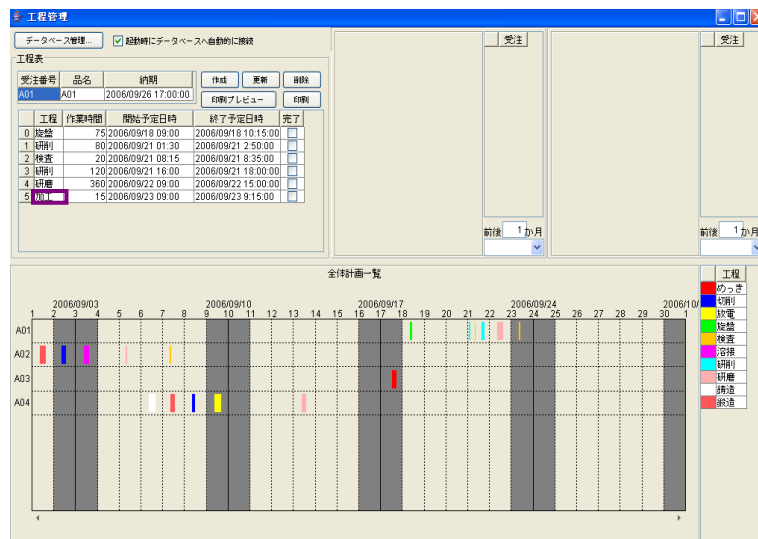
「工程」項目のセルをダブルクリックします。



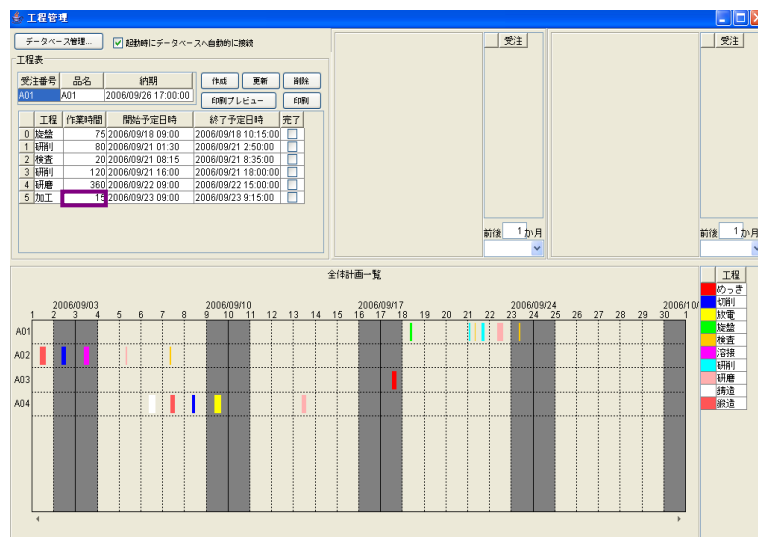
カーソルが先頭の際は[Delete]キーを、末尾の際は[Backspace]キーを押してデータを消去します。



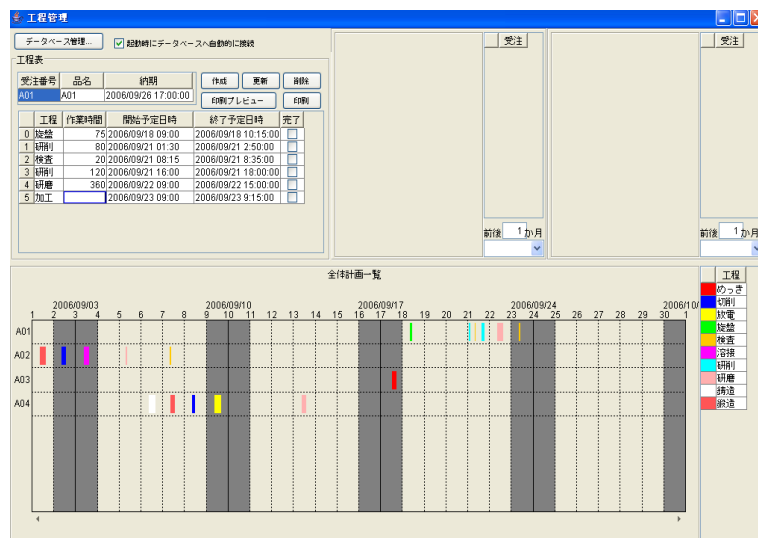
データを入力します（データ例：加工）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。



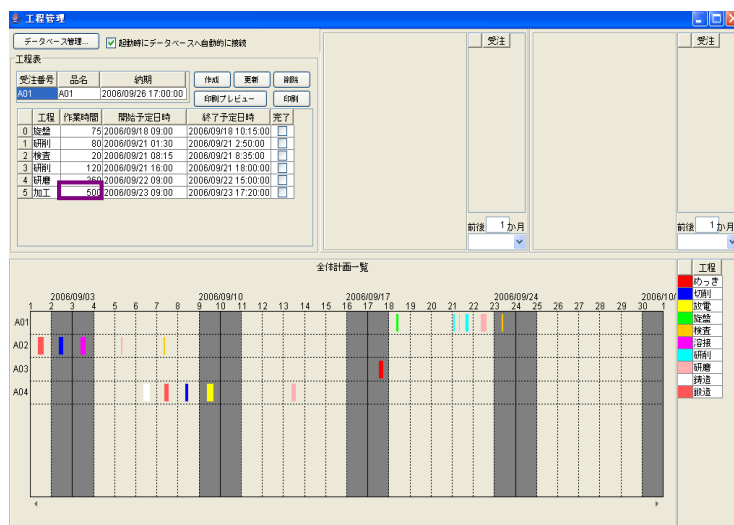
「作業時間」セルをダブルクリックします。



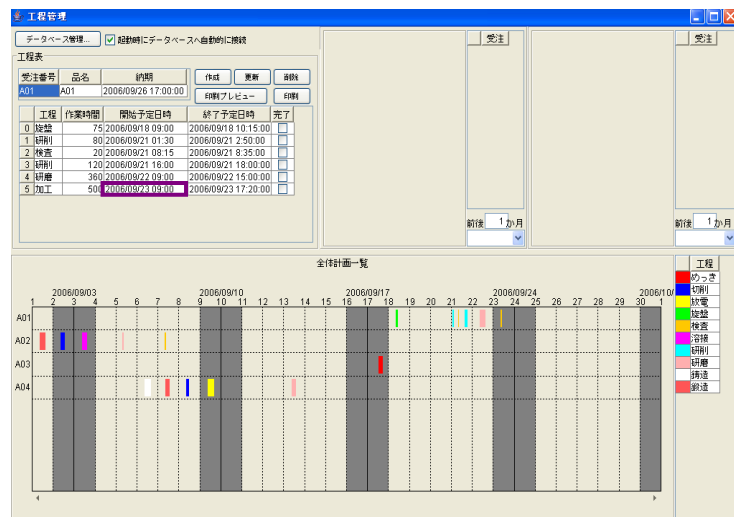
カーソルが先頭の時は[Delete]キーを、末尾の時は[Backspace]キーを押してデータを消去します。



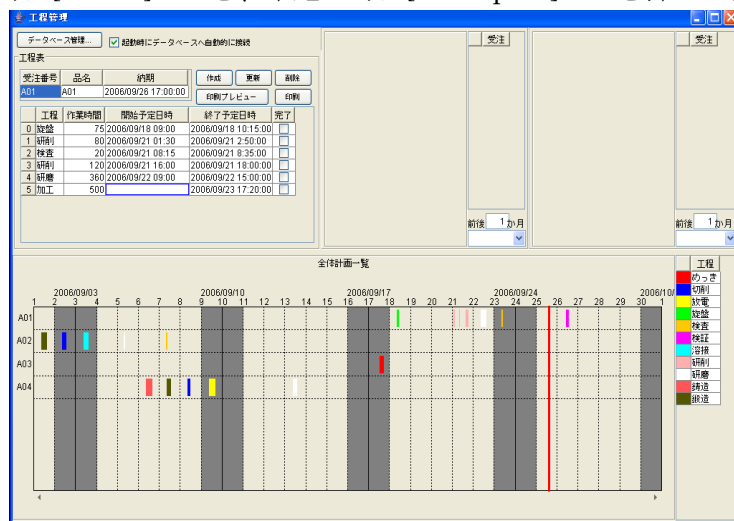
データを入力します（データ例: 500）。 [Enter]キーを押して、入力データを確定します。



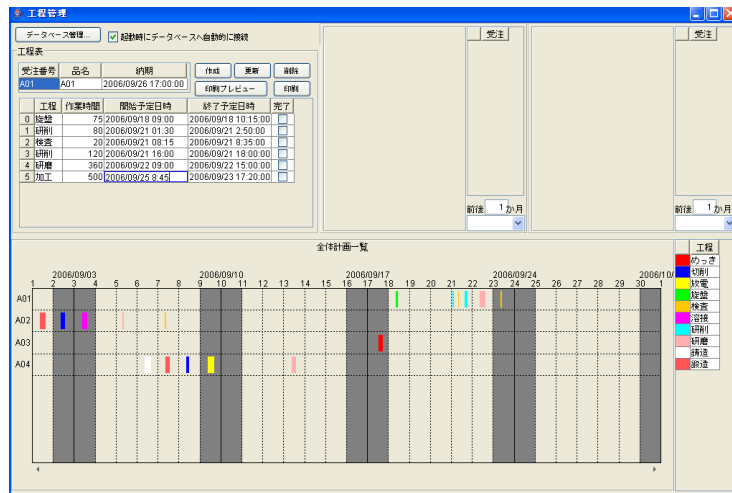
「開始予定日時」セルをダブルクリックします。



カーソルが先頭の時は[Delete]キーを、末尾の時は[Backspace]キーを押してデータを消去します。



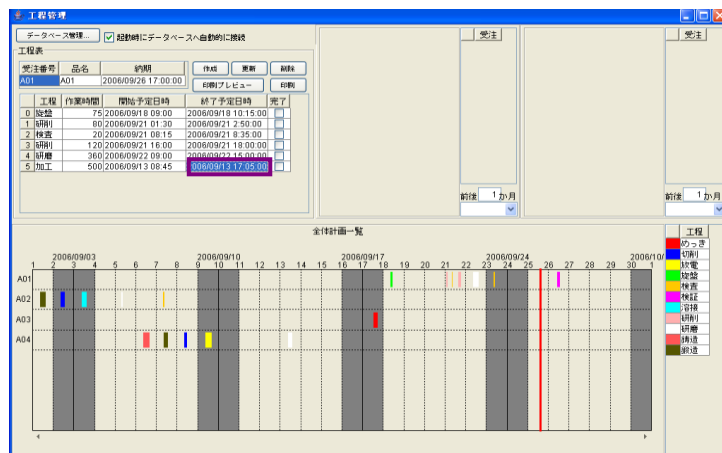
データを入力します（データ例：2006/9/25△8:45）。[Enter]キーを押して入力データを確定します。



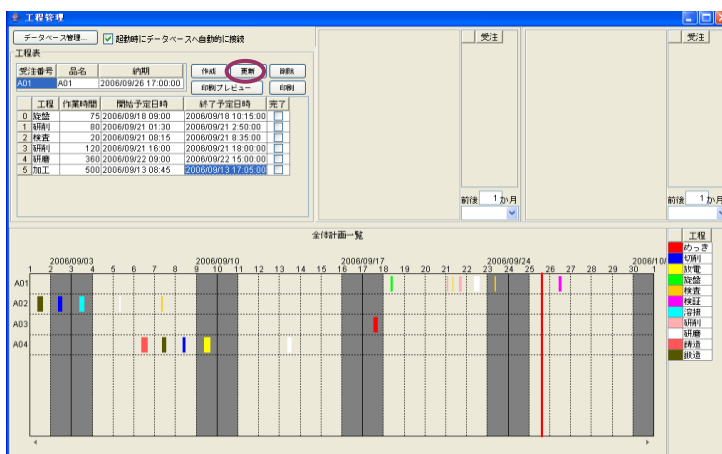
！！注意事項！！

- (1) 日付データの inputs は半角で行います。
- (2) △部分は、半角スペースを入力します。

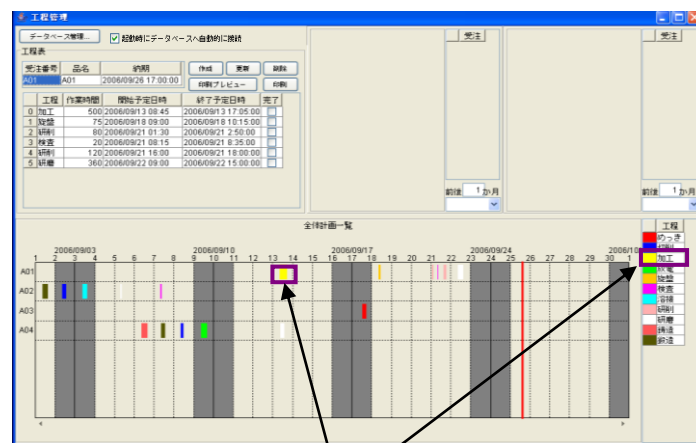
〔作業時間〕と〔開始予定日時〕から〔終了予定日時〕が自動で計算され、表示されます。



[更新]ボタンを左クリックします。

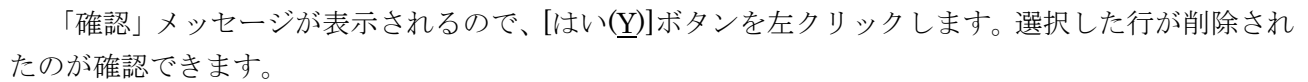
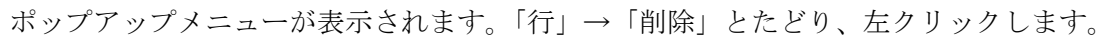


「工程指示表」に修正データが登録され、ガントチャートに反映されます。



変更されたデータ

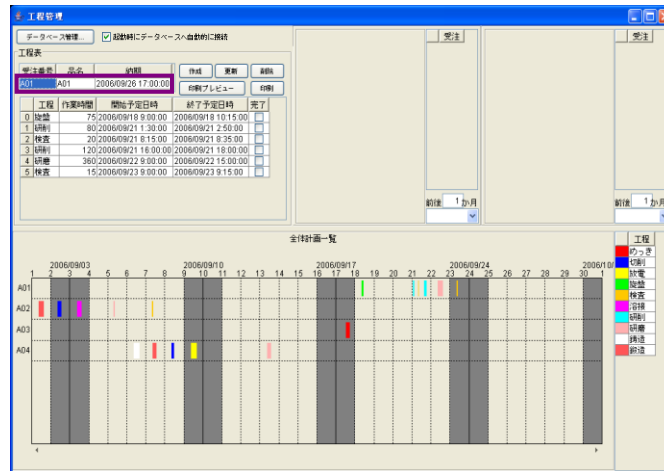
「工程指示表」の削除する行の番号上にマウスポインタを移動し、右クリックします。



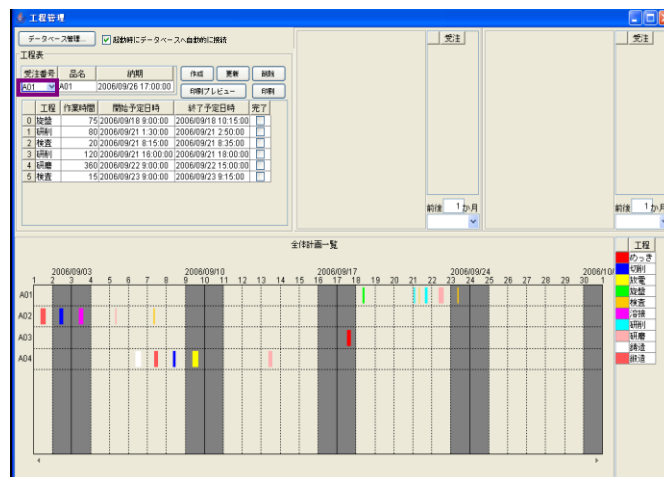
3-2 新規に受注番号を登録してデータ作成

3-2-1 「受注情報表」が空白でない場合

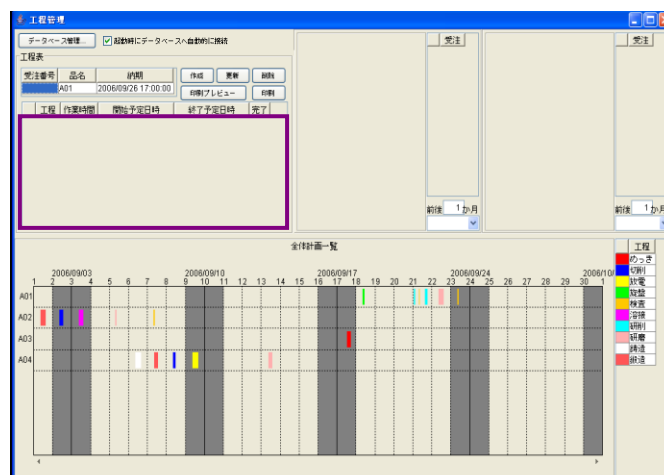
「受注情報表」のセル内にデータが入力済みの時は、データを消去してから入力を行います。



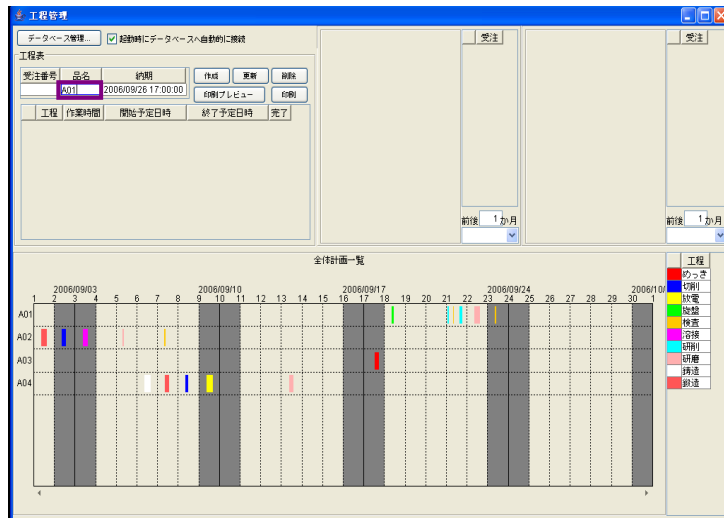
〔受注番号〕項目下部のセルを左クリックします。カーソルが先頭の時は「Delete」キーを、末尾の時は「Backspace」キーを押してデータを消去します。



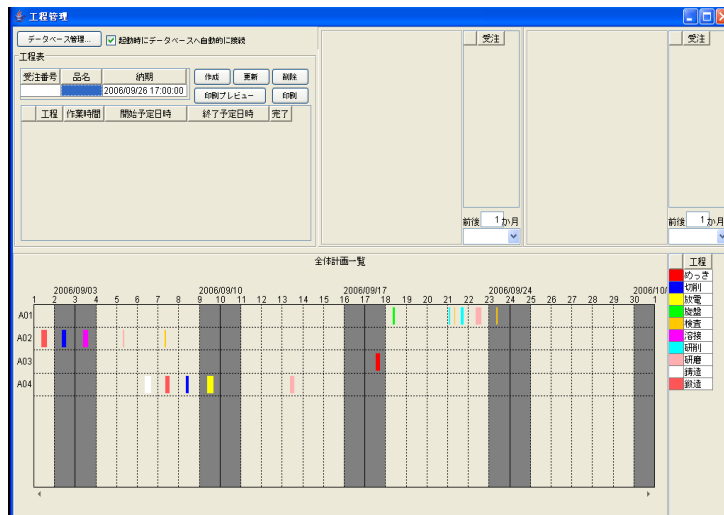
消去後に「Enter」キーを押すと、「工程指示表」のセル部分が非表示になります。



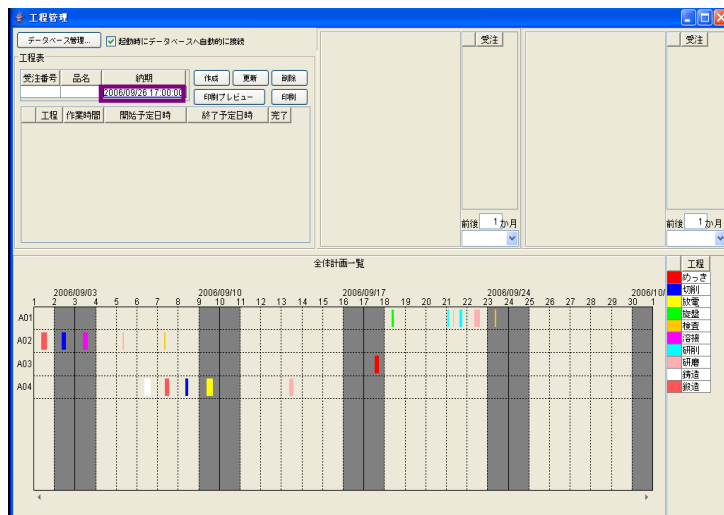
〔品名〕項目のセルをダブルクリックします。カーソルが先頭にある時は「Delete」キーを、末尾の時は「Backspace」キーを押してデータを消去します。



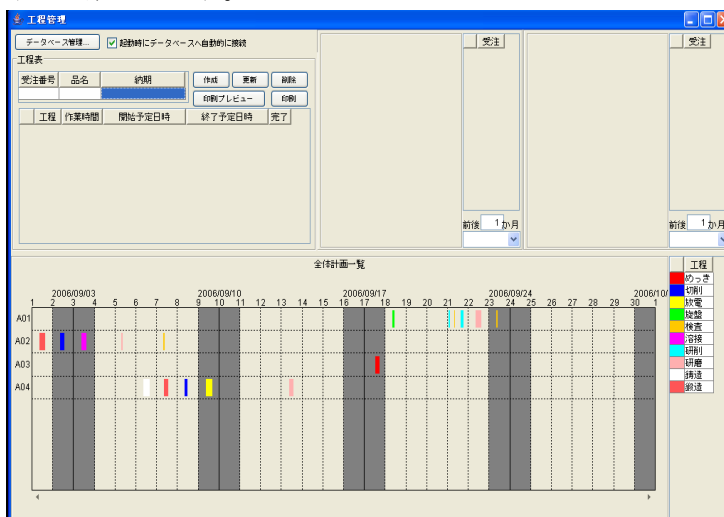
「Enter」キーを押して確定します。



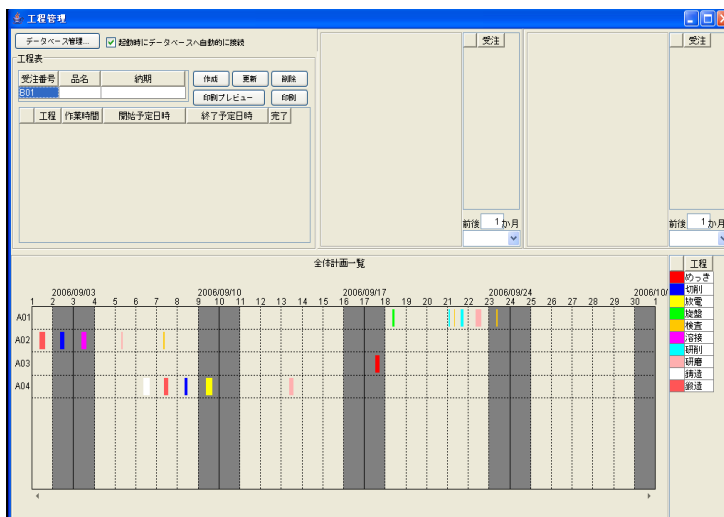
〔納期〕項目のセルをダブルクリックします。カーソルが先頭にある時は「Delete」キーを、末尾の時は「Backspace」キーを押してデータを消去します。



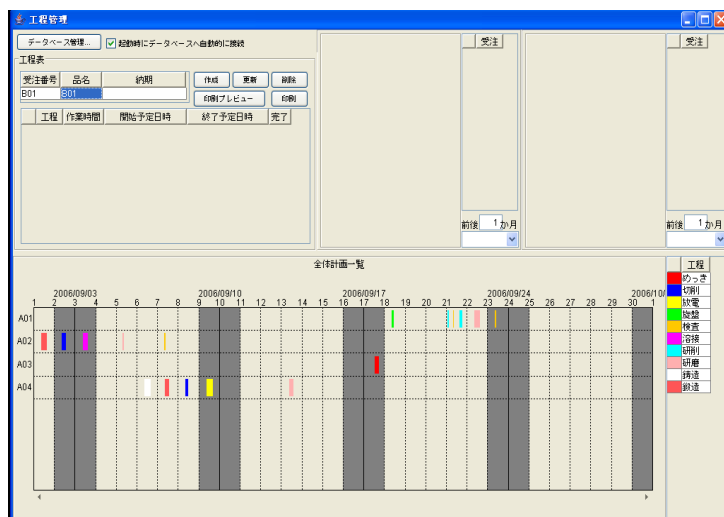
「Enter」キーを押して確定します。



〔受注番号〕セルにデータを入力します（データ例: B01）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

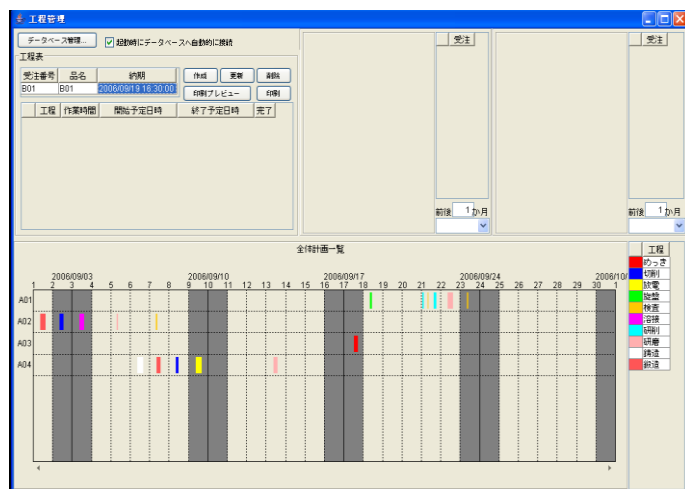


〔品名〕セルにデータを入力します（データ例: B01）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

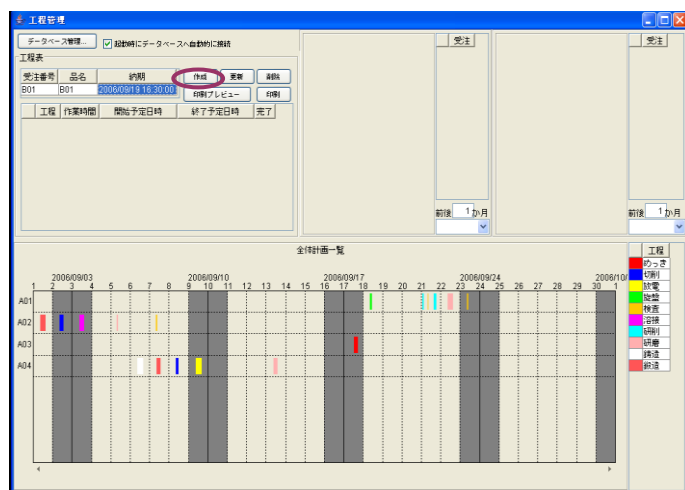


〔納期〕セルにデータを入力します（データ例: 2006/9/19△16:30:00）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

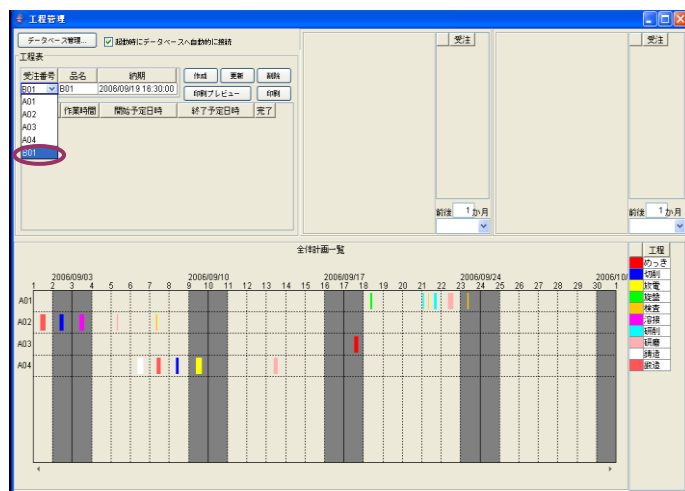
※ △部分は、半角スペースを入力します。



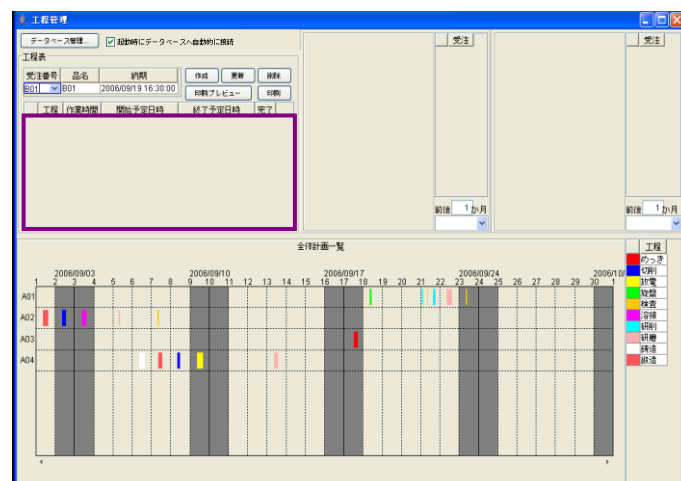
〔作成〕ボタンを左クリックします。



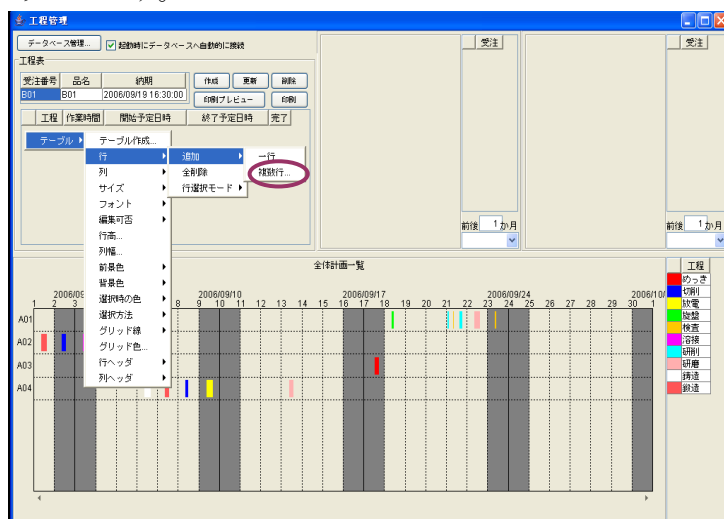
〔受注番号〕セルの「v」部分を左クリックします。受注番号一覧に<B01>が登録されたことが確認できます。



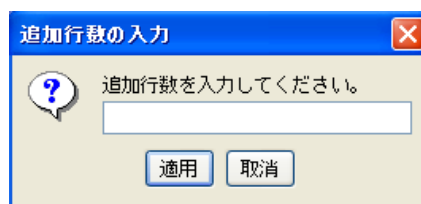
下図の囲み部分内にマウスポインタを移動し、右クリックします。クリックする場所は任意です。



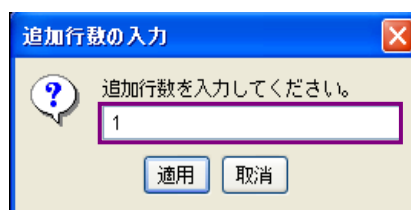
ポップアップメニューが表示されます。「テーブル」→「行」→「追加」→(「一行」または「複数行...」)とたどり、左クリックします。



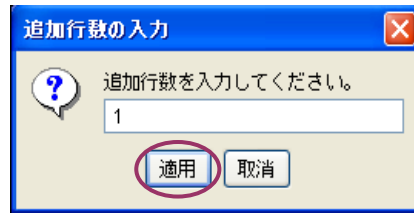
「複数行...」を選択した場合、「追加行数の入力」ダイアログボックスが表示されます。



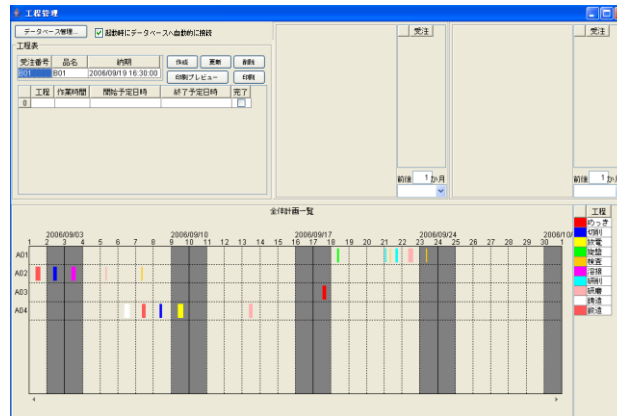
追加する行数を入力します。



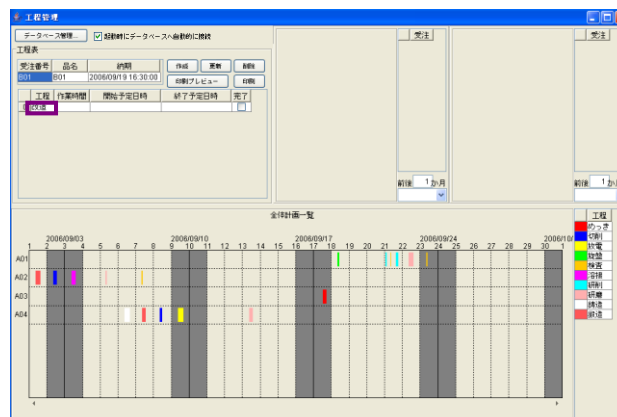
[適用]ボタンを左クリックします。



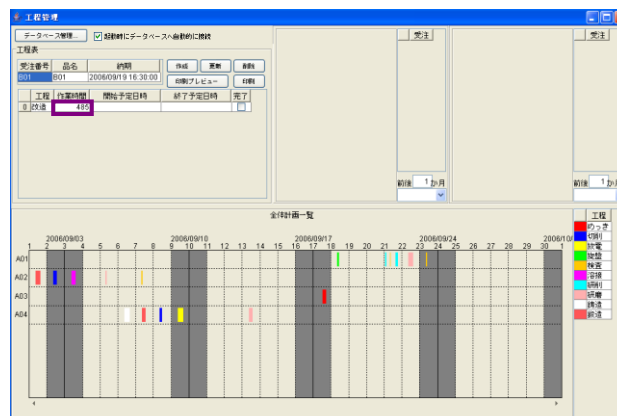
「工程指示表」に行が追加されたことが確認できます。



〔工程〕セルにデータを入力します（データ例：改造）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

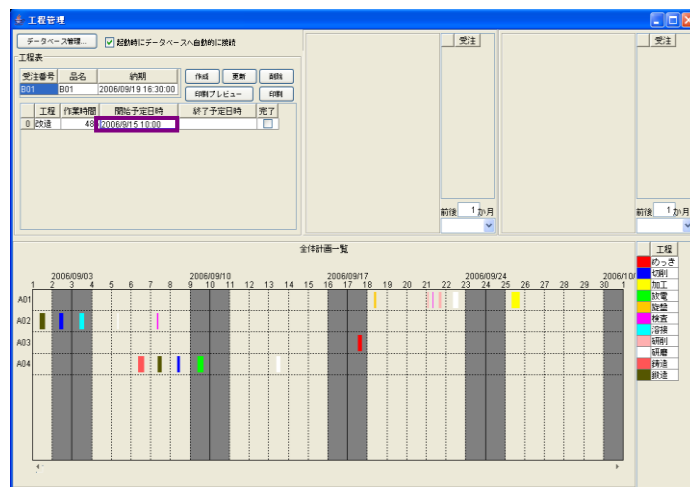


〔作業時間〕セルにデータを入力します（データ例：485）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

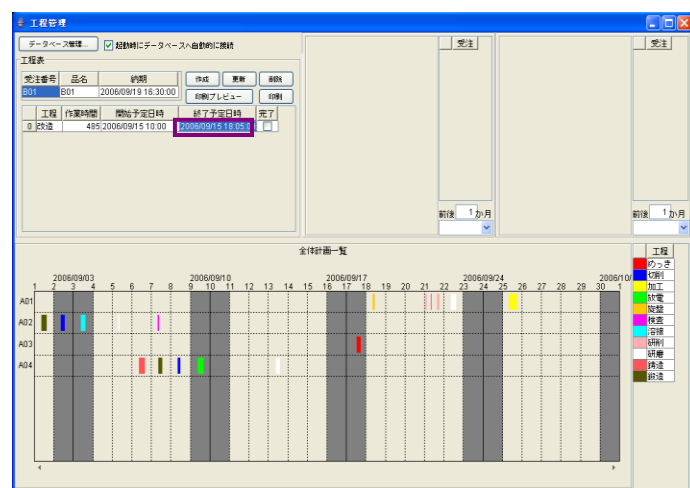


〔開始予定日時〕セルにデータを入力します（データ例：2006/9/15△10:00）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

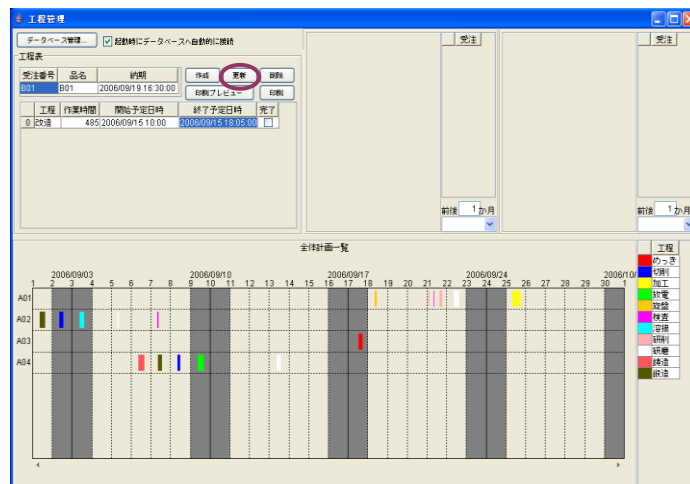
※ △部分は、半角スペースを入力します。



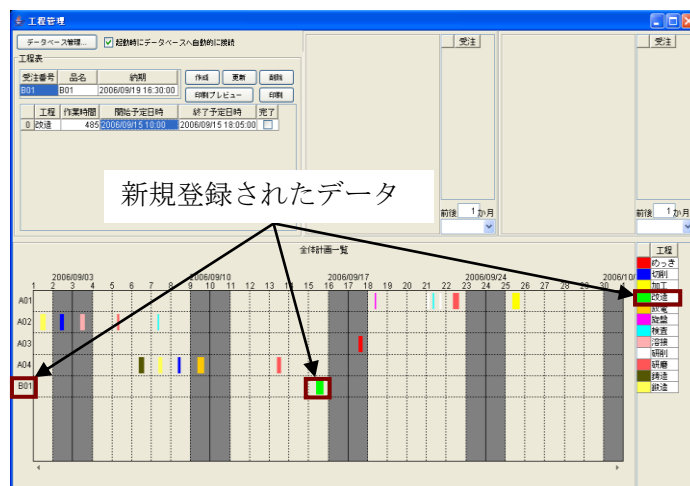
〔作業時間〕と〔開始予定日時〕から〔終了予定日時〕が自動で算出され、表示されます。



[更新]ボタンを左クリックします。



入力データが登録され、ガントチャートにも反映されます。



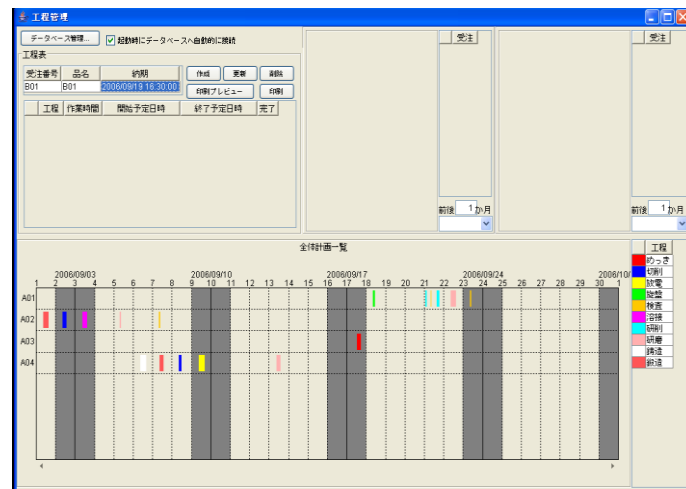
3-2-2 「受注情報表」が空白

「受注情報表」のセルが空白の時は、登録データを直接入力します。

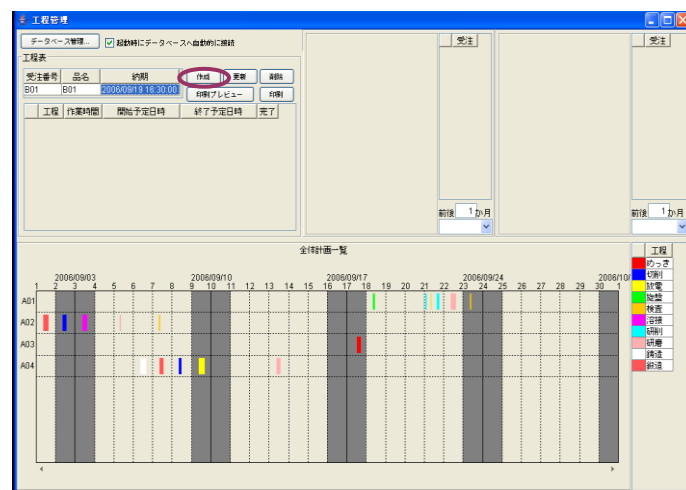
〔受注番号〕セルにデータを入力します（データ例: B01）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

〔品名〕セルにデータを入力します（データ例: B01）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

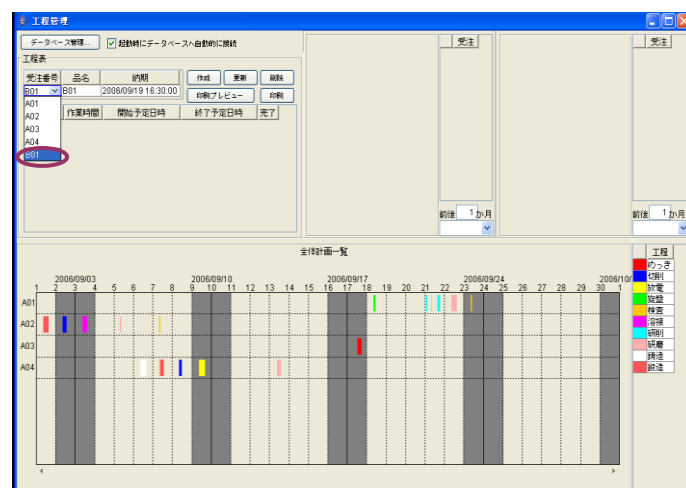
※ △部分は、半角スペースを入力します。



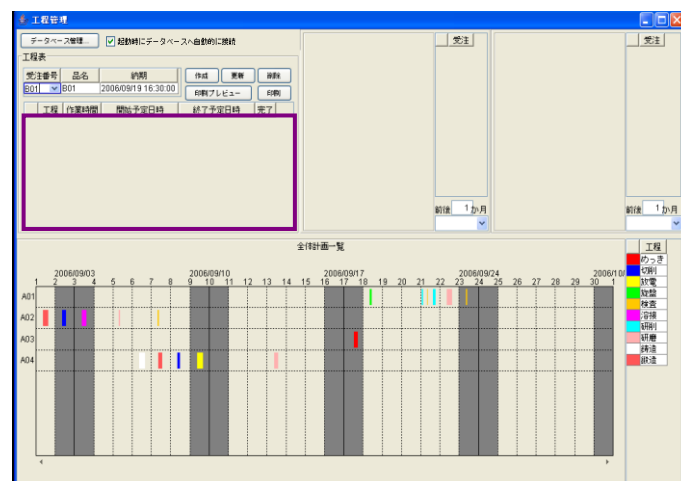
[作成]ボタンを左クリックします。



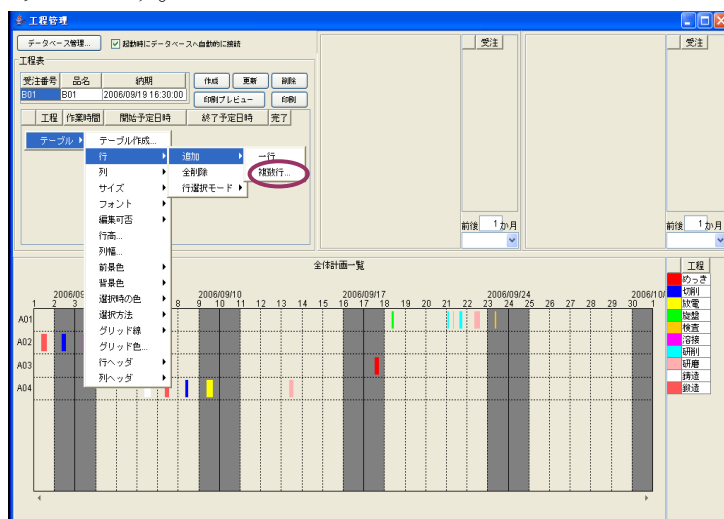
〔受注番号〕セルの「v」部分を左クリックします。受注番号一覧に<B01>が登録されたことが確認できます。



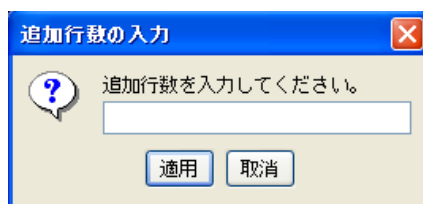
下図の囲み部分内にマウスポインタを移動し、右クリックします。クリックする場所は任意です。



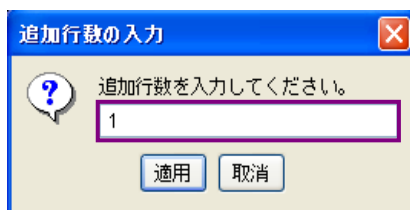
ポップアップメニューが表示されます。「テーブル」→「行」→「追加」→(「一行」または「複数行...」)とたどり、左クリックします。



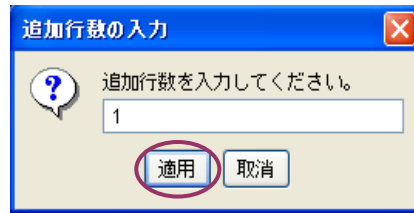
「複数行...」を選択した場合、「追加行数の入力」ダイアログボックスが表示されます。



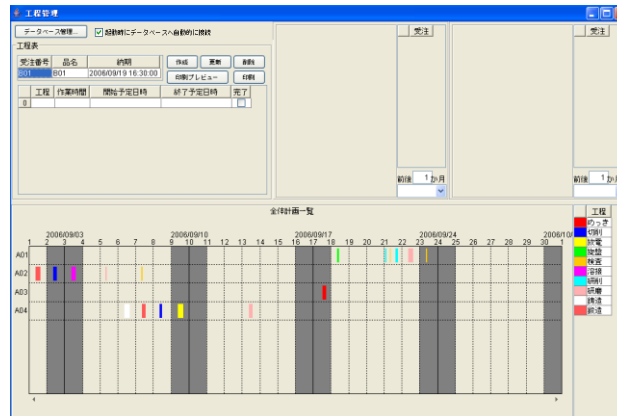
追加する行数を入力します。



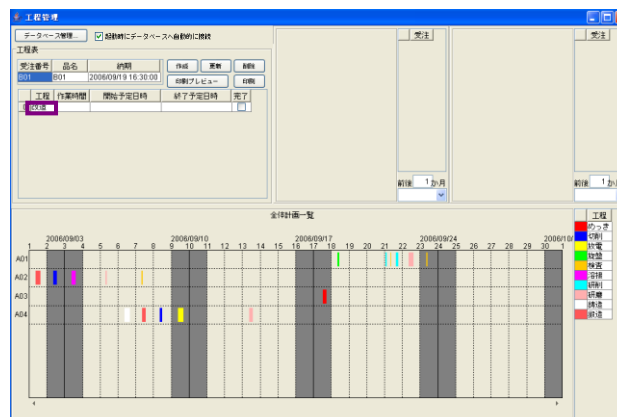
[適用]ボタンを左クリックします。



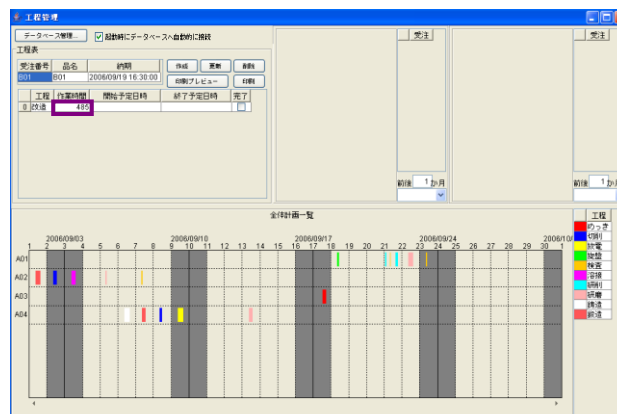
「工程指示表」に行が追加されたことが確認できます。



〔工程〕セルにデータを入力します（データ例：改造）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

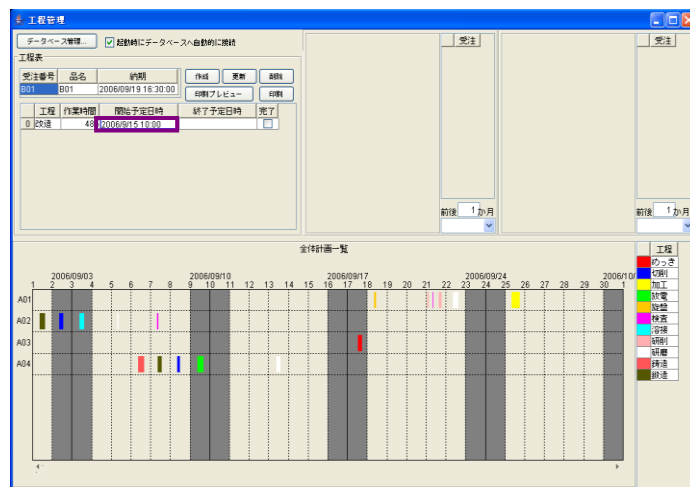


〔作業時間〕セルにデータを入力します（データ例：485）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

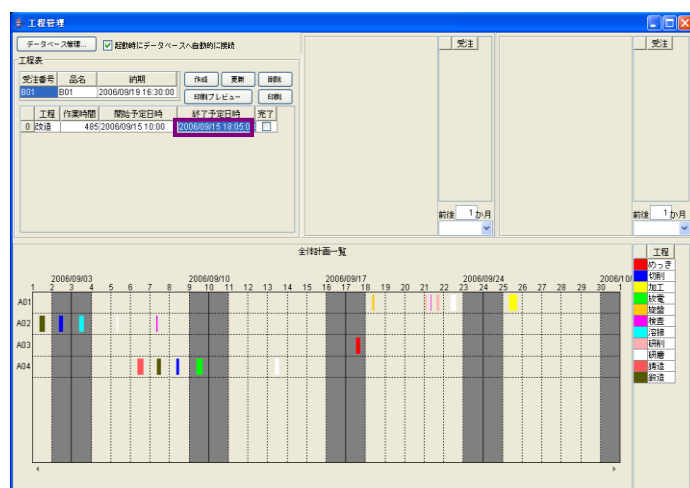


〔開始予定日時〕セルにデータを入力します（データ例：2006/9/15△10:00）。[Enter]キーを押して、入力データを確定します。

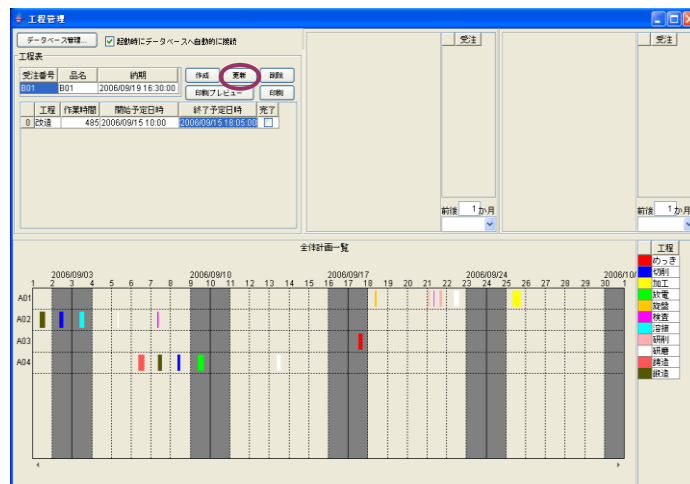
※ △部分は、半角スペースを入力します。



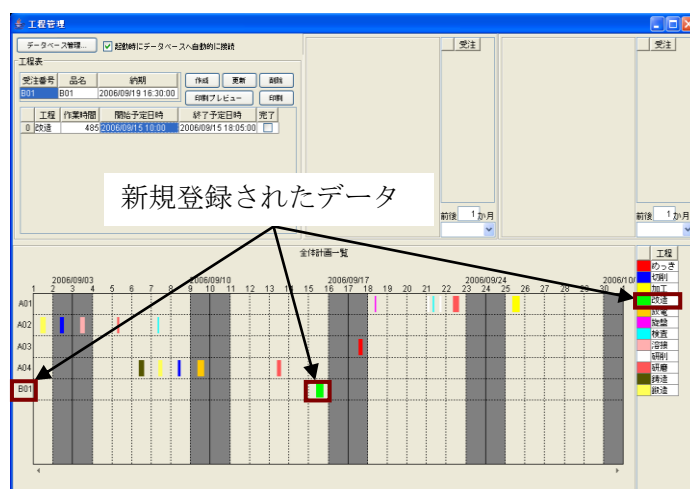
〔作業時間〕と〔開始予定日時〕から〔終了予定日時〕が自動で算出され、表示されます。



[更新]ボタンを左クリックします。

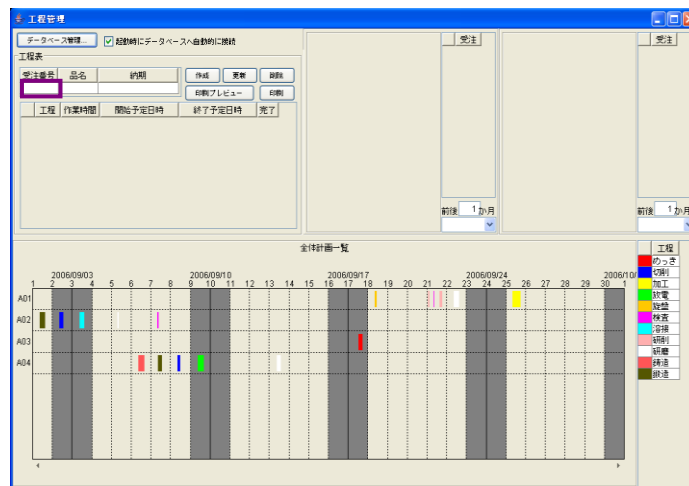


入力データが登録され、ガントチャートにも反映されます。

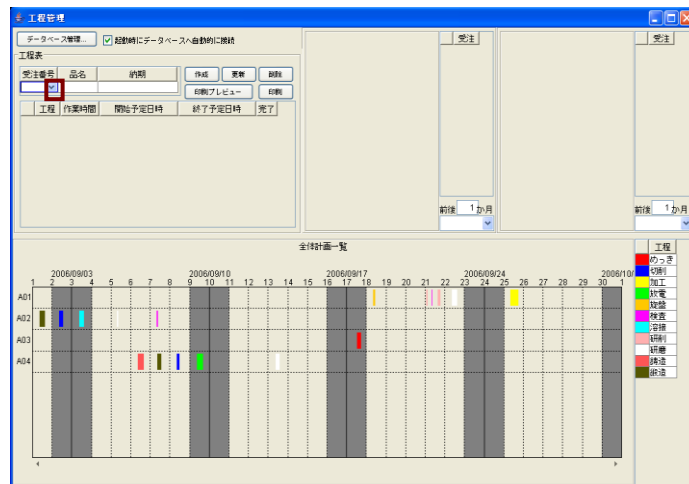


3-3 受注番号情報の削除

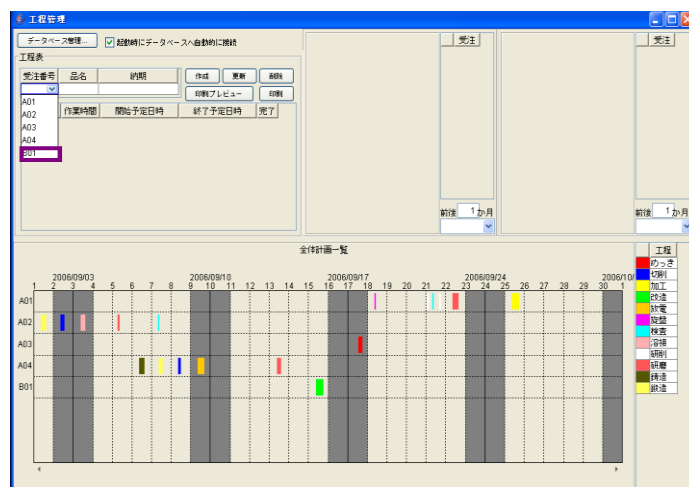
〔受注番号〕セルを左クリックします。



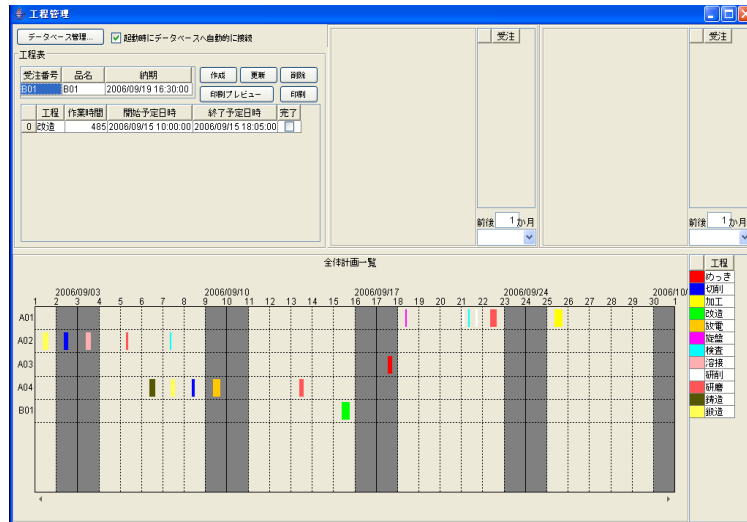
下図のようにセル部分が変化します。セル右端にある「v」部分を左クリックします。



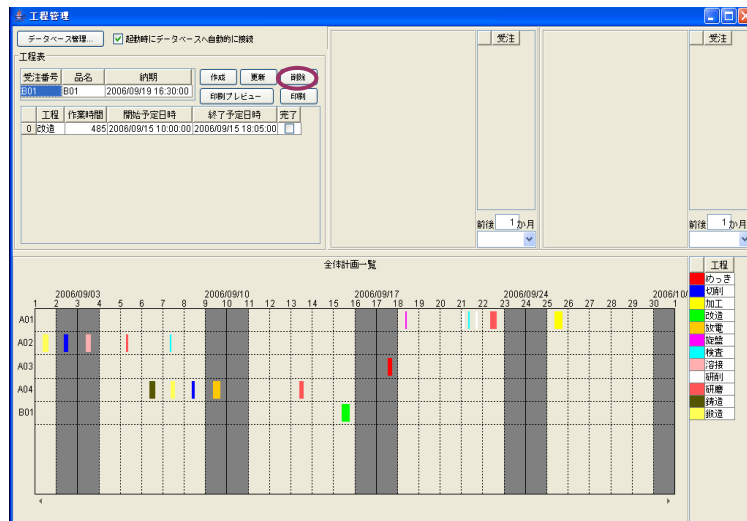
受注番号一覧が表示されます。削除する受注番号上にマウスポインタを移動し、左クリックします(選択例: B01)。



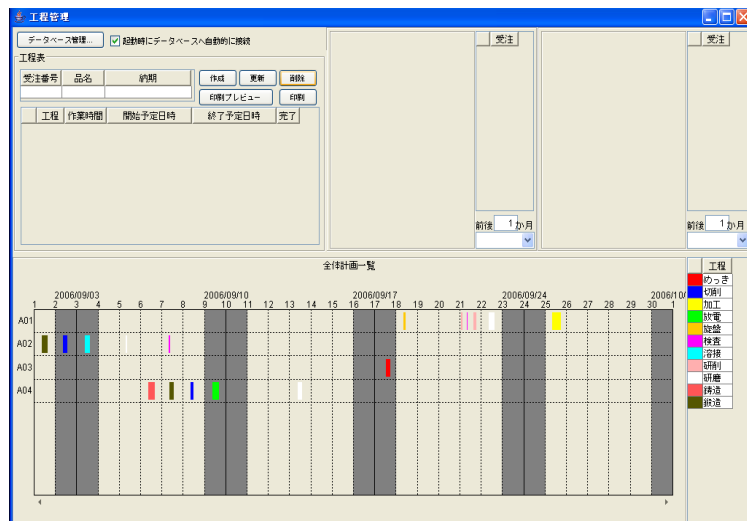
「受注番号表」、「工程指示表」に<B01>の情報が表示されます。



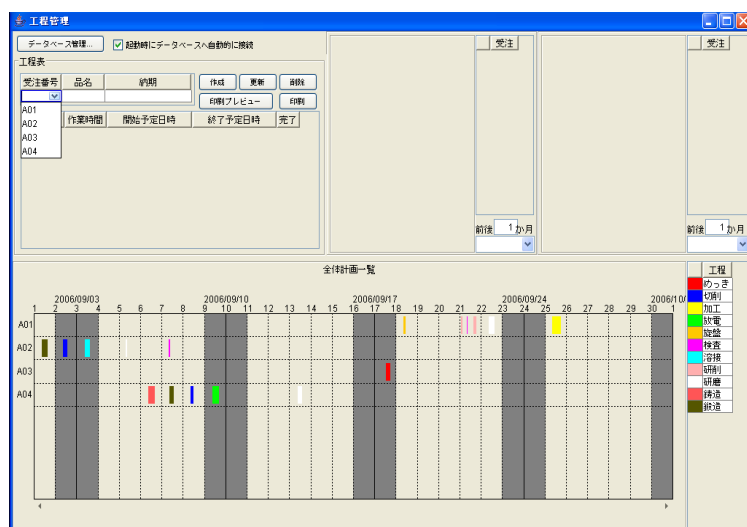
[削除]ボタンを左クリックします。



「受注情報表」、「工程指示表」が非表示になり、ガントチャートにも反映されます。

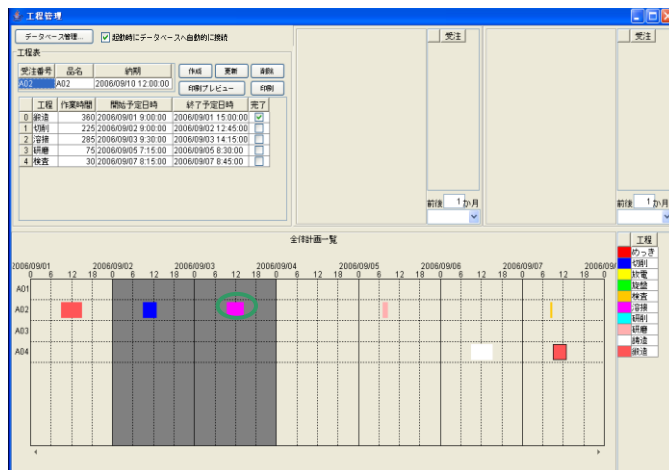


〔受注番号〕 のリストから、<B01>が削除されたことが確認できます。

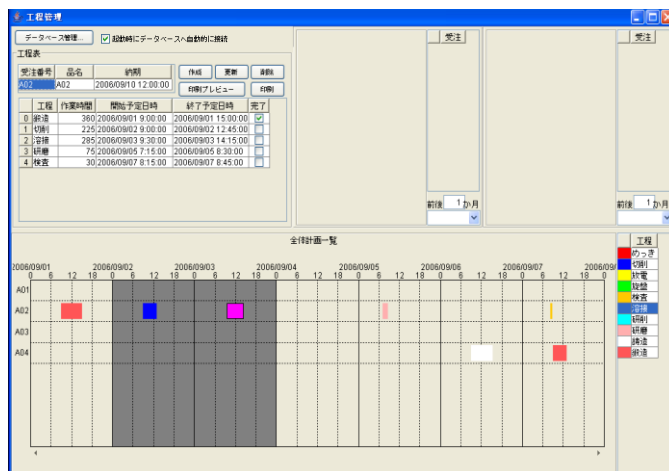


3-4 ガントチャート操作による予定日時変更

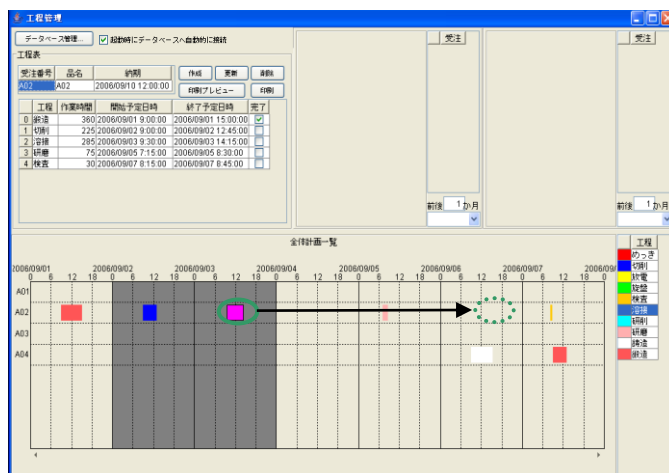
変更する帯グラフ上にマウスポインタを移動します。形状が $\blacklozenge$ に変更されます。グラフ幅が小さい場合は $\longleftrightarrow$ に変更されます。



左クリックすると、選択した帯グラフの外周が実線表示されます（選択データ：〔受注番号〕A02、〔工程〕溶接）。



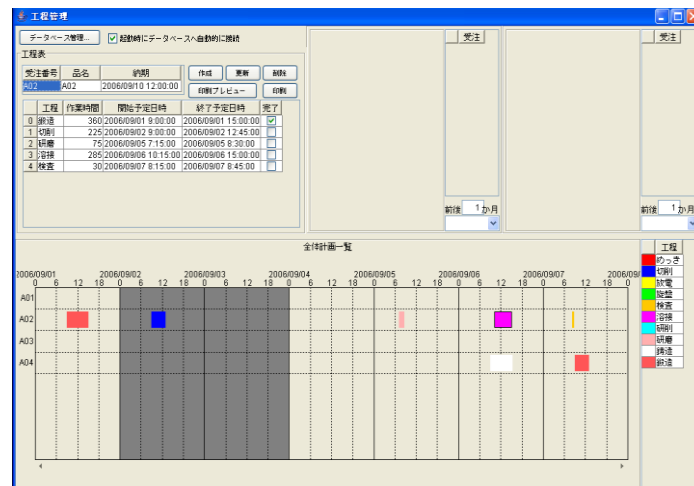
マウスの左ボタンを押し続けた状態でマウスを左右に移動します。最終地点に帯グラフを移動させたら、マウスボタンを離します。



帯グラフの移動に伴い、「工程指示表」の日時内容が変更されました。

〔開始予定日時〕 2006/9/3△9:30:00→2006/9/6△10:15:00

〔終了予定日時〕 2006/9/3△14:15:00→2006/9/6△15:00:00



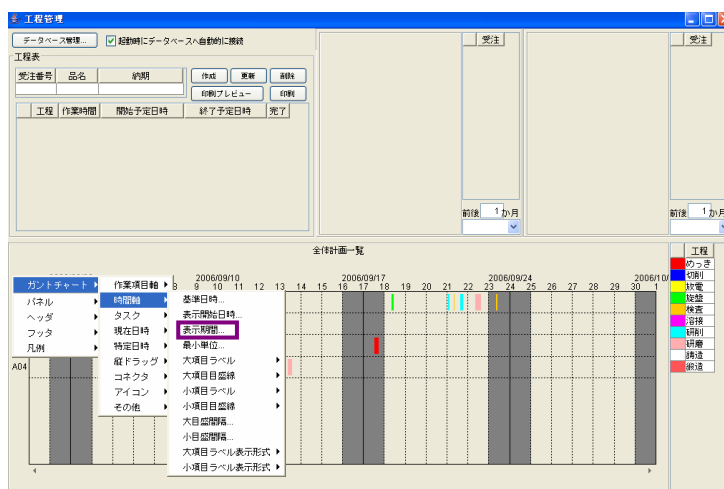
※※補足※※

- (1) 「工程指示表」の予定日時の内容は、帯グラフの移動と同時に自動更新されます。
- (2) 〔開始予定日時〕と〔終了予定日時〕のみ変更されます。
- (3) 〔作業時間〕の変更は、ガントチャート上のマウス操作では行えません。
「工程指示表」の〔作業時間〕データを変更し、[更新]ボタンを左クリックします。

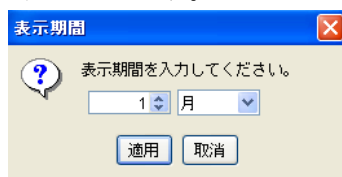
第4章 ガントチャートの表示形式の設定

4-1 表示期間の変更

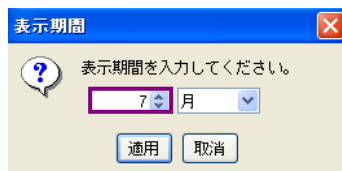
ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「時間軸」→「表示期間...」とたどり、左クリックします。



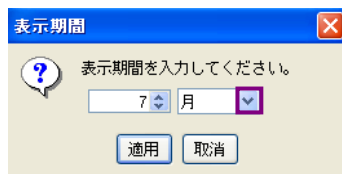
「表示期間」ダイアログボックスが表示されます。



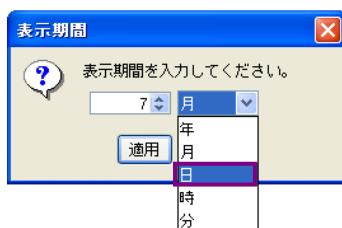
表示を1週間に設定する時は、左側のテキストボックスに「7」を入力します。



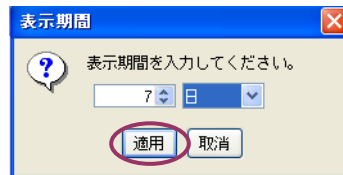
コンボボックスの「v」部分を左クリックします。



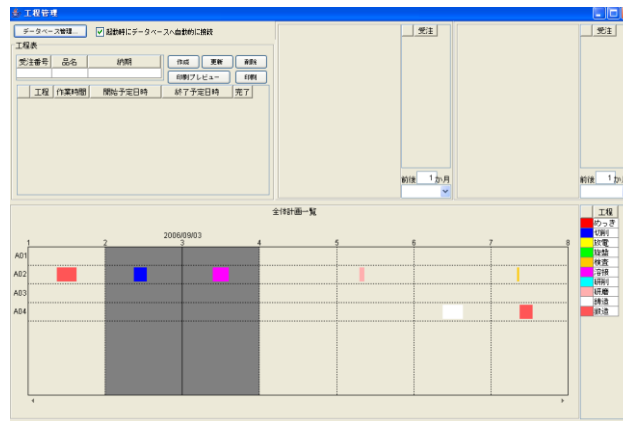
表示期間単位の一覧が表示されます。「日」の上にマウスポインタを移動し、左クリックします。



[適用]ボタンを左クリックします。

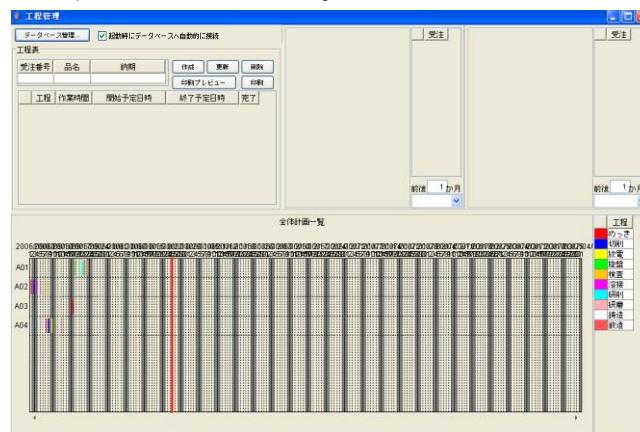


ガントチャートの表示が1週間に変更されました。

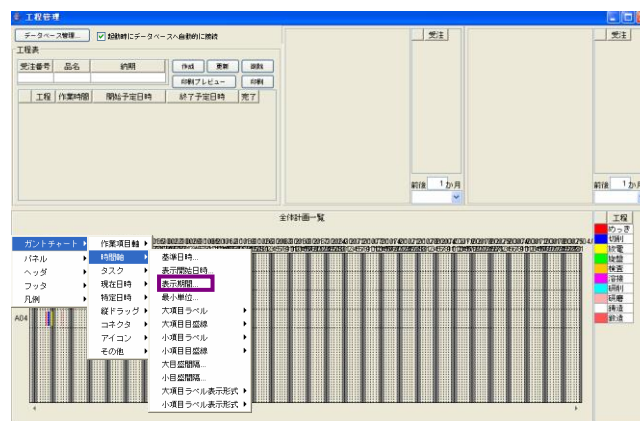


☆表示期間の設定ミスの例☆

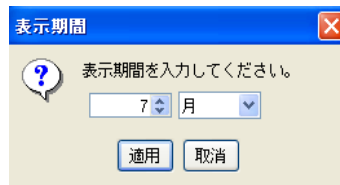
7日に設定するところを7ヶ月にしてしまった。



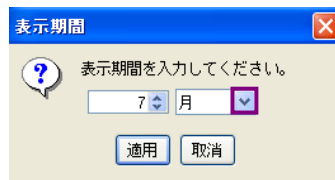
ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「時間軸」→「表示期間...」とたどり、左クリックします。



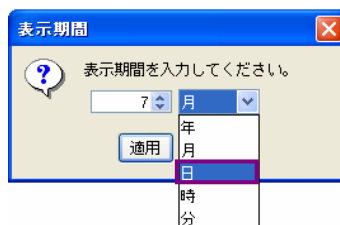
「表示期間」ダイアログが表示されます。



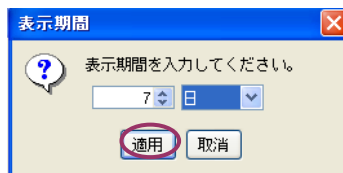
コンボボックスの「v」部分を左クリックします。



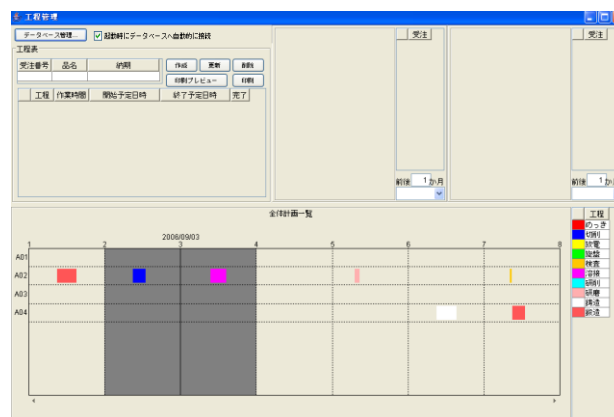
リスト一覧が表示されます。「日」の上にマウスポインタを移動し、左クリックします。



[適用]ボタンを左クリックします。

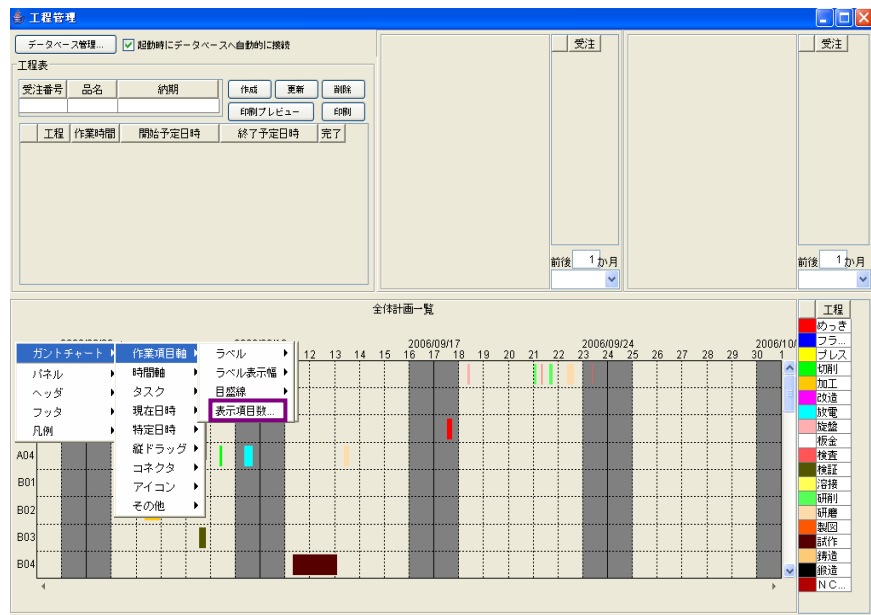


ガントチャートの表示が1週間に変更されました。

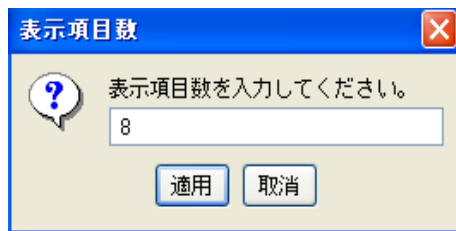


4-2 表示項目数の設定

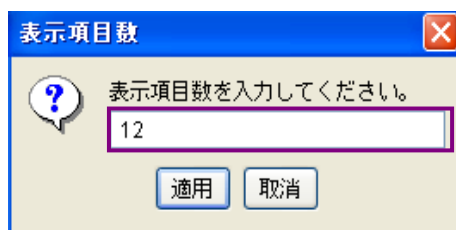
ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「作業項目軸」→「表示項目数..」とたどり、左クリックします。



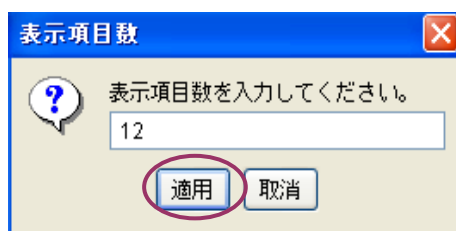
「表示項目数」ダイアログが表示されます。



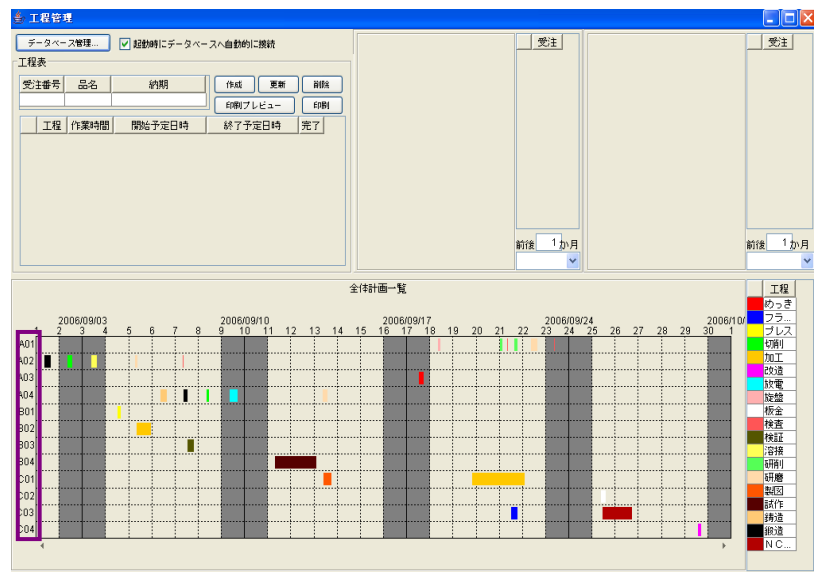
テキストボックスに表示する項目数を入力します。(データ例：12)



[適用]ボタンを左クリックします。



ガントチャートの表示項目数が 8 → 12 に変更されました。表示されていなかった受注番号が表示されたことが確認できます。

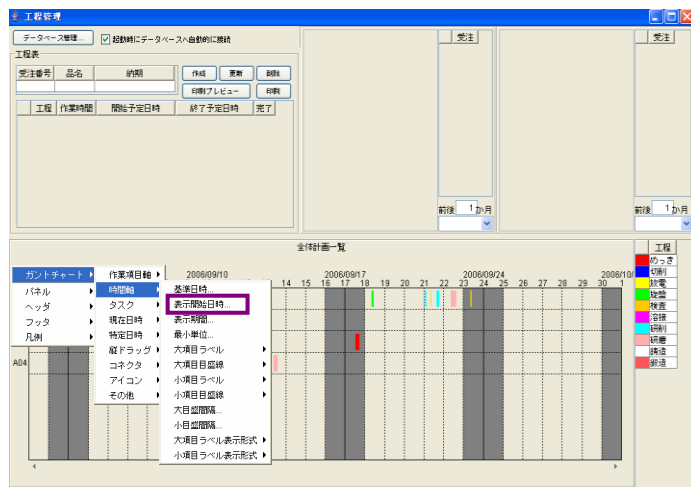


****補足****

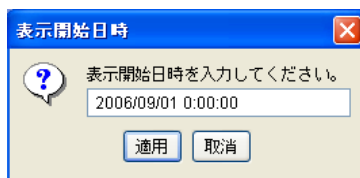
〔受注番号〕 B01～C04 は、操作説明のためにあらかじめ登録しておいたデータです。

4-3 表示開始日時の設定

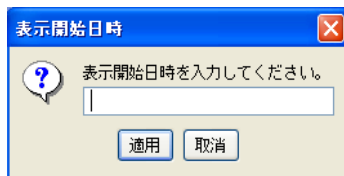
ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「時間軸」→「表示開始日時...」とたどり、左クリックします。



「表示開始日時」ダイアログが表示されます。



テキストボックス内を左クリックします。カーソルが先頭の時は[Delete]キー、末尾の時は[BackSpace]キーを押して消去します。

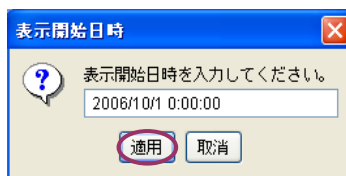


表示する日時を入力します（データ例: 2006/10/1△0:00:00）。

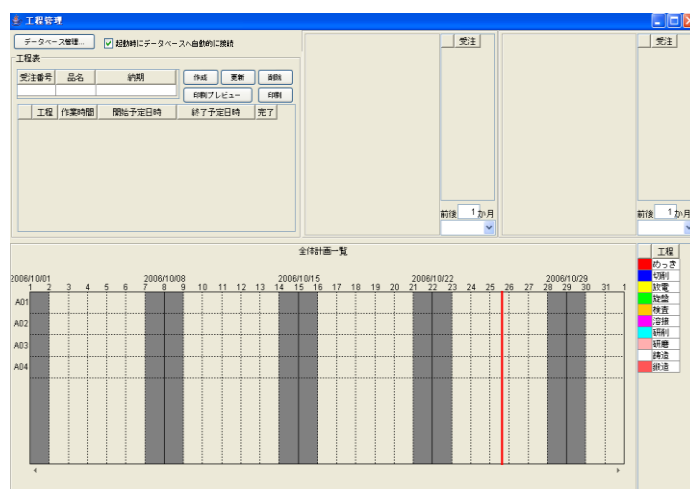
！！注意事項！！

- (1) △部分は、半角スペースを入力します。
- (2) 秒部分の入力を省略すると、エラーメッセージが表示されます。
エラー入力例: 2006/10/1△0:00

[適用]ボタンを左クリックします。

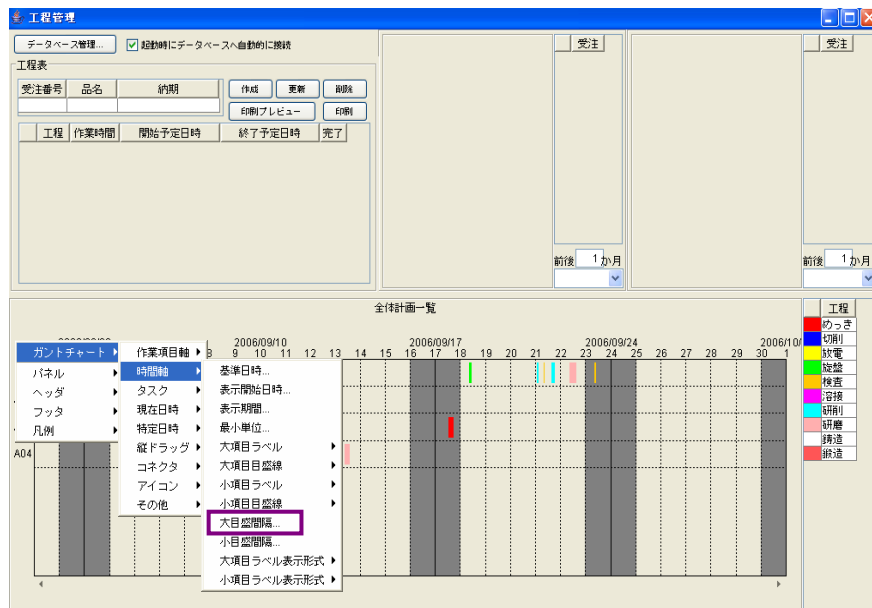


ガントチャートの表示開始日時が 2006/10/1 に変更されたことが確認できます。

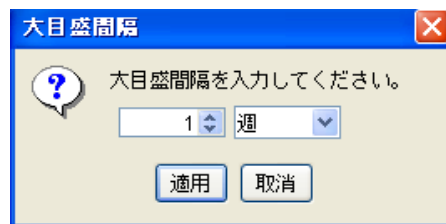


4-4 大目盛間隔の設定

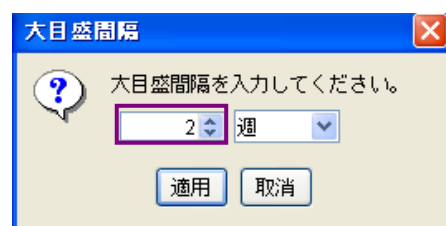
ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「時間軸」→「大目盛間隔..」とたどり、左クリックします。



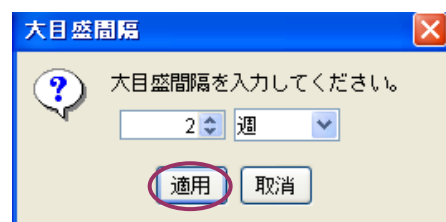
「大目盛間隔」ダイアログが表示されます。



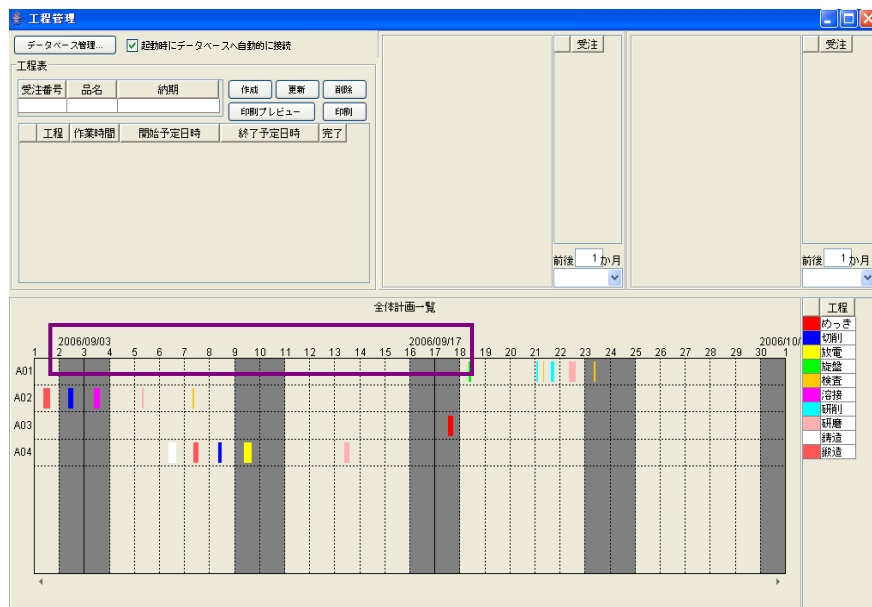
左側のボックスに設定値を入力します（2週間に設定する場合、「2」を入力）。



[適用]ボタンを左クリックします。

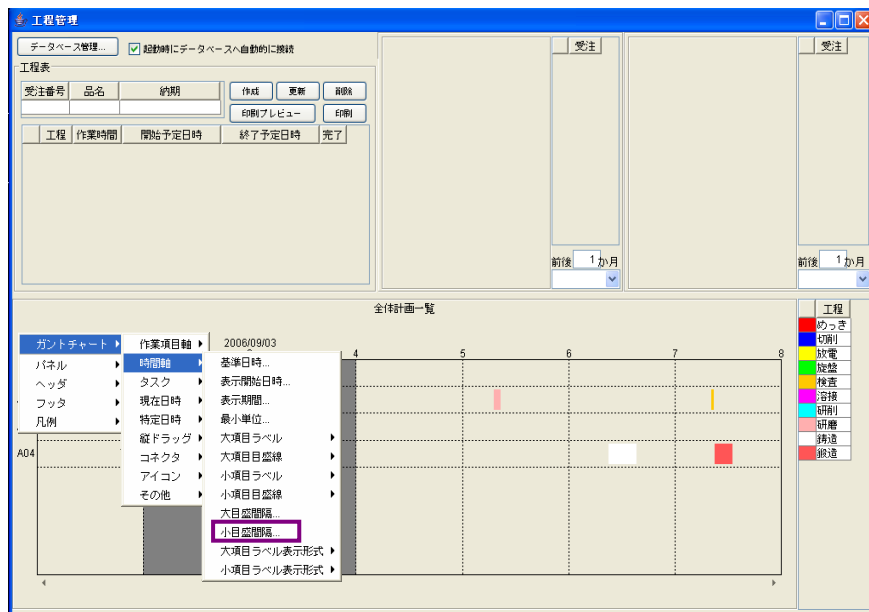


ガントチャートの大目盛間隔が1週間 → 2週間に変更されたのが確認できます。

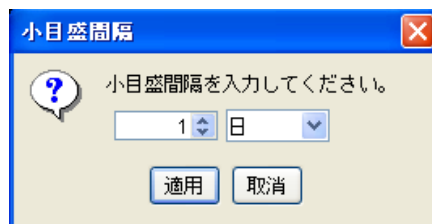


4-5 小目盛間隔の設定

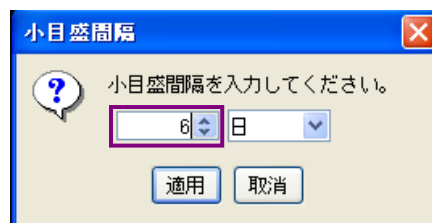
ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「時間軸」→「小目盛間隔...」とたどり、左クリックします。



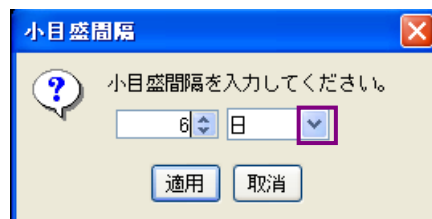
「小目盛間隔」ダイアログが表示されます。



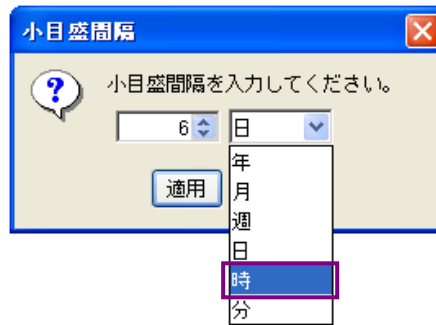
左側のボックスに設定値を入力します（6 時間に設定する時は、「6」を入力）。



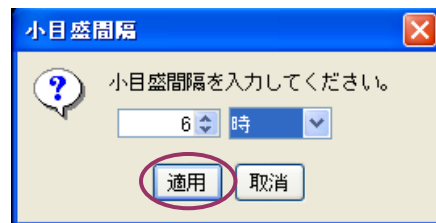
コンボボックスの「v」部分を左クリックします。



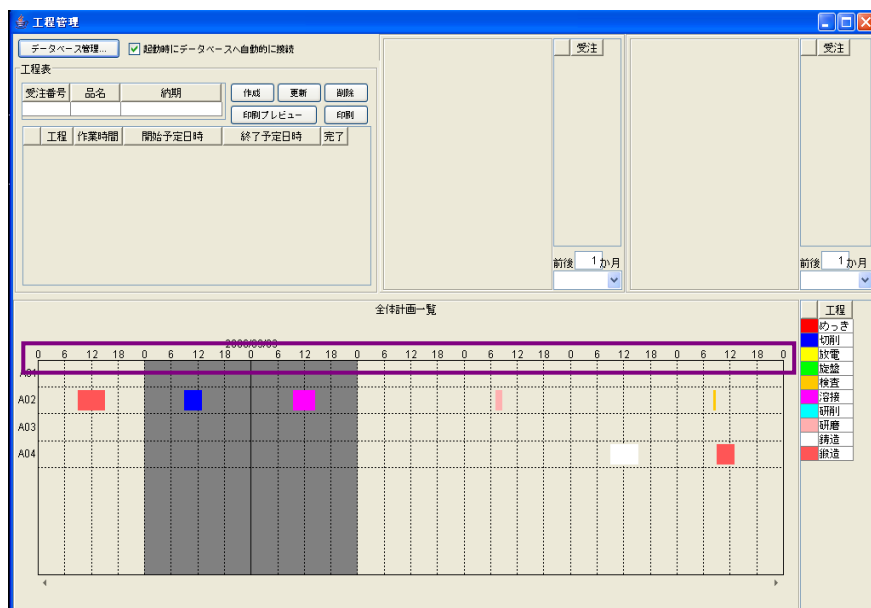
リスト一覧が表示されます。「時」の上にマウスポインタを移動し、左クリックします。



[適用]ボタンを左クリックします。

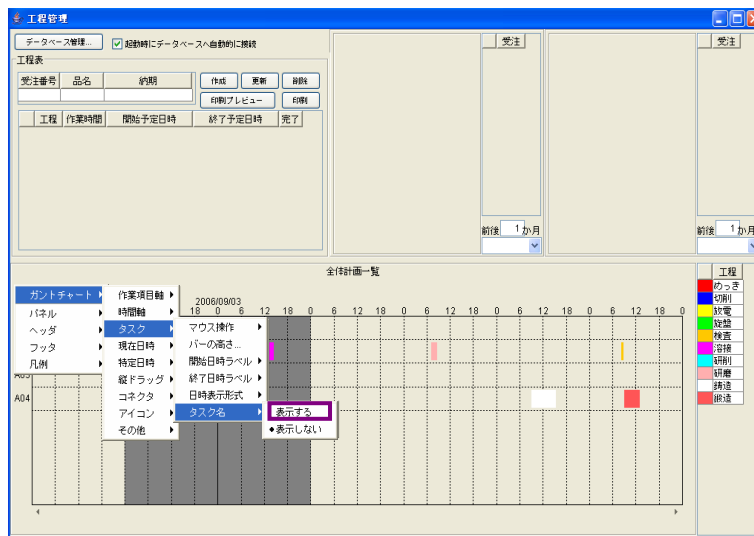


ガントチャートの小目盛間隔が、1日 → 6時間に変更されたことが確認できます。

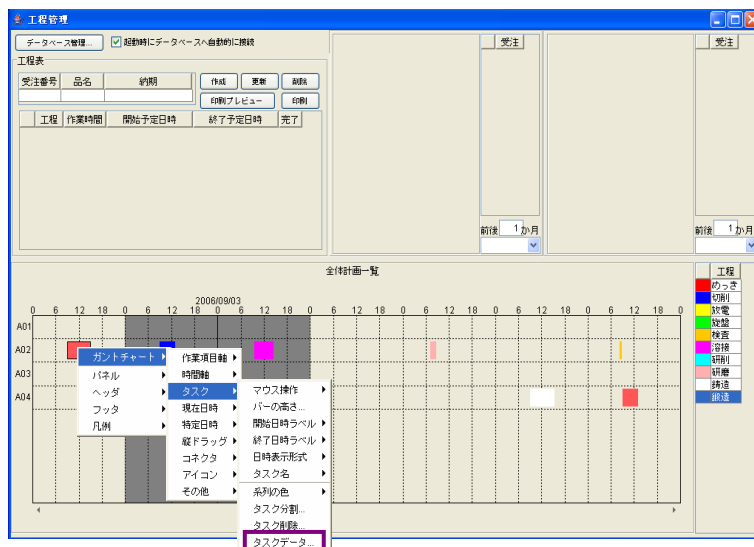


4-6 タスク名の表示

ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「タスク」→「タスク名」→「表示する」とたどり、左クリックします。



タスク名を設定したい帯グラフ上にマウスポインタを移動し、右クリックします。「ガントチャート」→「タスク」→「タスクデータ...」とたどり、左クリックします。



「タスクデータ」ダイアログが表示されます。

タスクデータ
✕

?

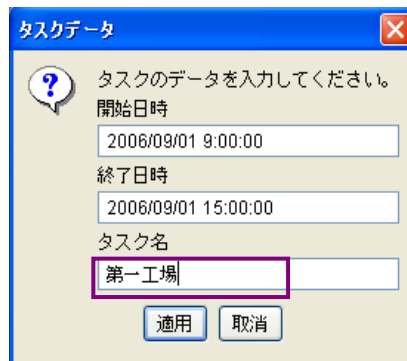
タスクのデータを入力してください。

開始日時

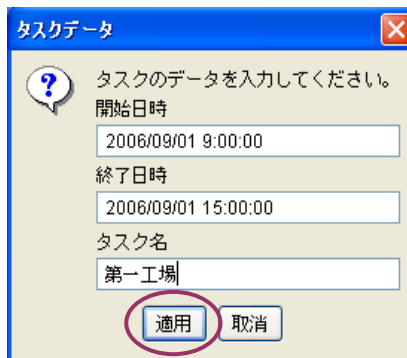
終了日時

タスク名

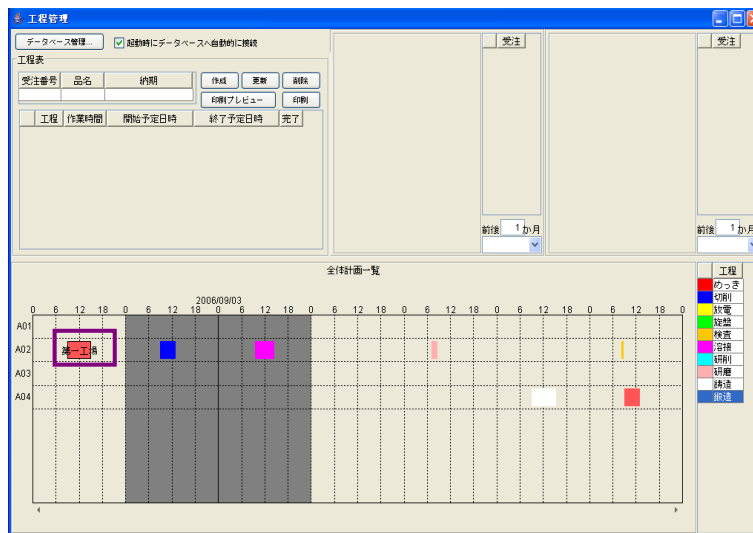
〔タスク名〕のテキストボックスに表示内容を入力します。



[適用]ボタンを左クリックします。



指定したグラフ上に設定内容が表示されたことが確認できます。

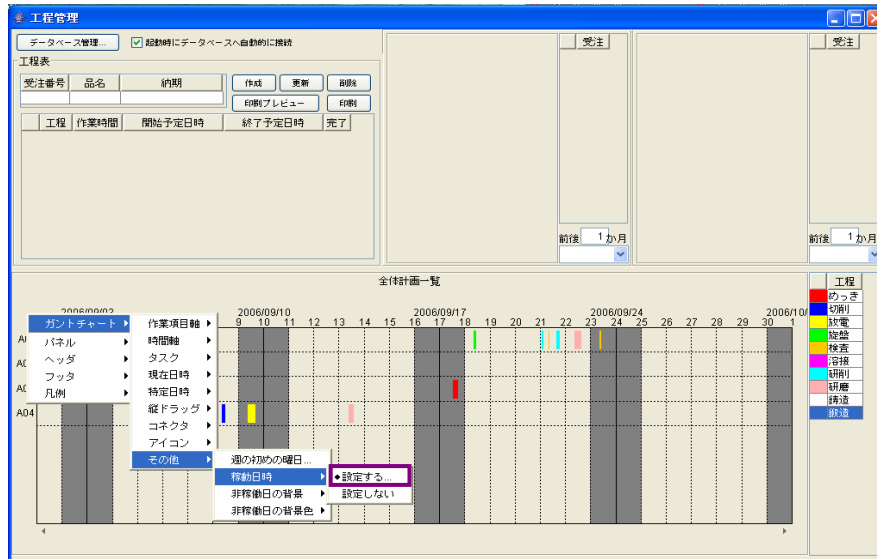


！！注意事項！！

現在の「工程管理システム簡易版」では、設定したタスク名の内容を保存することができません。従って、一度保存したタスク名を含むデータを再表示すると、タスク名が非表示のガントチャートが表示されます。

4-7 稼働日時の設定

ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「その他」→「稼働日時」→「設定する...」とたどり、左クリックします。



「稼働日時を入力してください。」ダイアログが表示されます。

稼働日時を入力してください。

通常の稼働日時 特定の非稼働日

曜日

☐ 日曜日 ☒ 月曜日 ☒ 火曜日 ☒ 水曜日

☒ 木曜日 ☒ 金曜日 ☐ 土曜日

時間

開始時間 0 : 0

終了時間 24 : 0

適用 取消

〔曜日〕欄下部にチェックを入れる項目があります。曜日左隣にある□部分を左クリックすると、チェックマークが入ります。

稼働日時を入力してください。

通常の稼働日時 特定の非稼働日

曜日

☐ 日曜日 ☒ 月曜日 ☒ 火曜日 ☒ 水曜日

☒ 木曜日 ☒ 金曜日 ☒ 土曜日

時間

開始時間 0 : 0

終了時間 24 : 0

適用 取消

[適用]ボタンを左クリックします。

稼働日時を入力してください。

通常の稼働日時 特定の非稼働日

曜日

☐ 日曜日 ☒ 月曜日 ☒ 火曜日 ☒ 水曜日

☒ 木曜日 ☒ 金曜日 ☒ 土曜日

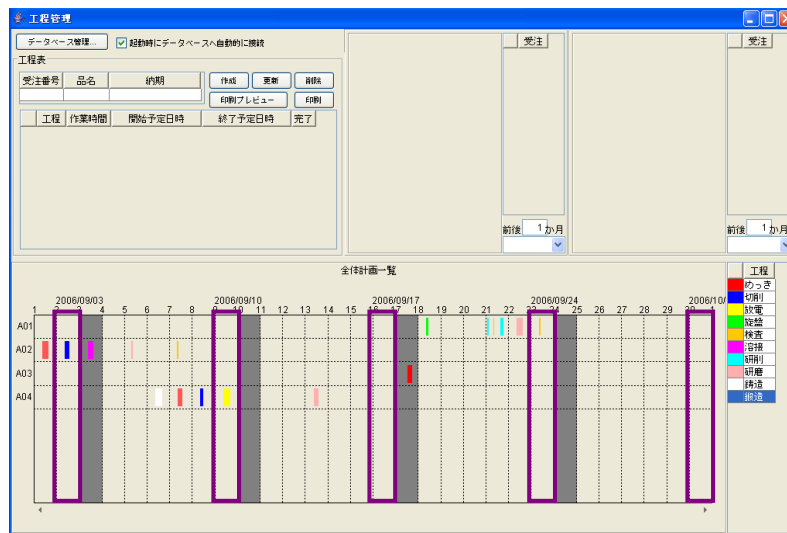
時間

開始時間 0 : 0

終了時間 24 : 0

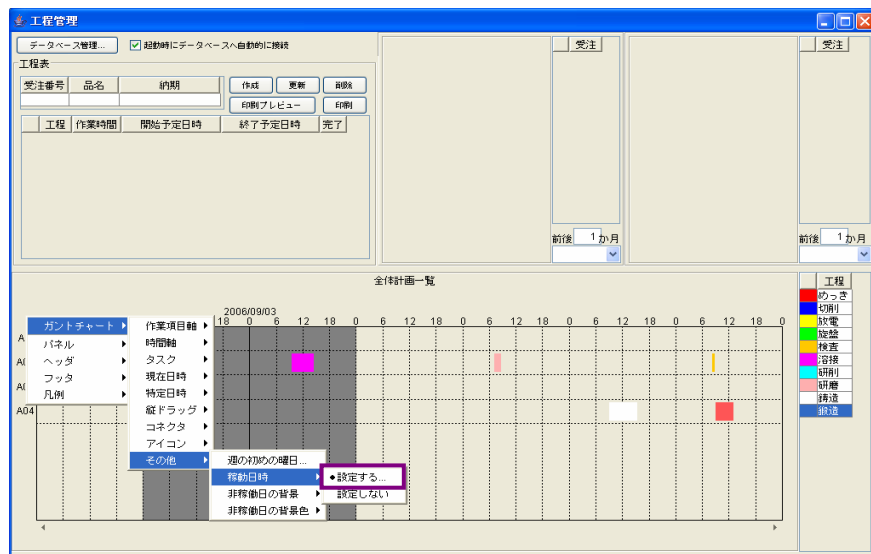
適用 取消

稼働日に設定した曜日の背景色が変化したことが確認できます。



4-8 稼働時間の設定

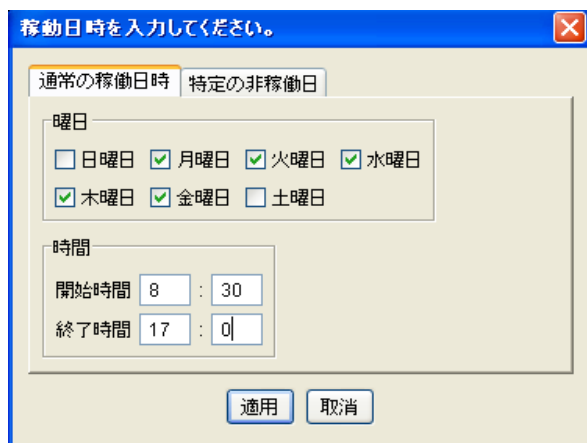
ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「その他」→「稼働日時」→「設定する...」とたどり、左クリックします。



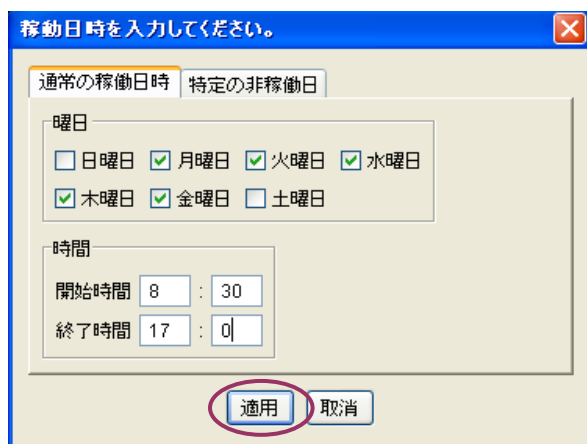
「稼働日時を入力してください。」ダイアログが表示されます。

〔時間〕欄下部に〔開始時間〕と〔終了時間〕項目があります。

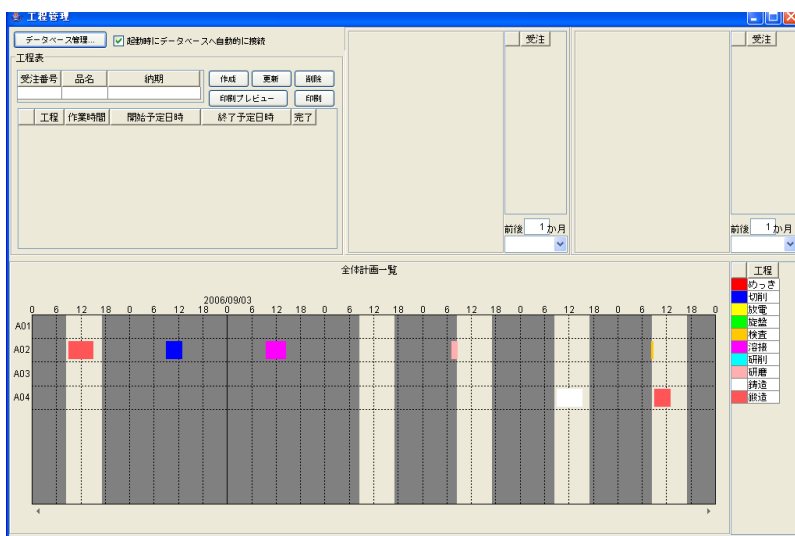
項目右隣にあるテキストボックスに設定時間を入力します（データ例:〔開始時間〕 8:30、〔終了時間〕 17:00）。



[適用]ボタンを左クリックします。

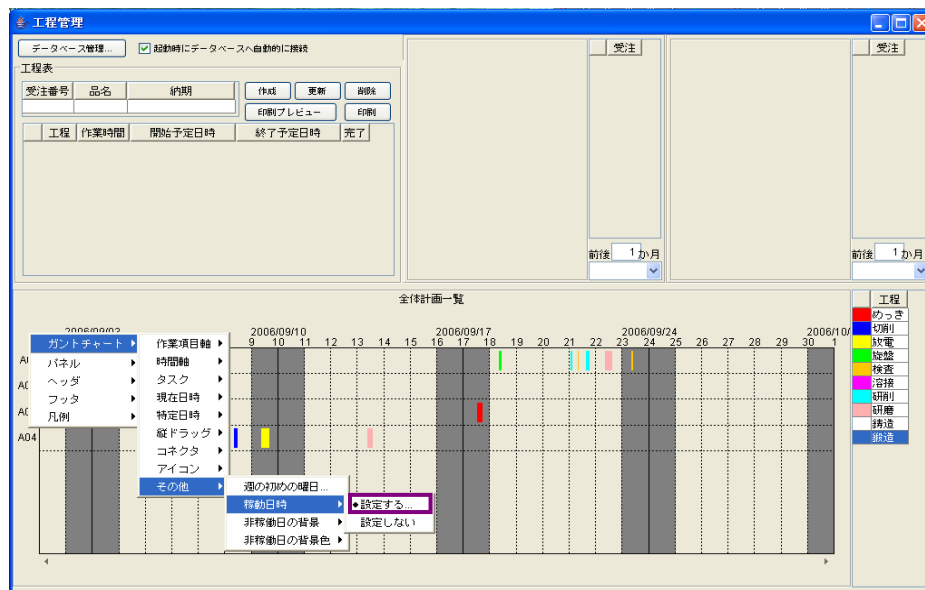


一日の中で、稼働時間と非稼働時間が設定されたことがガントチャートで確認できます。稼働時間である 8:30～17:00 の背景色は薄いグレーとなり、非稼働時間である 0:00～8:30 と 17:00～24:00 の背景色は濃いグレーとなります。

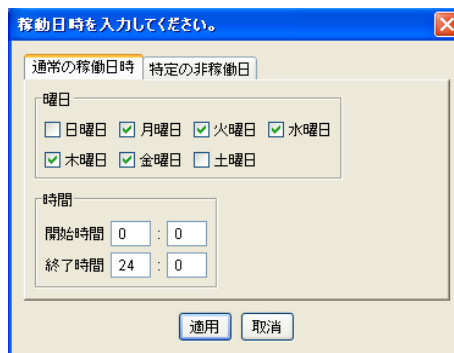


4-9 非稼働日の追加

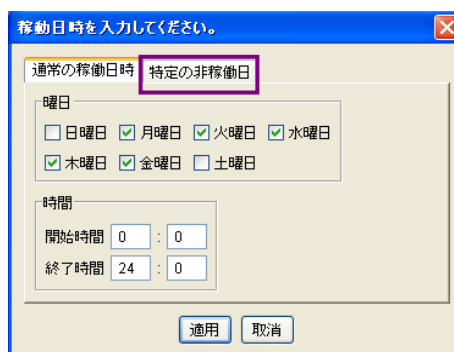
ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「その他」→「稼働日時」→「設定する...」とたどり、左クリックします。



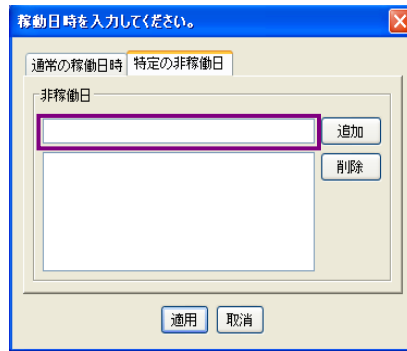
「稼働日時を入力してください。」ダイアログが表示されます。



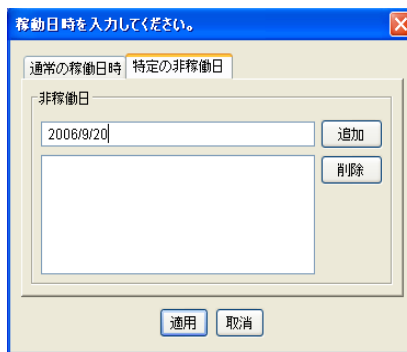
〔特定の非稼働日〕タブを左クリックします。



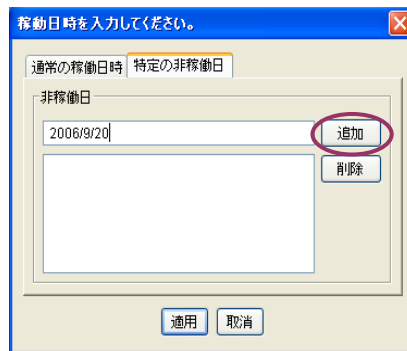
〔非稼働日〕欄下部にあるテキストボックスを左クリックします。



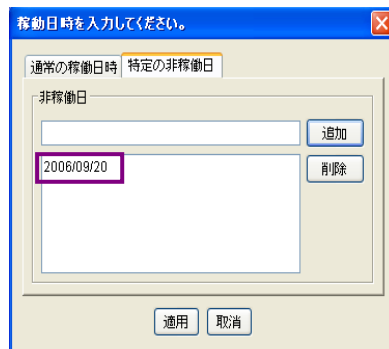
設定する日付を入力します。(データ例：2006/9/20)



[追加]ボタンを左クリックします。



設定した日付がリストボックスに登録されたことが確認できます。



[適用]ボタンを左クリックします。

稼働日時を入力してください。

通常の稼働日時 | 特定の非稼働日

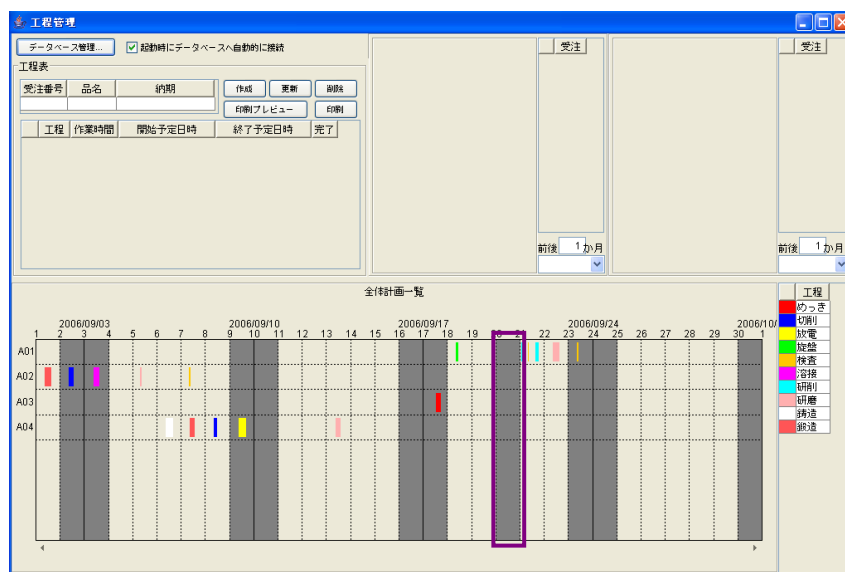
非稼働日

2006/09/20

追加 削除

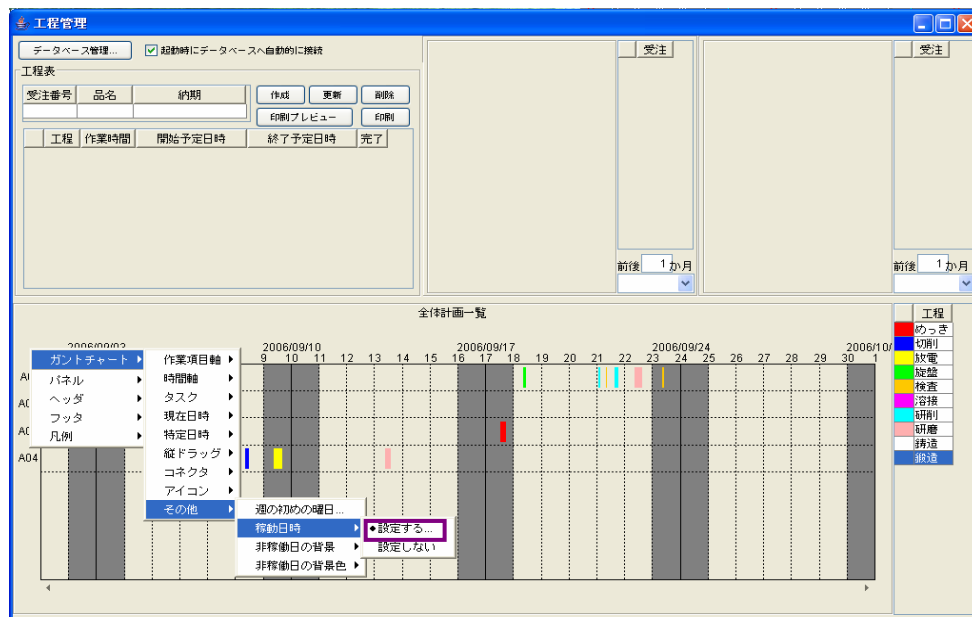
適用 取消

非稼働日が設定されたことがガントチャートで確認できます。

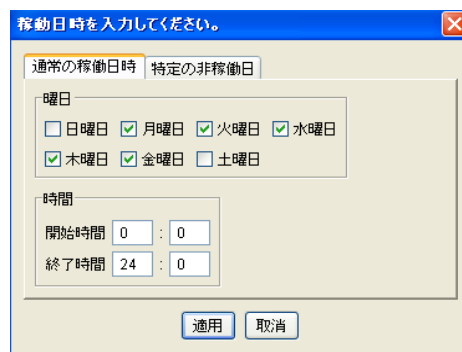


4-10 非稼働日の削除

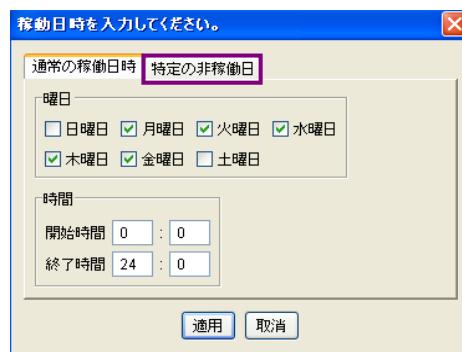
ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「その他」→「稼働日時」→「設定する」とたどり、左クリックします。



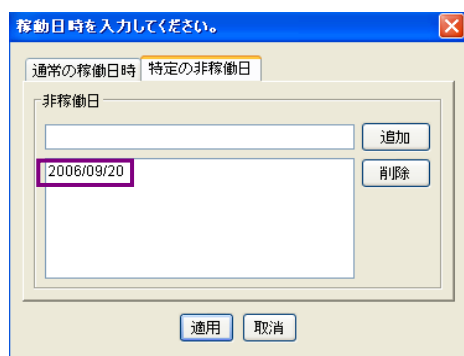
「稼働日時を入力してください。」ダイアログが表示されます。



〔特定の非稼働日〕タブを左クリックします。



リストボックスに設定した日付が登録されています。削除する日付を左クリックします。



移動日時を入力してください。

通常の稼働日時 特定の非稼働日

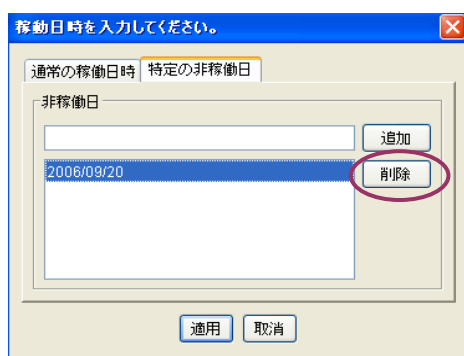
非稼働日

2006/09/20

追加 削除

適用 取消

[削除]ボタンを左クリックします。



移動日時を入力してください。

通常の稼働日時 特定の非稼働日

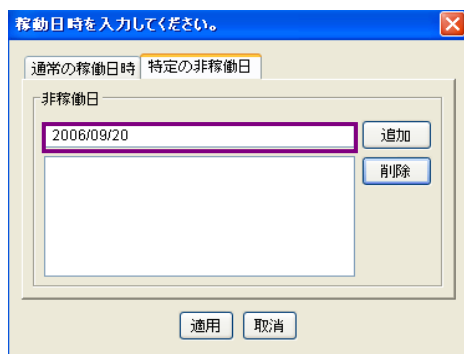
非稼働日

2006/09/20

追加 削除

適用 取消

日付がリストボックスから上部のテキストボックスに移動しました。



移動日時を入力してください。

通常の稼働日時 特定の非稼働日

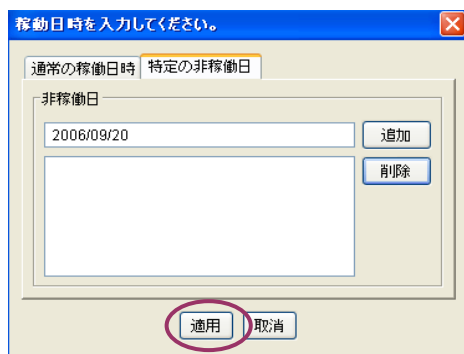
非稼働日

2006/09/20

追加 削除

適用 取消

[適用]ボタンを左クリックします。



移動日時を入力してください。

通常の稼働日時 特定の非稼働日

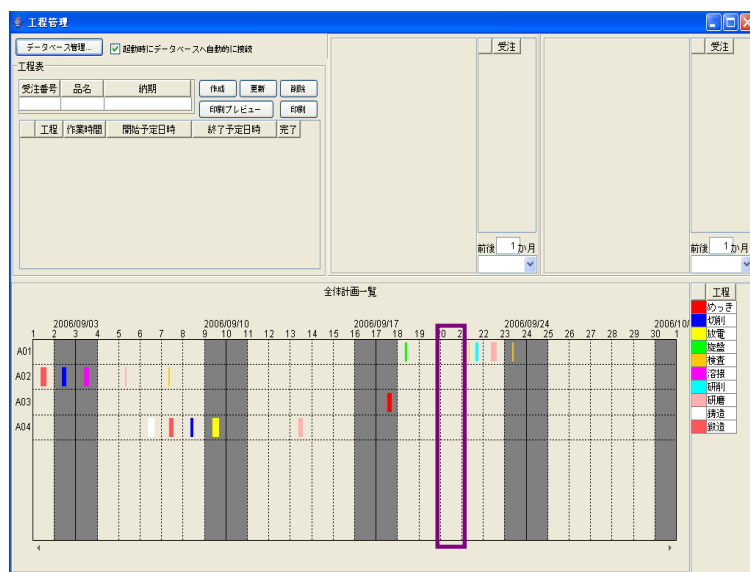
非稼働日

2006/09/20

追加 削除

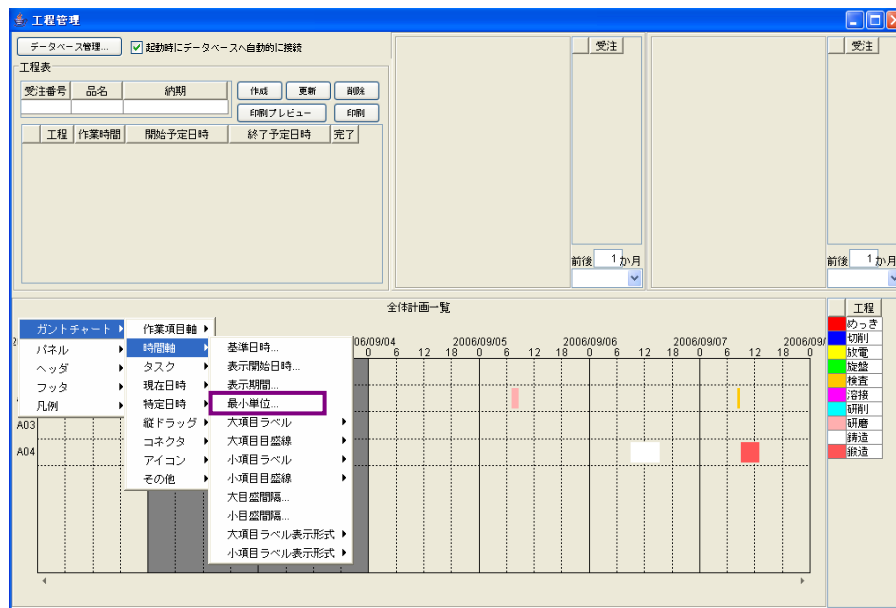
適用 取消

非稼働日が解除されたことがガントチャートで確認できます。

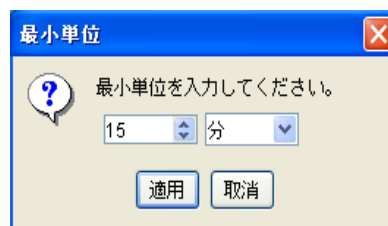


4-11 帯グラフの移動時間幅の設定

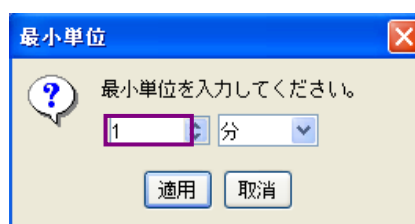
ガントチャート上で右クリックします。「ガントチャート」→「時間軸」→「最小単位...」とたどり、左クリックします。



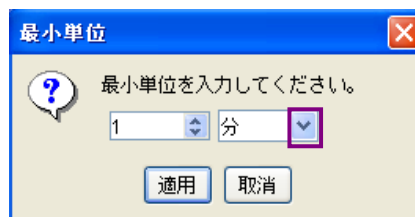
「最小単位」ダイアログが表示されます。



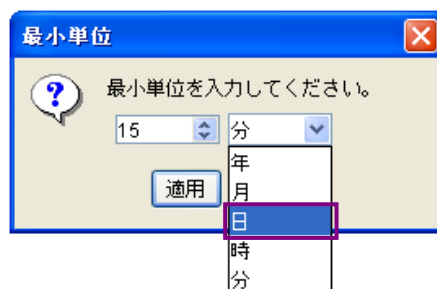
左側にあるボックスに設定値を入力します（1日に設定する時は、「1」を入力）。



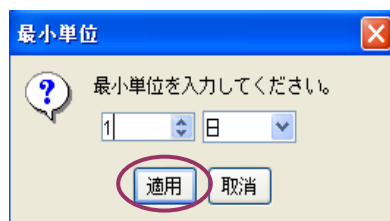
コンボボックスの「v」部分を左クリックします。



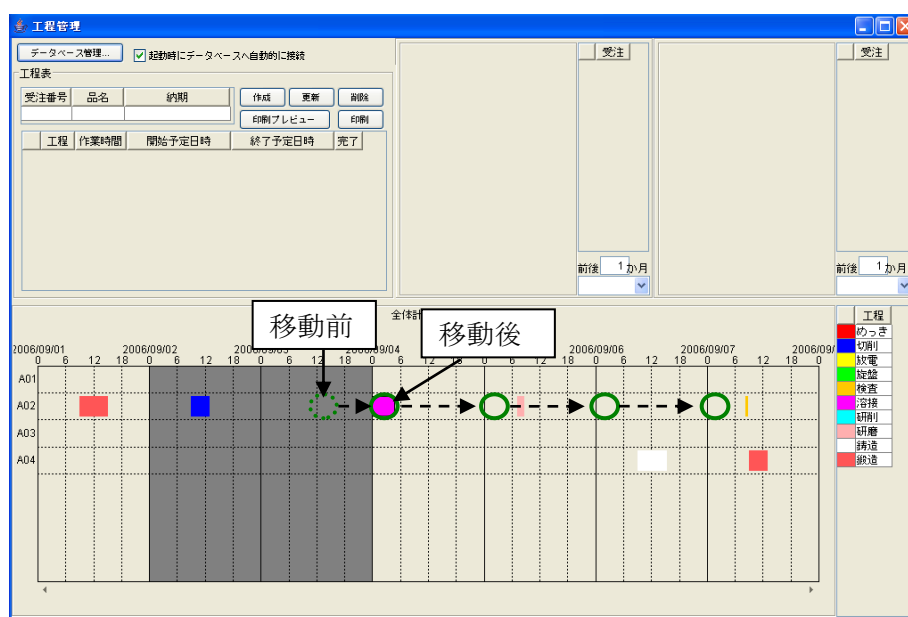
リスト一覧が表示されます。「日」の上にマウスポインタを移動し、左クリックします。



[適用]ボタンを左クリックします。



1 回ドラッグした時の移動時間間隔が変化したことが確認できます。



補足

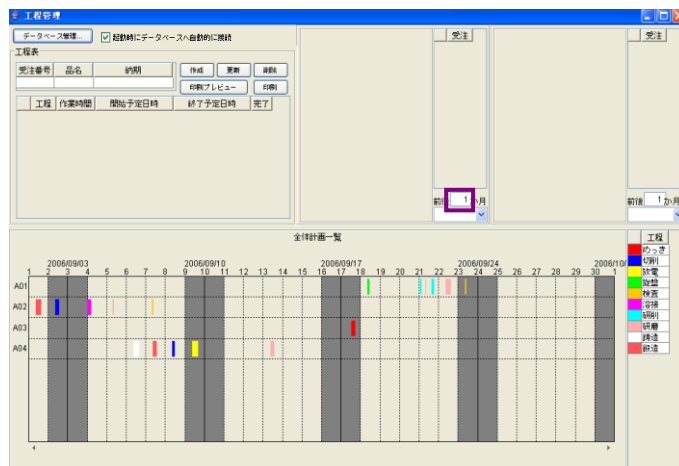
帯グラフを移動した時の状態がわかるように、設定を1日にしました。既定は15(分)間隔に設定されています。移動間隔を5(分)にする時は「5」を入力、10(分)にする時は「10」を入力します。設定できる値は、単位ごとにそれぞれ決められています。

分単位で設定する時の値は、1、2、3、4、5、6、10、12、15、20、30 となっています。各自操作して、単位ごとに設定できる値を確認してください。

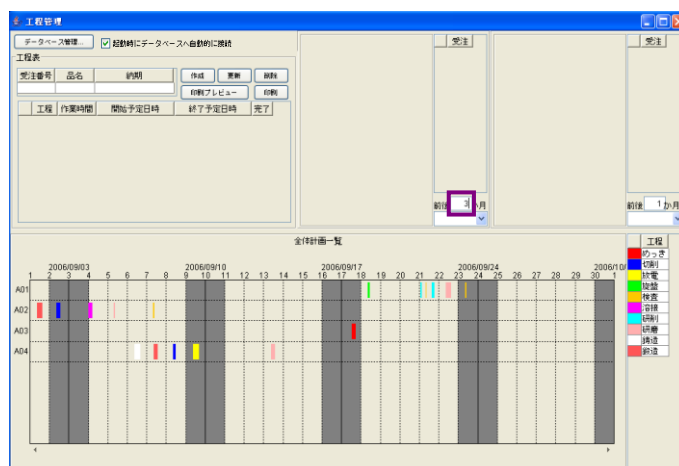
第5章 日付別負荷状況（工程指定）グラフの表示形式の設定

5-1 グラフ表示期間の変更

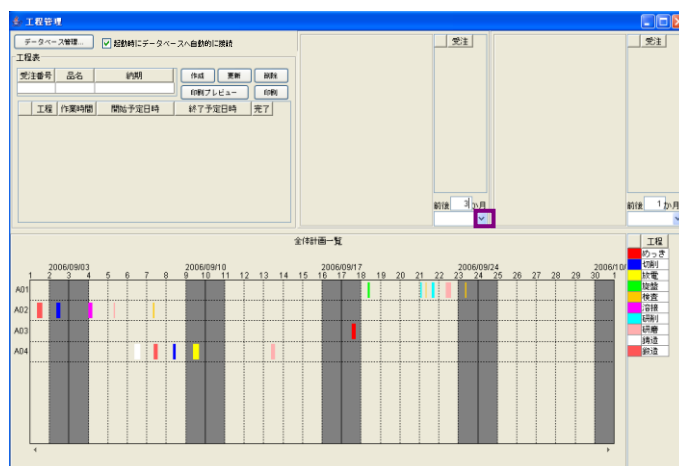
「工程管理」画面の中央付近にテキストボックスがあります。既定値は前後 1 ヶ月に設定されていますが、これは工程管理システム簡易版を使用している日付を基準に前後 1 ヶ月間ということです。使用日が 2006/10/26 なら、2006/9/26～2006/11/25 が範囲期間になります。



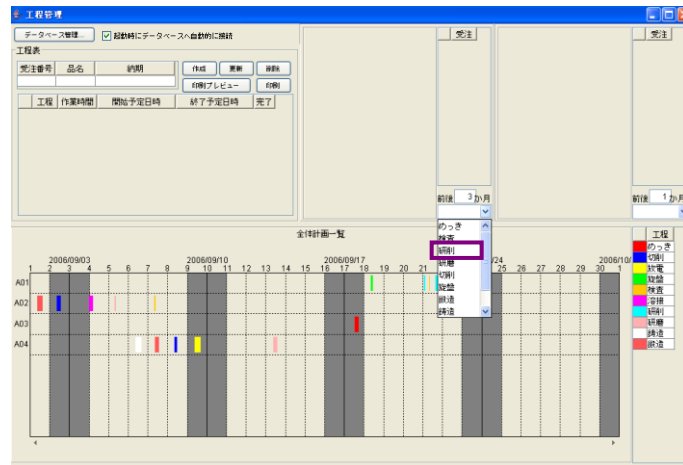
テキストボックスに設定値を入力します。例えば、前後 3 ヶ月の情報を確認したい時は「3」を入力します。



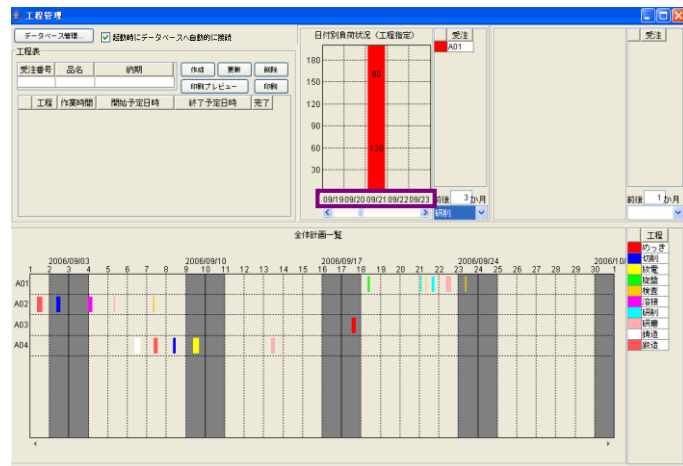
コンボボックスの「v」部分を左クリックします。



工程一覧が表示されます。選択する項目上にマウスポインタを移動し、左クリックします（データ例：研削）。

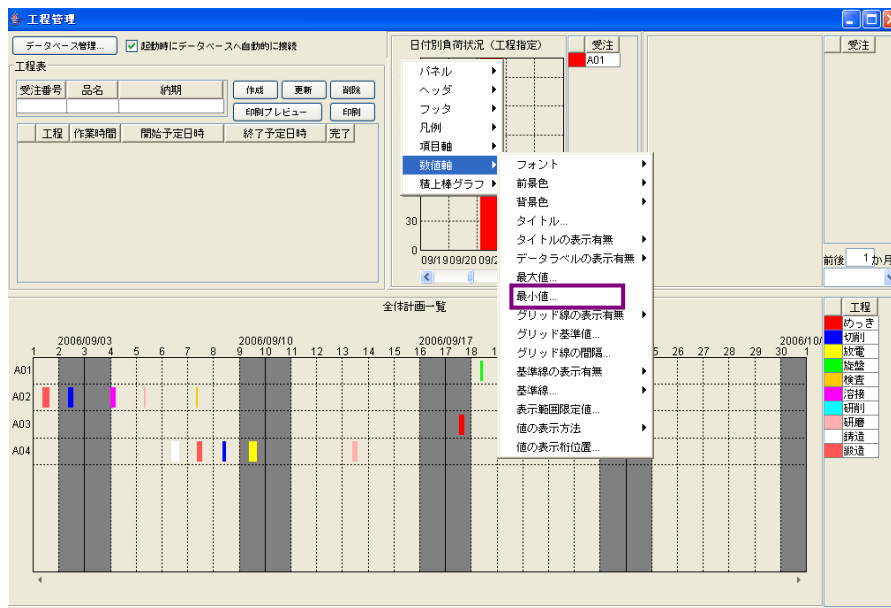


グラフ横軸の期間として、2006/7/26～2007/1/25 が表示されることが確認できます。

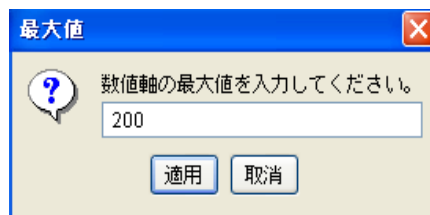


5-2 グラフの最大値変更

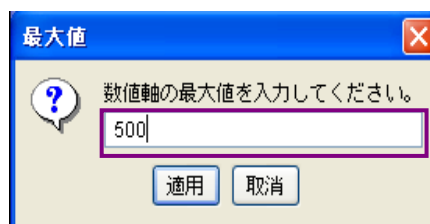
グラフ画面を表示し、任意場所で右クリックします。「数値軸」→「最大値...」とたどり、左クリックします。



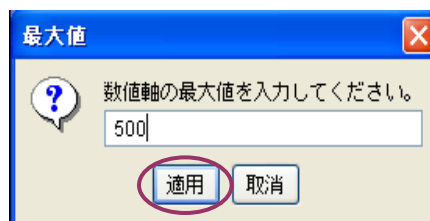
「最大値」ダイアログが表示されます。



テキストボックスに設定値を入力します。(データ例：500)



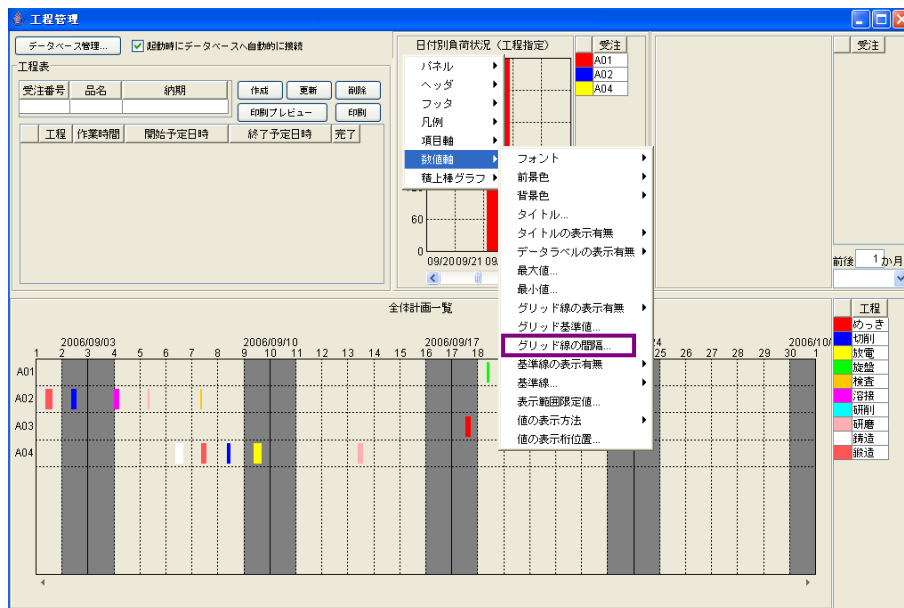
[適用]ボタンを左クリックします。



縦軸の最大値が、200 → 500 に変更されたことが確認できます。

5-3 数値軸の目盛間隔の変更

グラフ画面を表示し、任意場所で右クリックします。「数値軸」→「グリッド線の間隔...」とたどり、左クリックします。

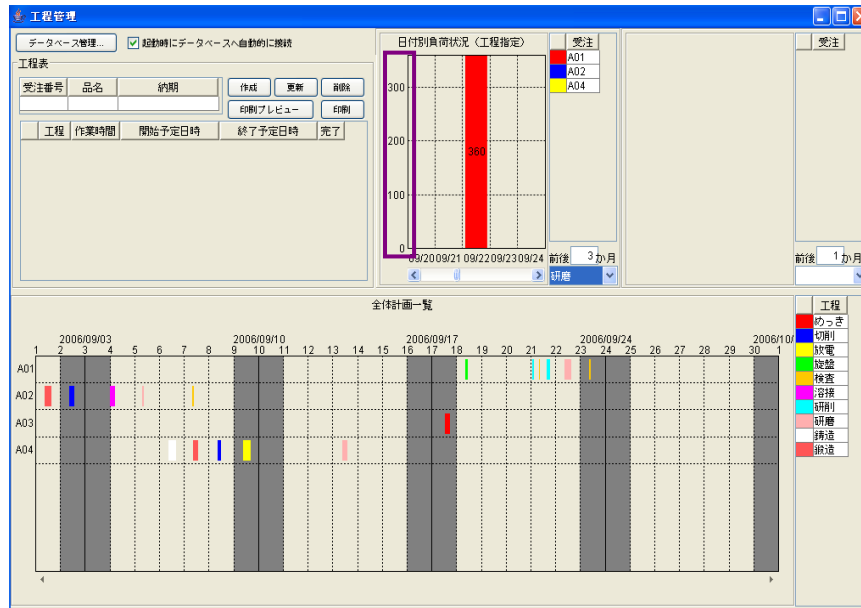


「グリッド線の間隔」ダイアログが表示されます。

テキストボックスに設定値を入力します（データ例: 100）。

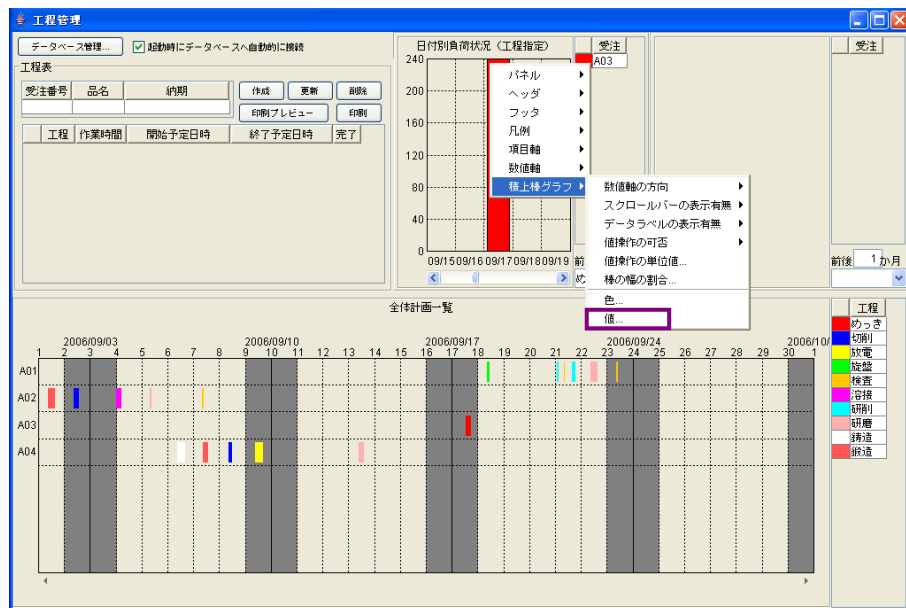
[適用]ボタンを左クリックします。

縦軸の目盛間隔が 60 → 100 に変更されたことが確認できます。



5-4 積上棒グラフの値変更

積上棒グラフ上(例では、赤い棒グラフ)にマウスポインタを移動し、右クリックします。「積上棒グラフ」→「値...」とたどり、左クリックします。

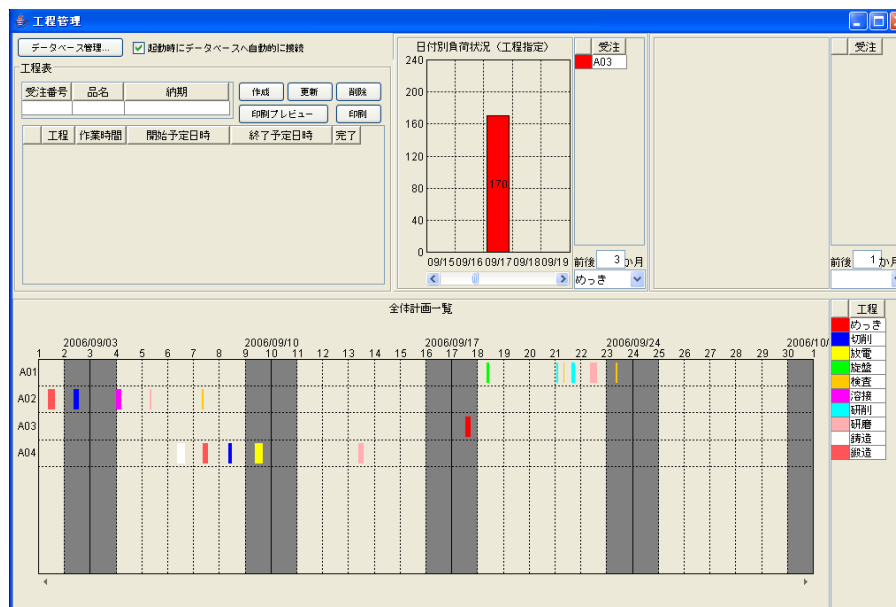


「値」ダイアログが表示されます。

テキストボックスに設定値を入力します (データ例: 170)。

[適用]ボタンを左クリックします。

積上棒グラフの数値が、240 → 170 に変更されたことが確認できます。



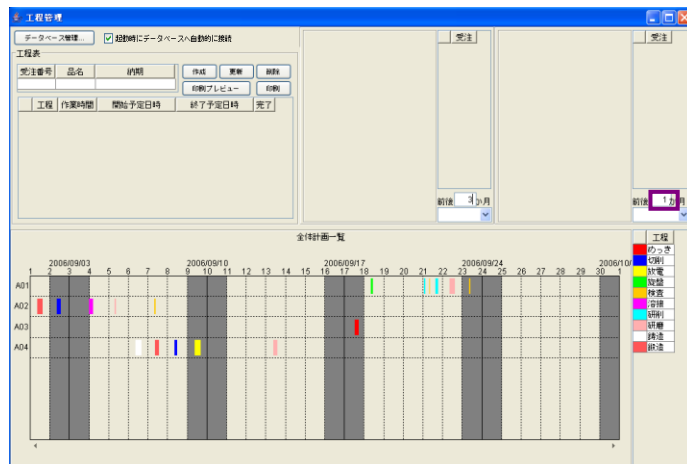
！！注意事項！！

棒グラフの内容を変更しても、「工程指示表」には反映されません。「工程指示表」の「作業時間」を変更すると、変更内容が反映されます。

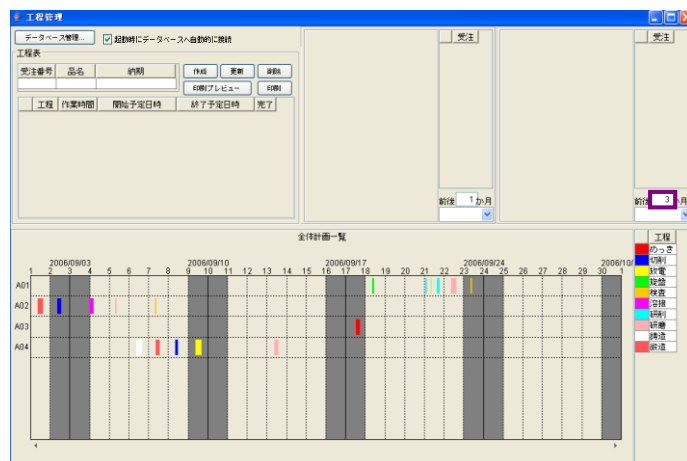
第6章 工程別負荷状況（日付指定）グラフの表示形式の設定

6-1 日付選択の範囲変更

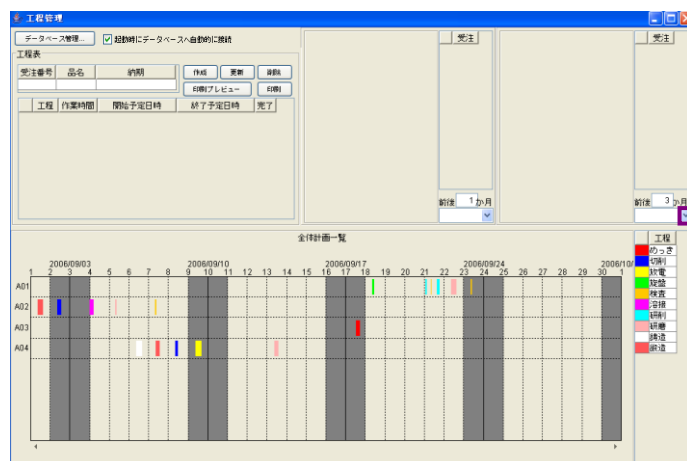
「工程管理」画面の中央付近にテキストボックスがあります。既定値は前後 1 ヶ月に設定されていますが、これは工程管理システム簡易版を使用している日付を基準に前後 1 ヶ月間ということです。使用日が 2006/10/26 なら、2006/9/26～2006/11/25 が範囲期間になります。



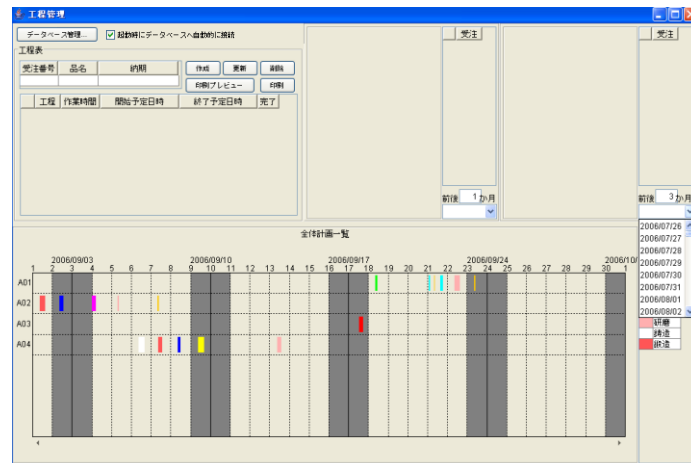
テキストボックスに設定値を入力します。例えば、前後 3 ヶ月の情報を確認したい時は「3」を入力します。



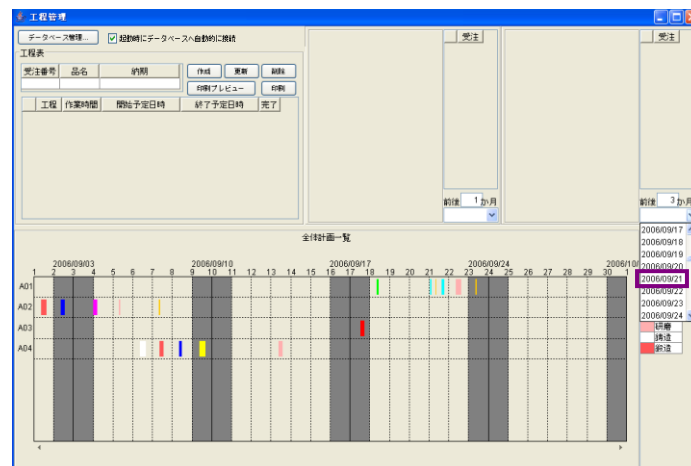
コンボボックスの「v」部分を左クリックします。



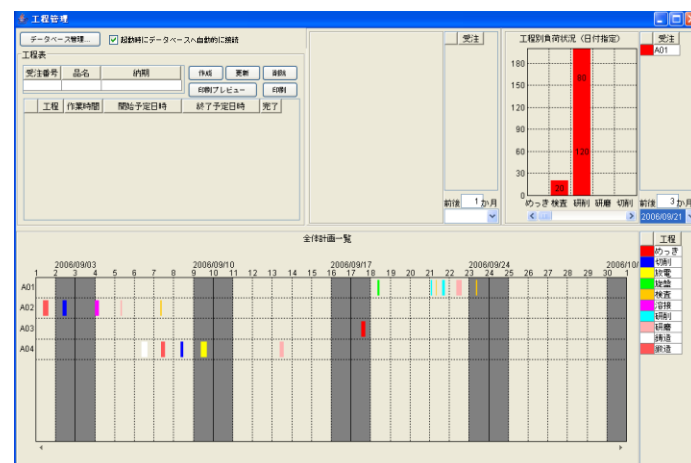
日付一覧が表示されます。日付範囲が前後3ヶ月（2006/7/26～2007/1/25）に変更されたことが確認できます。



日付上にマウスポインタを移動し、左クリックします（データ例: 2006/9/21）。

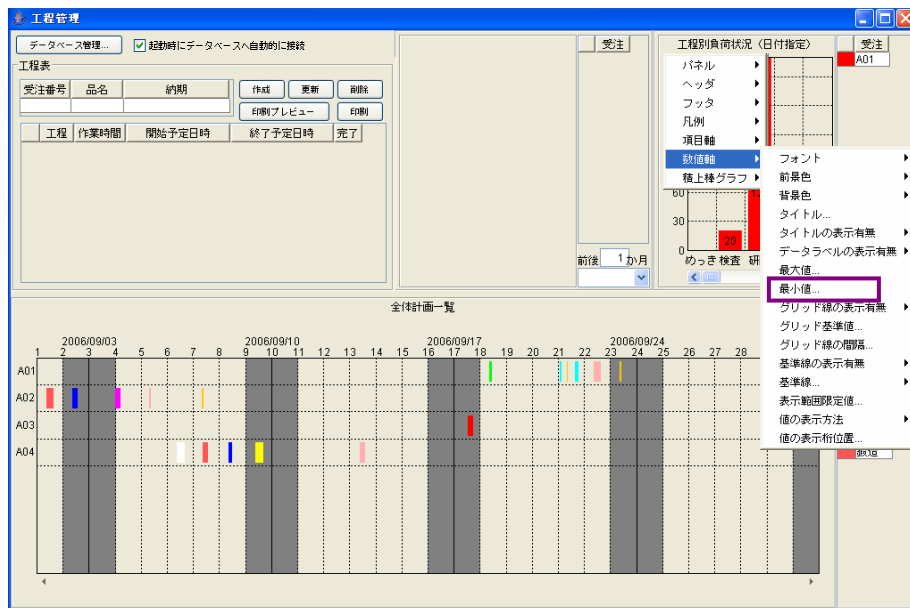


選択した日付における各工程の負荷状況を、積上棒グラフで表示します。



6-2 グラフの最大値変更

グラフ画面を表示し、任意場所で右クリックします。「数値軸」→「最大値...」とたどり、左クリックします。

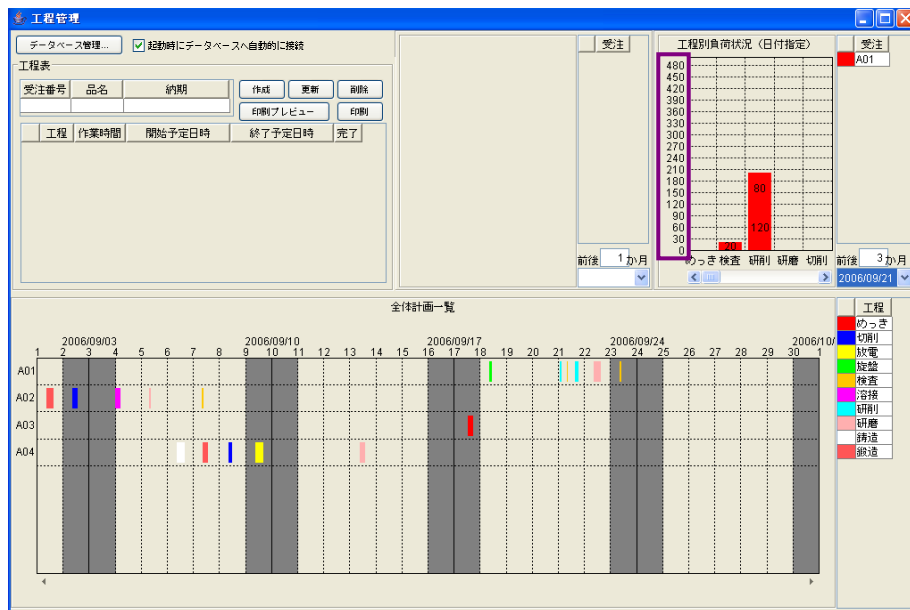


「最大値」ダイアログが表示されます。

テキストボックスに設定値を入力します（データ例: 500）。

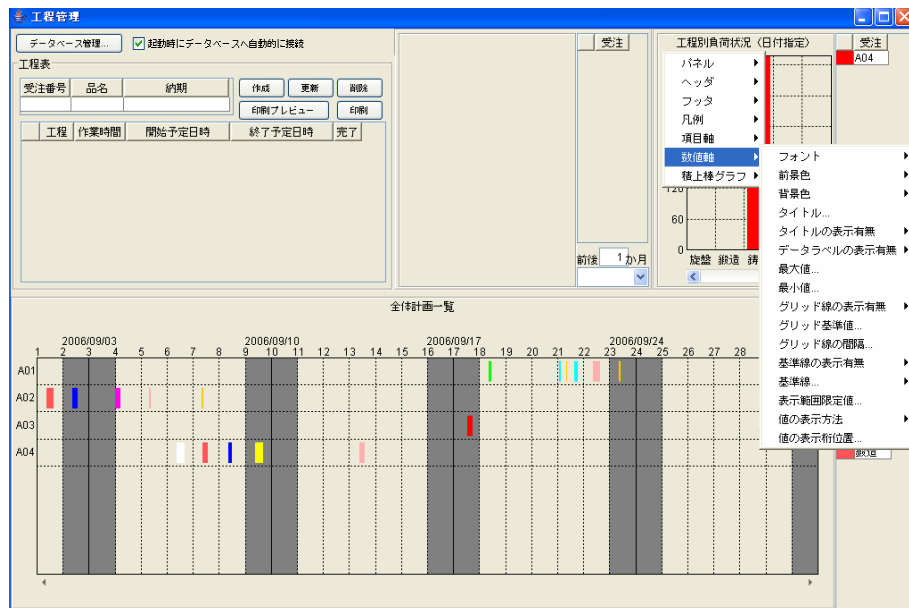
[適用]ボタンを左クリックします。

縦軸の最大値が、200 → 500 に変更されたことが確認できます。

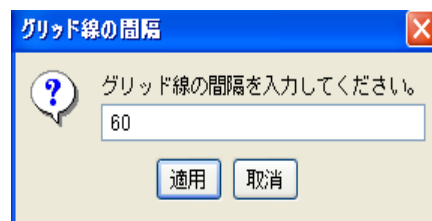


6-3 数値軸の目盛間隔の変更

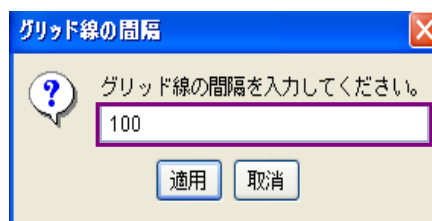
グラフ画面を表示し、任意場所で右クリックします。「数値軸」→「グリッド線の間隔...」とたどり、左クリックします。



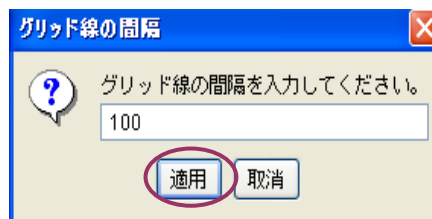
「グリッド線の間隔」ダイアログが表示されます。



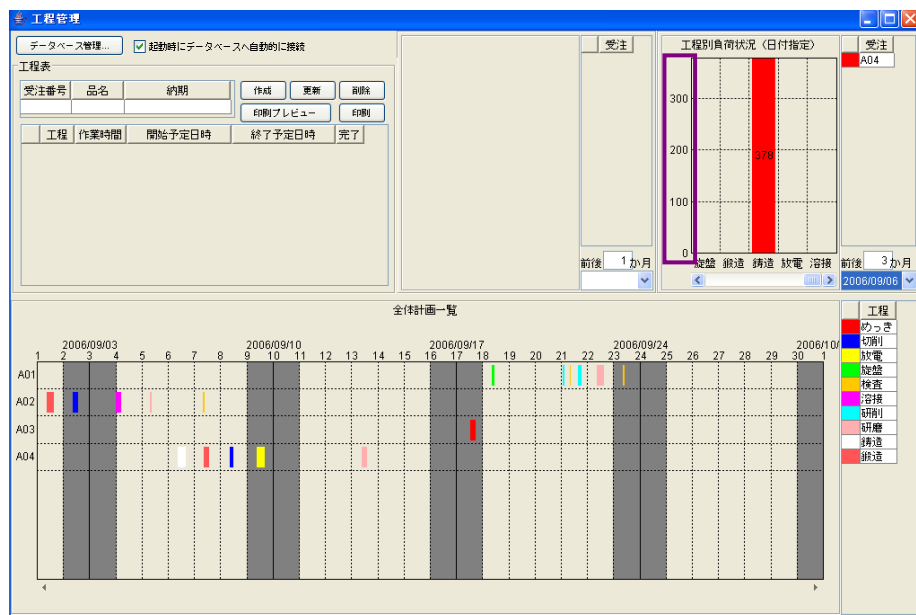
テキストボックスに設定値を入力します（データ例: 100）。



[適用]ボタンを左クリックします。

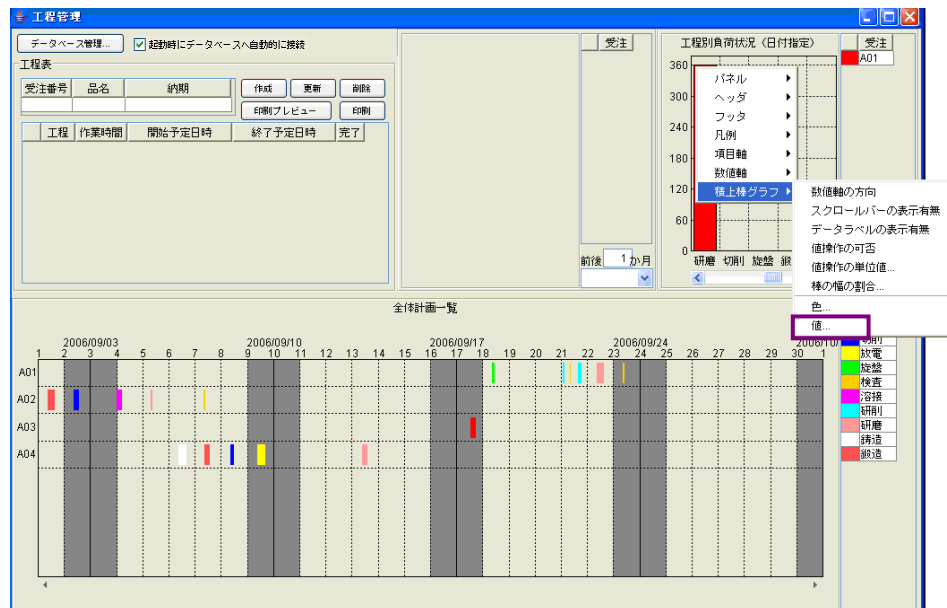


縦軸の目盛間隔が 60 → 100 に変更されたことが確認できます。



6-4 積上棒グラフの値変更

積上棒グラフ上（例では、赤い棒グラフ）にマウスポインタを移動し、右クリックします。「積上棒グラフ」→「値...」とたどり、左クリックします。

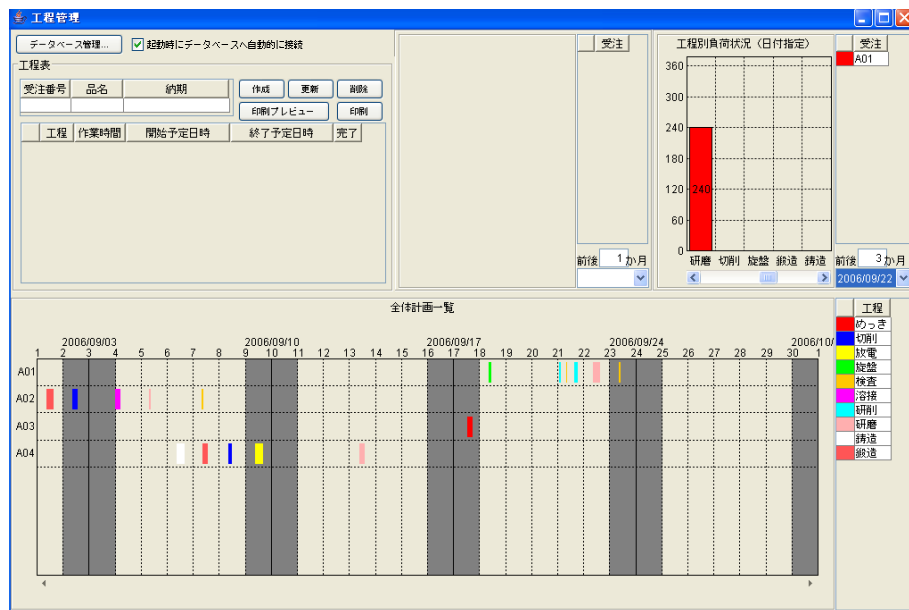


「値」ダイアログが表示されます。

テキストボックスに設定値を入力します（データ例: 170）。

[適用]ボタンを左クリックします。

積上棒グラフの数値が、240 → 170 に変更されたことが確認できます。



！！注意事項！！

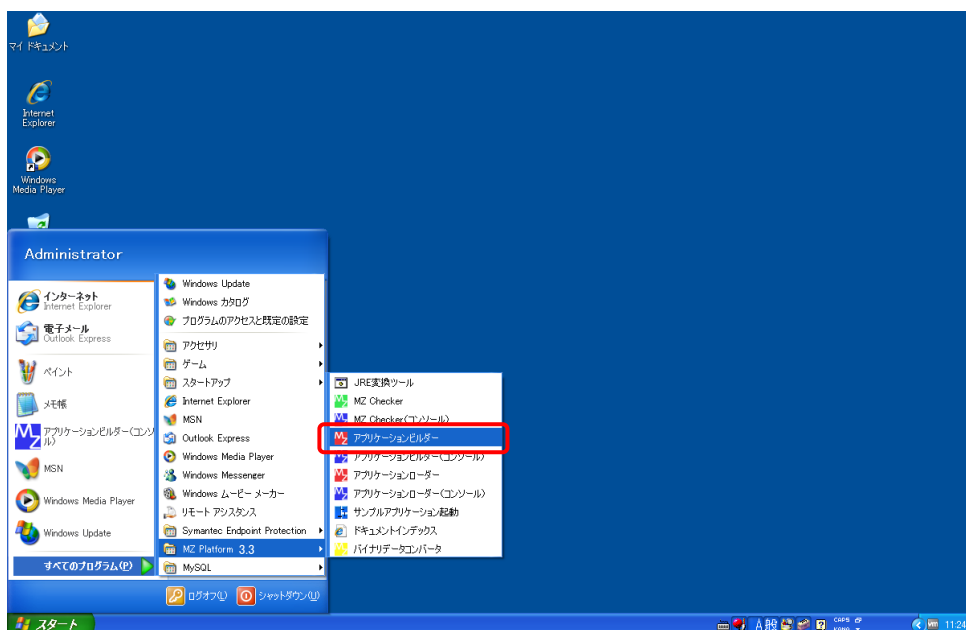
棒グラフの内容を変更しても、「工程指示表」には反映されません。「工程指示表」の「作業時間」を変更すると、変更内容が反映されます。

第7章 ネットワーク接続の設定

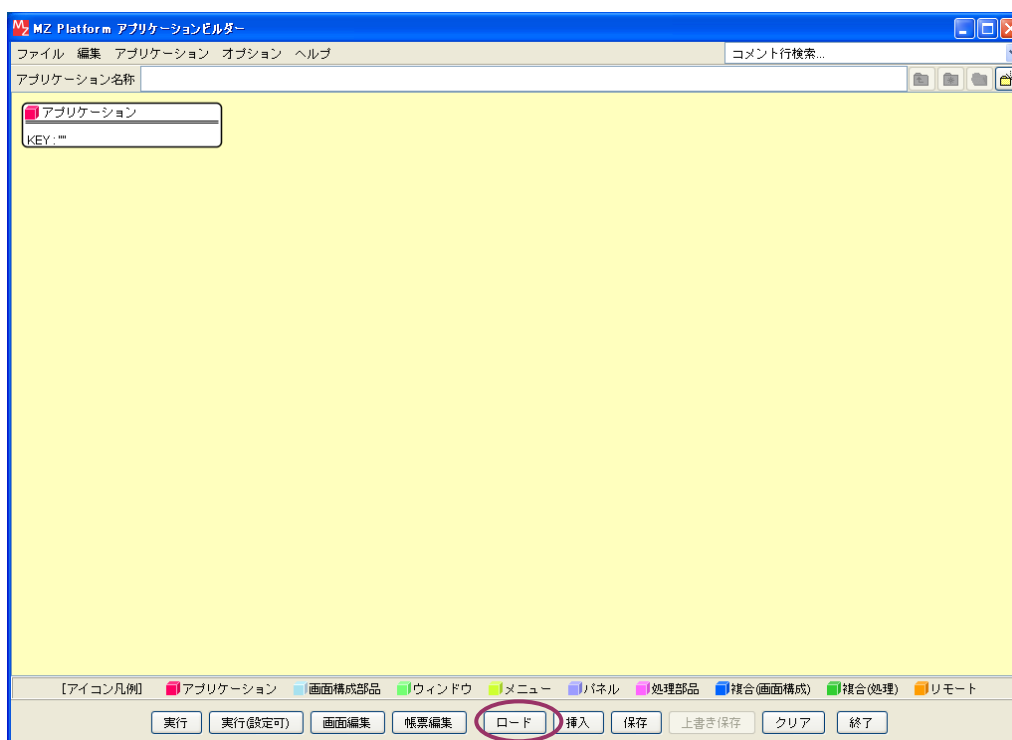
MZ Platform の工程管理システムをネットワーク接続（複数のパソコンでデータ共有）で使用する
場合の設定方法です。各パソコンに MZ Platform がインストール済みであることが前提となります。
任意のパソコン1台をサーバにし、そのサーバパソコンで以下の操作を行います。

7-1 工程管理システムのロードと起動

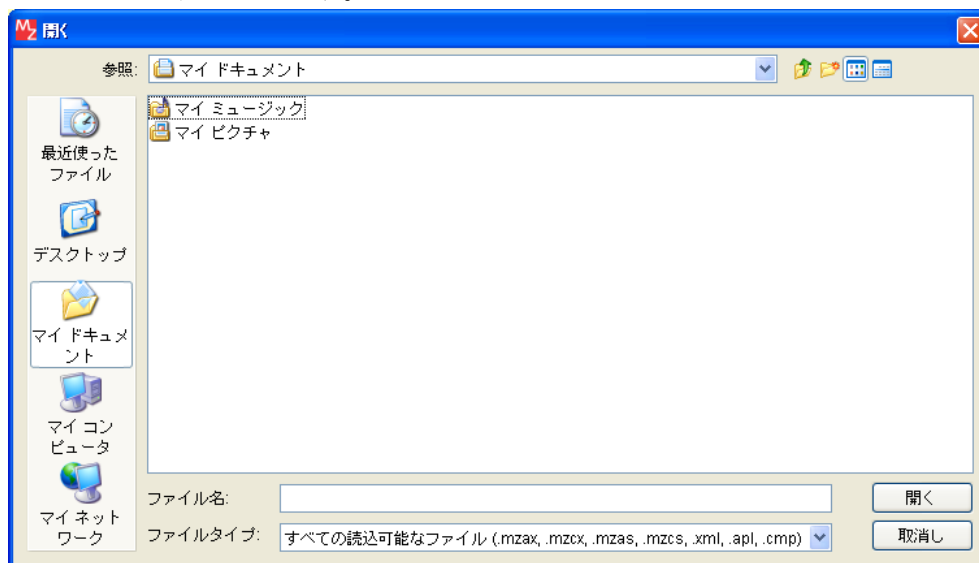
「スタート」→「すべてのプログラム(P)」→[MZ Platform 3.3]→「アプリケーションビルダー」と
たどり、左クリックします。



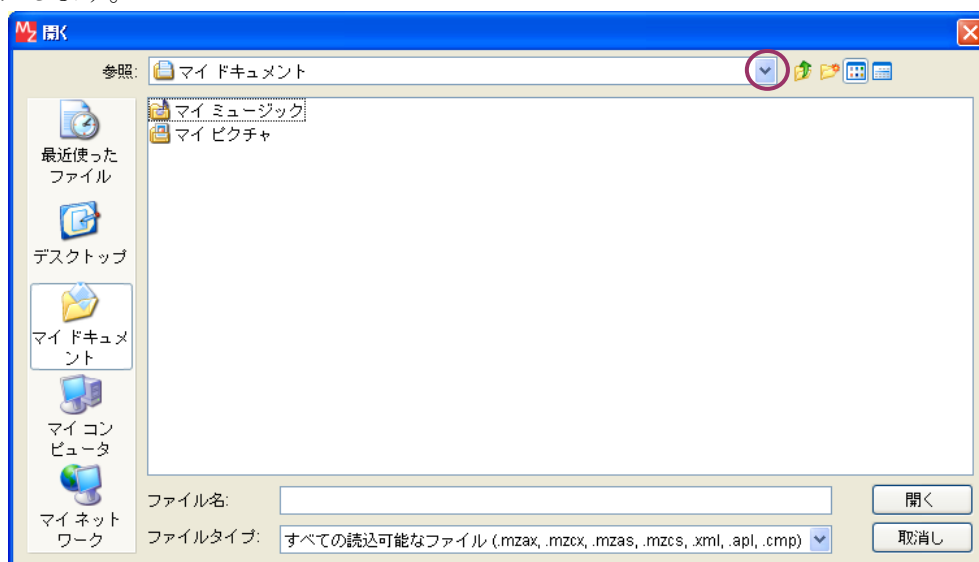
以下の画面が表示されたら、[ロード]ボタンを左クリックします。



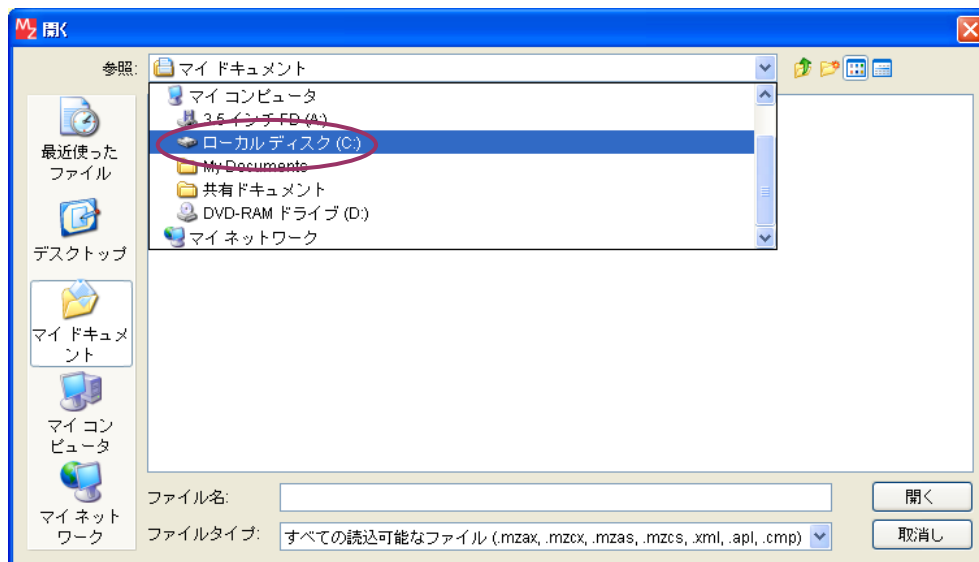
「開く」ダイアログが表示されます。



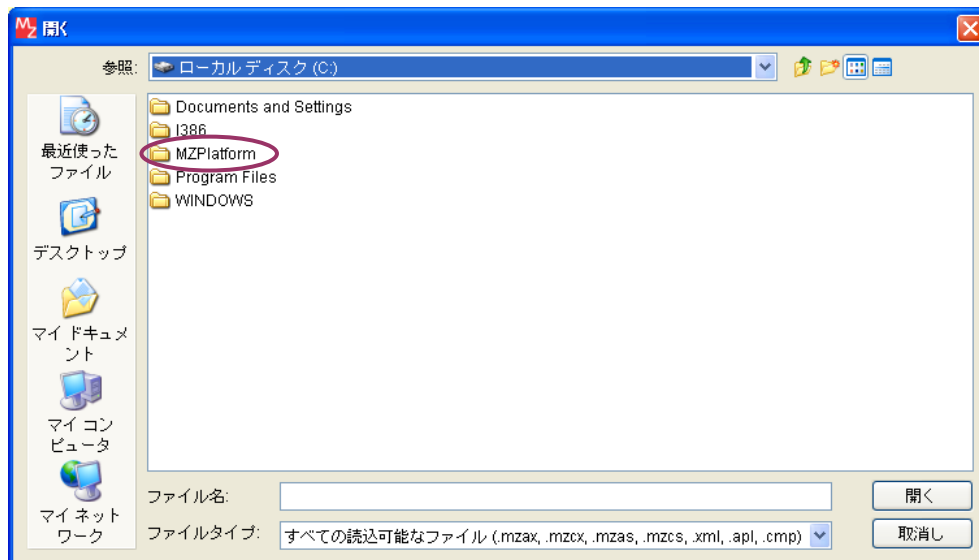
「ProductionControl.mzax」ファイルのある場所を指定します。「参照:」右隣にあるボックスの[v]を左クリックします。



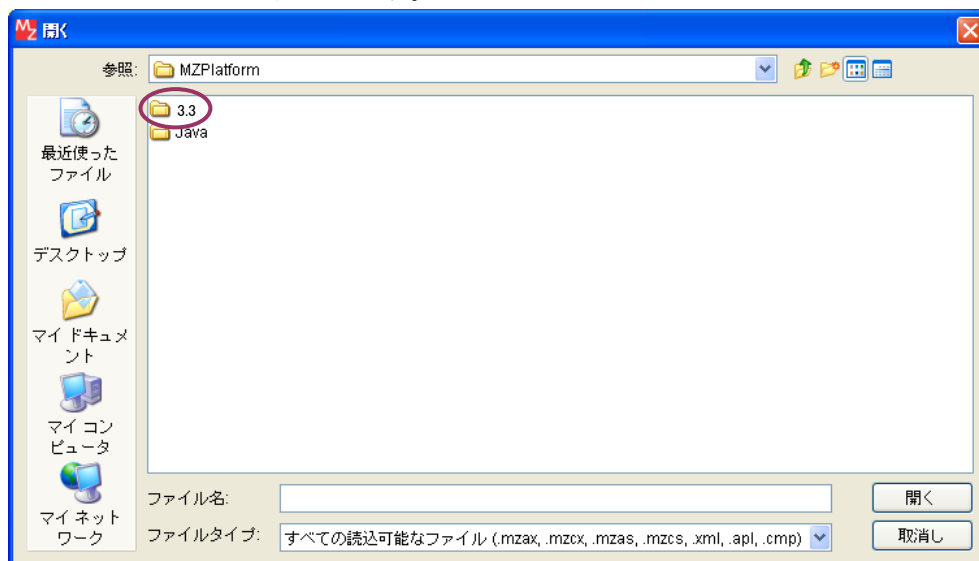
場所指定をする一覧が表示されます。「ローカルディスク(C:)」を左クリックします。



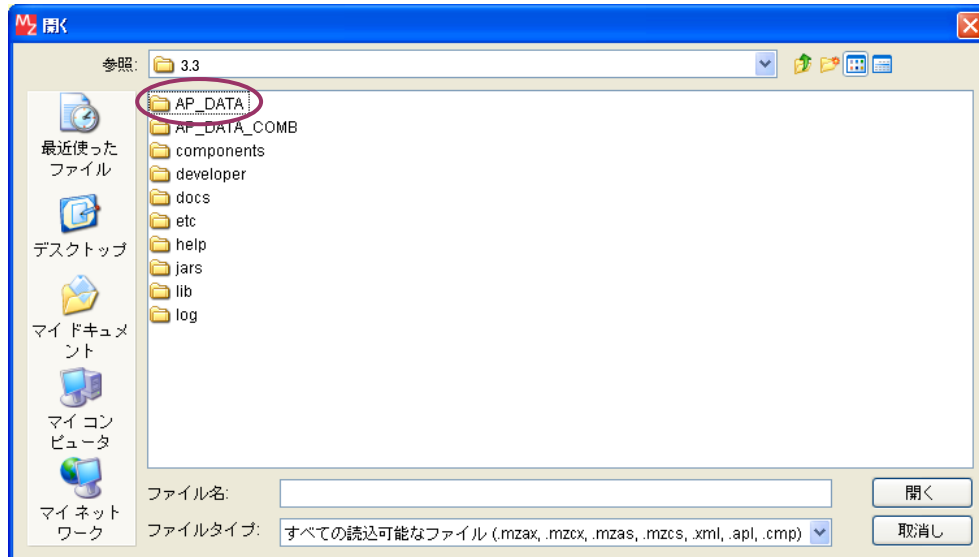
「MZPlatform」フォルダをダブルクリックします。



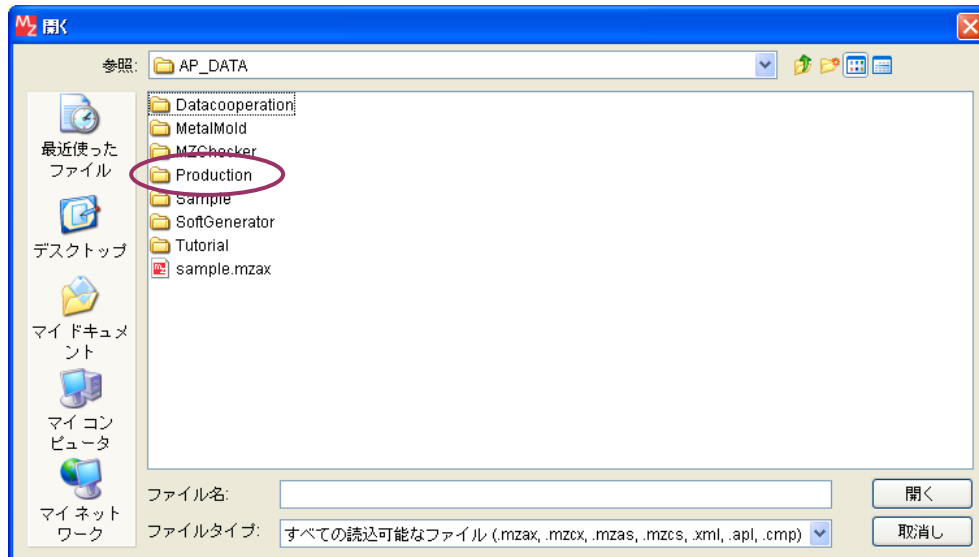
「3.3」フォルダをダブルクリックします。



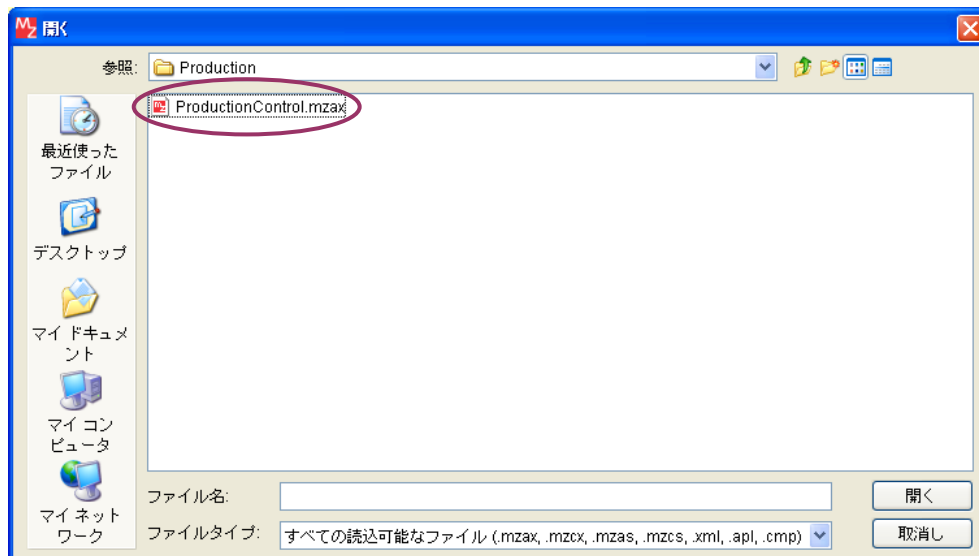
「AP_DATA」フォルダをダブルクリックします。



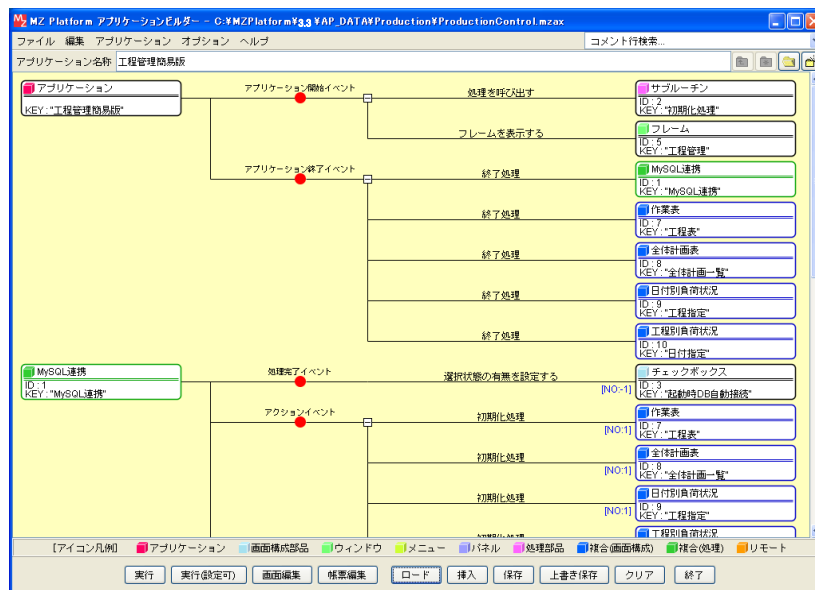
「Production」フォルダをダブルクリックします。



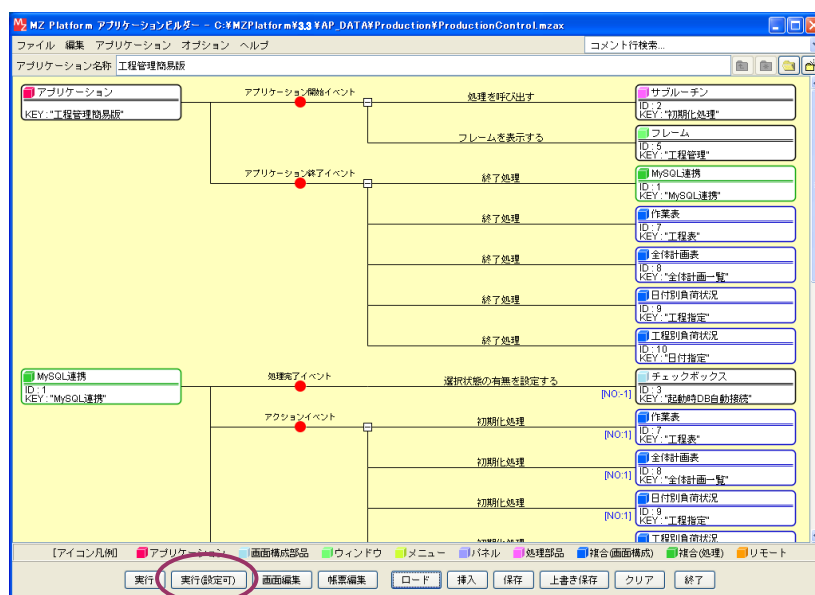
「ProductionControl.mzax」ファイルのアイコンをダブルクリックします。



ファイルの情報が読み込まれ、以下の接続画面を確認できます。



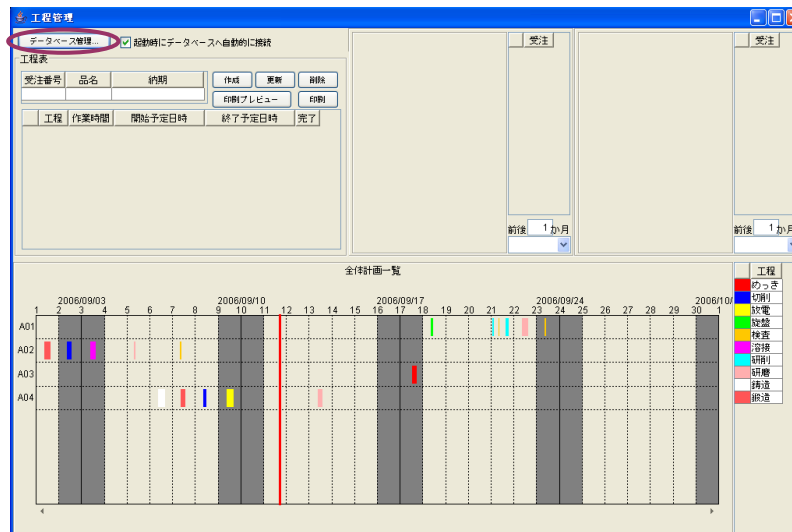
[実行(設定可)]ボタンを左クリックします。



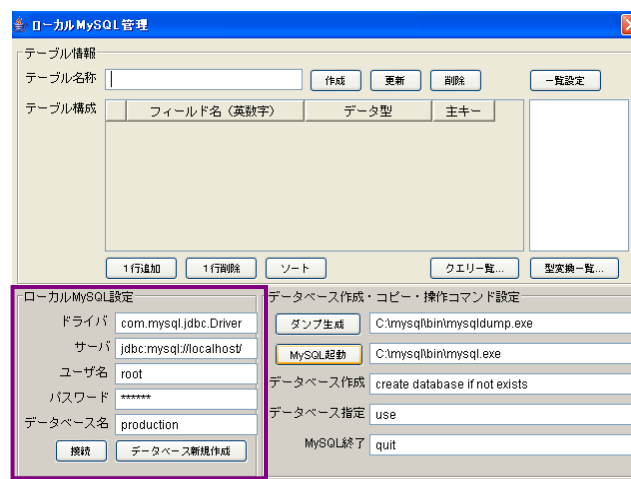
工程管理システムが起動します。

7-2 サーバ名の設定変更

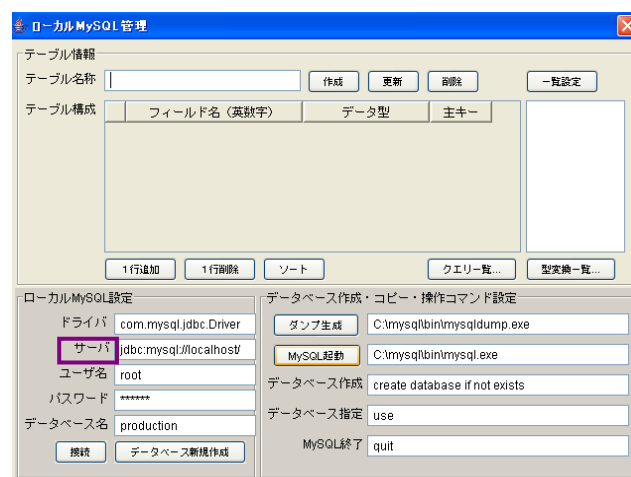
「7-1 工程管理システムのロードと起動」の操作により、工程管理システムを起動します。[データベース管理...]ボタンを左クリックします。



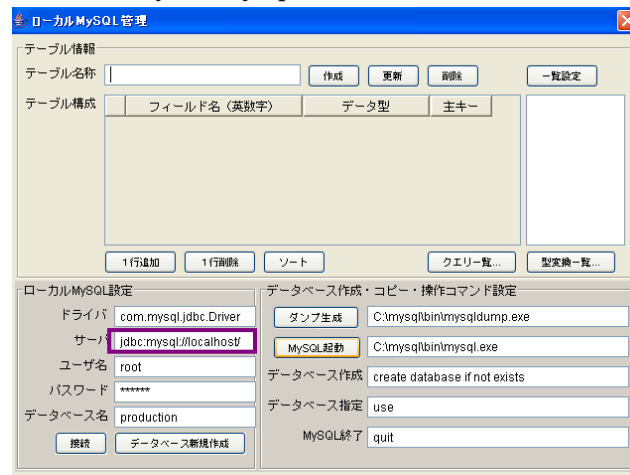
「ローカル MySQL 管理」画面が表示されます。画面左下部に「ローカル MySQL 設定」欄があります。



欄内の2行目に、[サーバ] 項目があります。



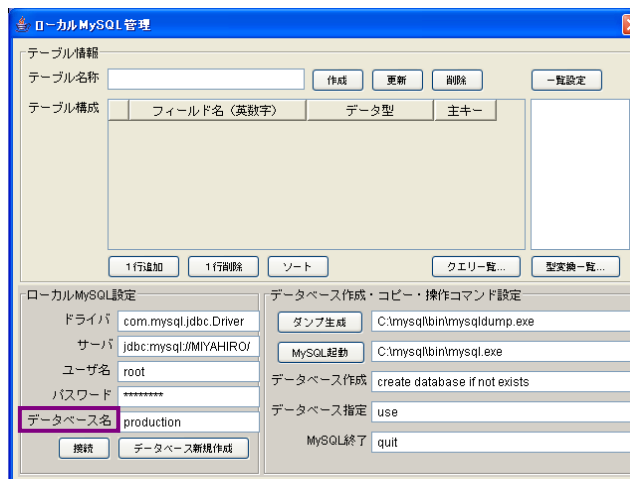
その右隣のテキストボックスに、「jdbc:mysql://localhost/」と記述されています。



「localhost」の部分で、サーバとして使用するパソコンのコンピュータ名に書き換えます（例えば、「MIYAHIRO」）。コンピュータ名の調べ方は、「7-5 パソコンのコンピュータ名の取得」（P. 127）を参照してください。

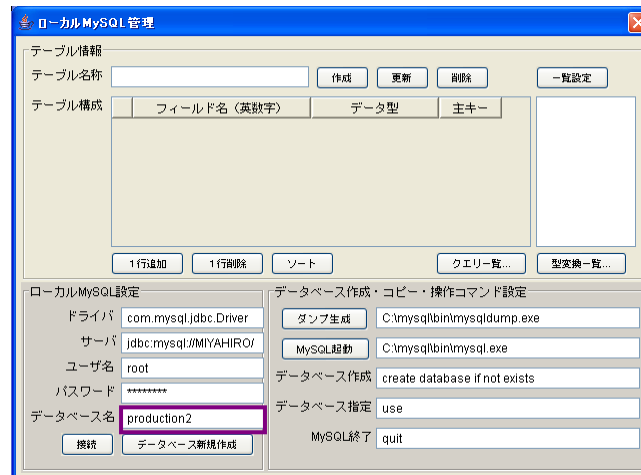


欄内の5行目に、「データベース名」項目があります。

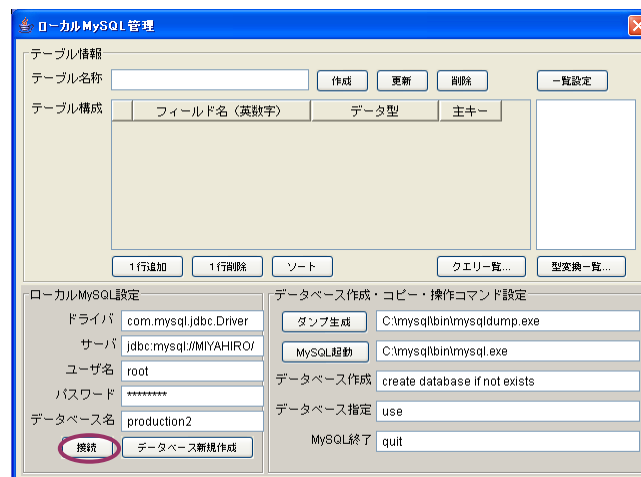


項目名右隣のテキストボックスに、「production」と記述されています。現状では、接続先データベースとして「production」を使用しています。接続先データベースを、実際に使用するデータベース（例えば「production2」）に切り替えます。

データベース名の記述を、「production」から「production2」に変更します。



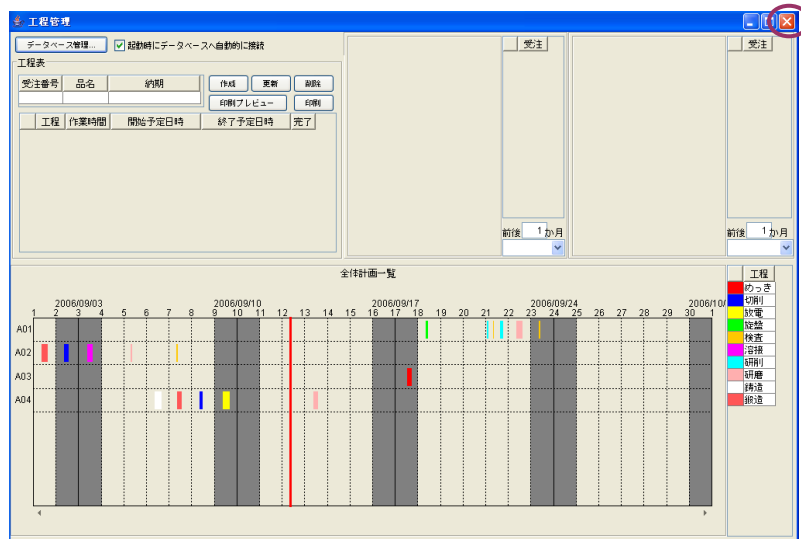
変更が終了したら、[接続]ボタンを左クリックします。



「×」ボタンを左クリックし、「ローカルMySQL管理」画面を閉じます。

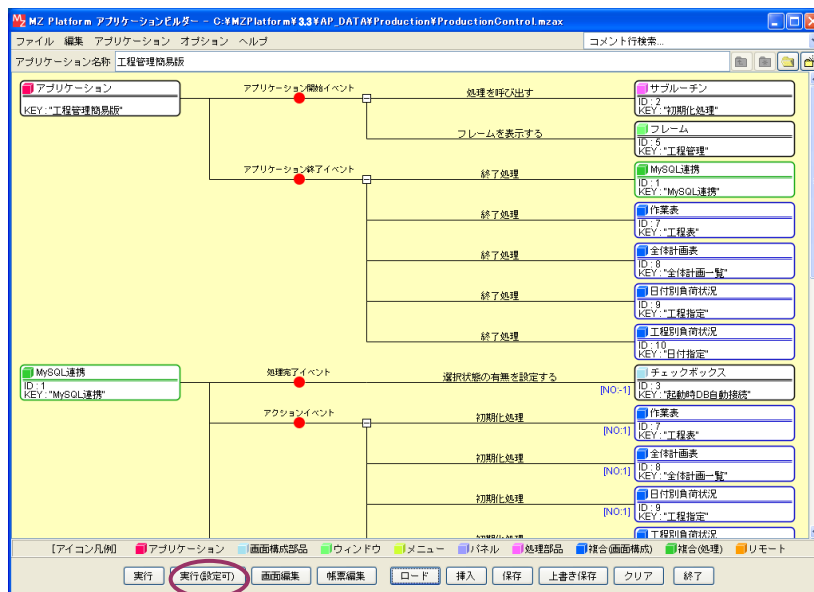


「×」ボタンを左クリックし、「工程管理」画面を閉じます。



「アプリケーションビルダー」画面上で[上書き保存]ボタンを左クリックすると、設定した内容が保存されます。

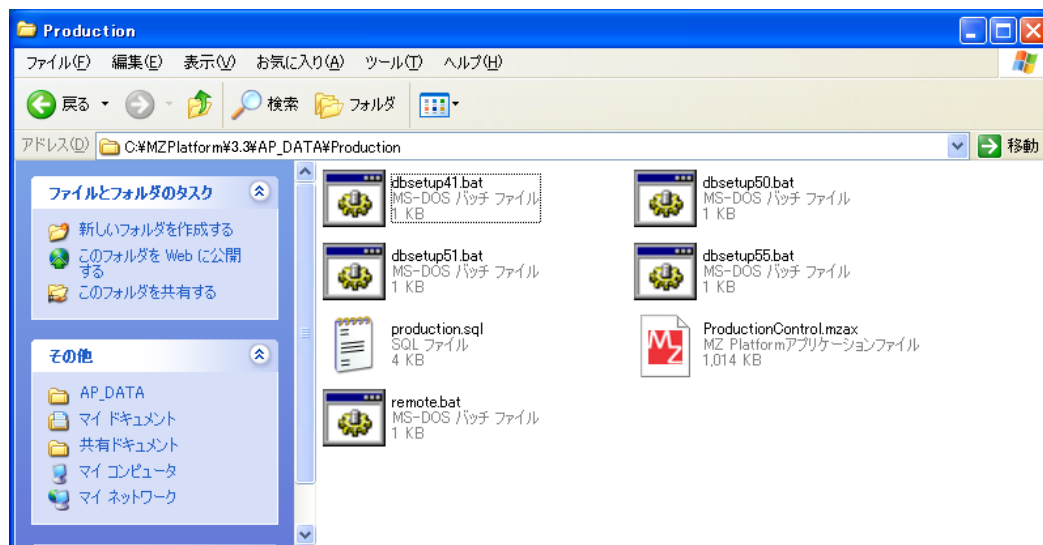
[実行(設定可)]ボタンを左クリックすると、「production2」ファイルの内容が表示されます。接続先データベースが「production2」に切り替わったことが確認できます。



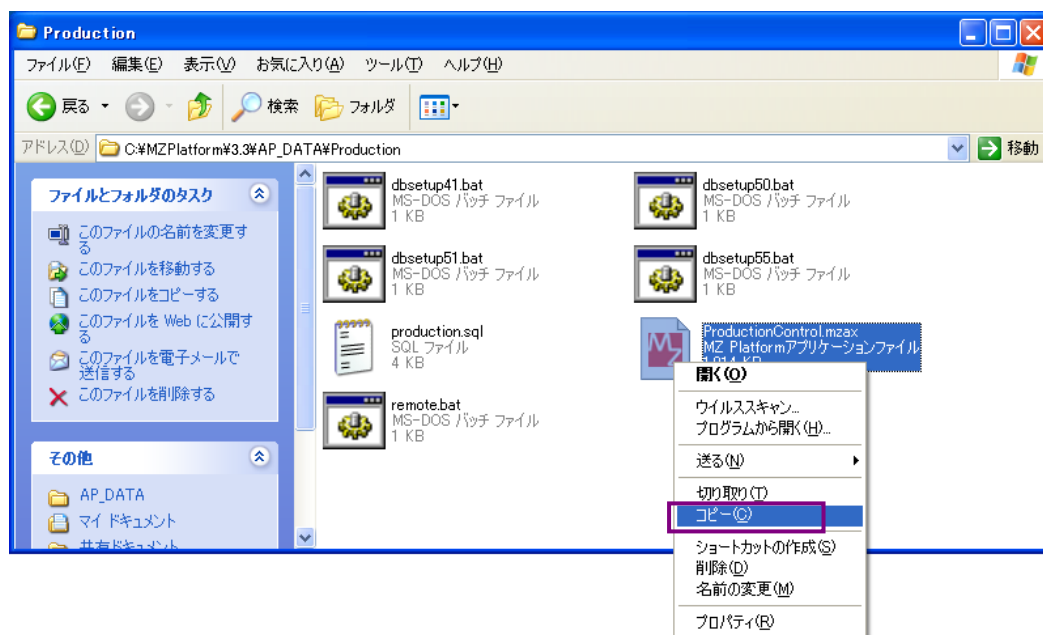
7-3 アプリケーションファイルのクライアントへのコピー

「7-2 サーバ名の設定変更」を行ったサーバパソコンで、「スタート」→「マイコンピュータ」→「ローカルディスク(C:)」→「MZPlatform」→「3.3」→「AP_DATA」→「Production」とたどりま

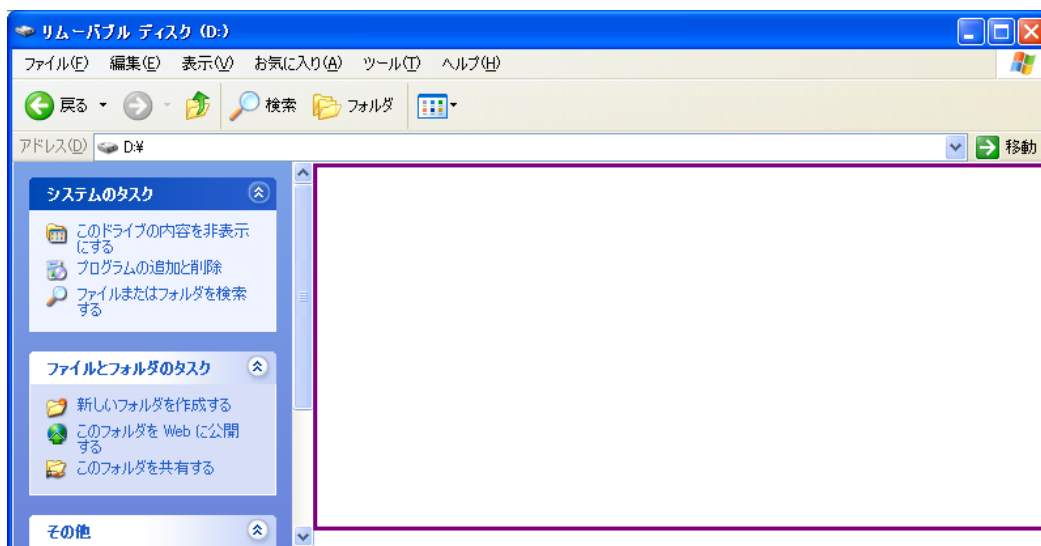
す。



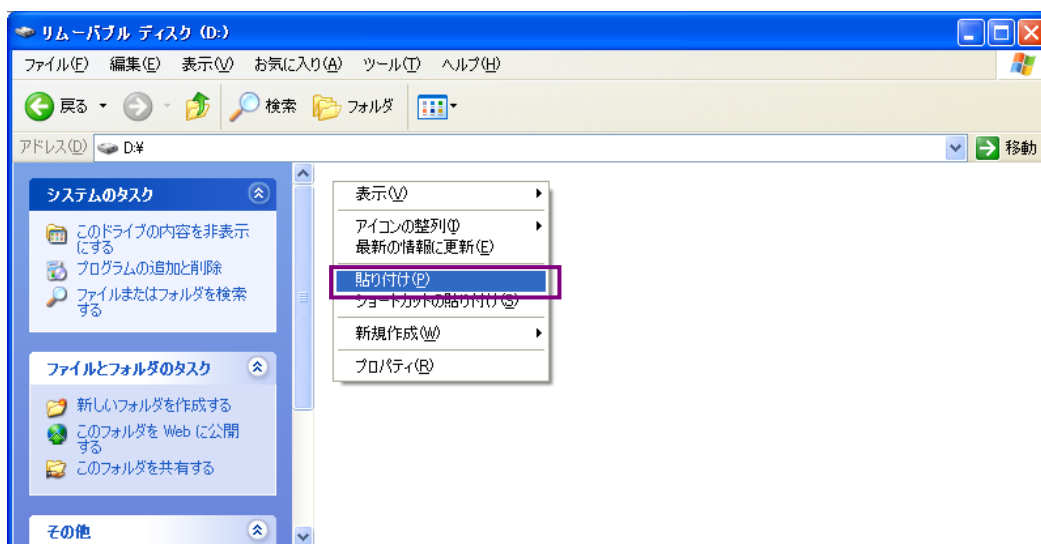
「ProductionControl.mzax」ファイルのアイコン上で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。「コピー(C)」上にマウスポインタを移動し、左クリックします。



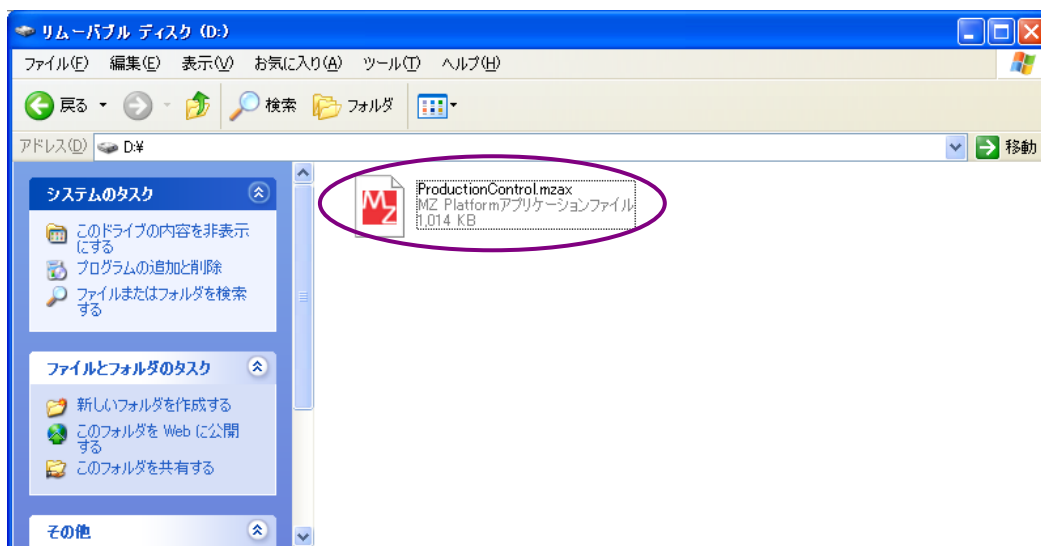
サーバパソコンに、USB メモリなどの電子媒体を差し込みます。「スタート」→「マイコンピュータ」→「リムーバブルディスク(D:)」とたどり、ダブルクリックします。(ドライブ名等の表示情報は、使用パソコンや電子媒体によって異なります。)



囲み部分内で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。「貼り付け(P)」上にマウスポインタを移動し、左クリックします。

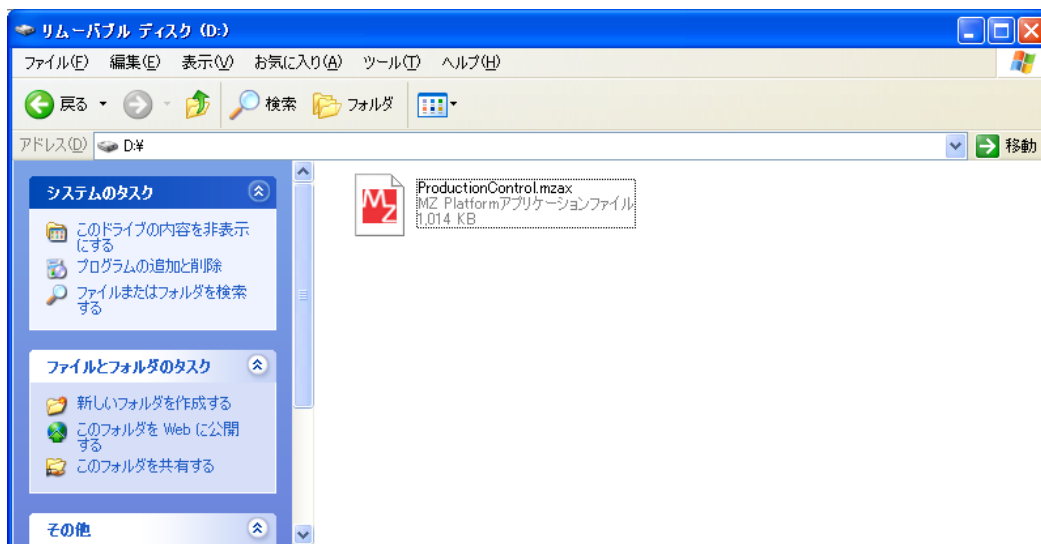


USB メモリにファイルが保存されたことが確認できます。この USB メモリを差しぬき、クライアントのパソコンに接続します。

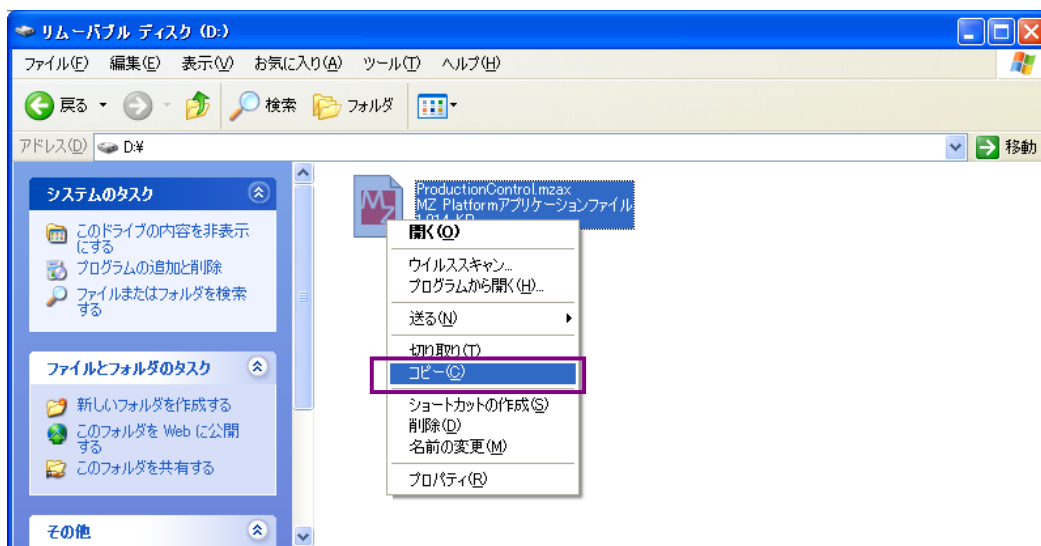


〈クライアント側のパソコン操作〉

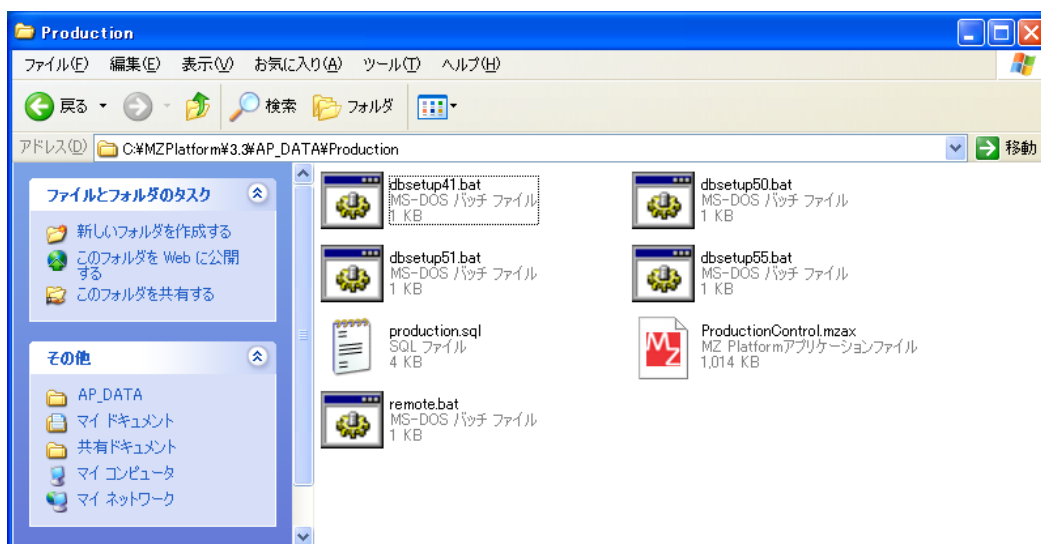
「スタート」→「マイコンピュータ(C:)」→「リムーバブルディスク(D:)」とたどります。
「ProductionControl.mzax」ファイル上にマウスポインタを移動し、右クリックします。(ドライブ名等の表示情報は、使用パソコンや電子媒体によって異なります。)



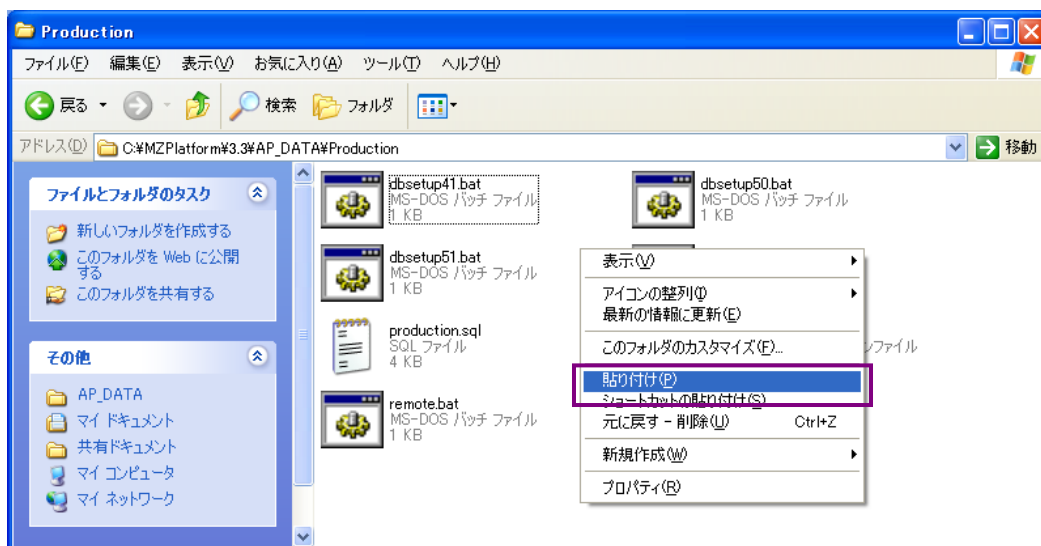
ポップアップメニューが表示されます。「コピー(C)」上にマウスポインタを移動し、左クリックします。



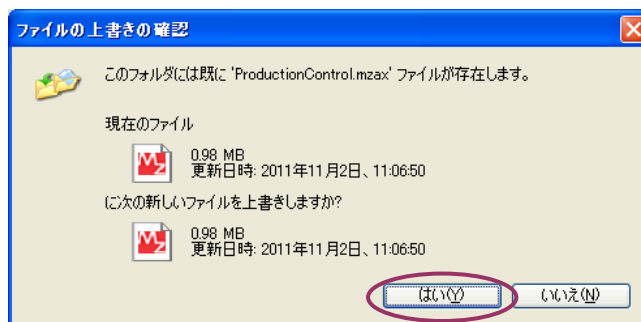
「スタート」→「マイコンピュータ」→「ローカルディスク (C:)」→「MZPlatform」→「3.3」→「AP_DATA」→「Production」とたどります。



空白部分で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。「貼り付け(P)」上にマウスポインタを移動し、左クリックします。

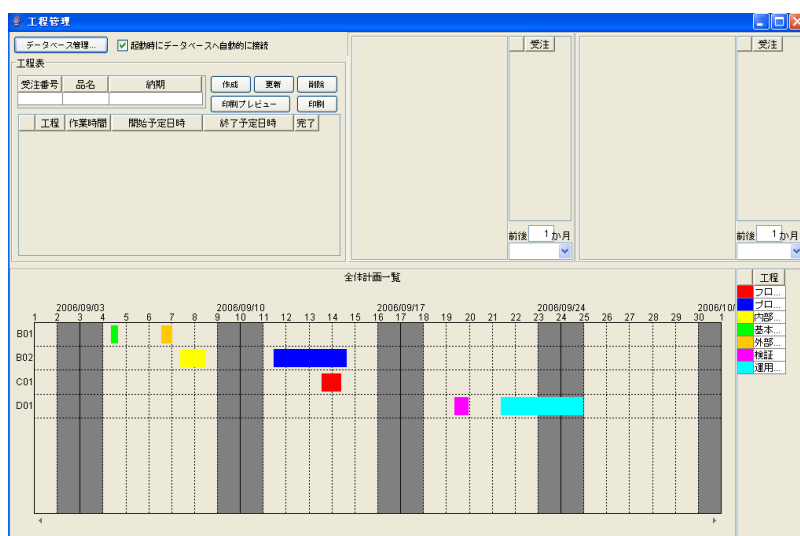


「ファイルの上書きの確認」ダイアログが表示されます。[はい(Y)]ボタンを左クリックします。



以上の設定により、ネットワーク上での共有が可能になります。

「7-1 工程管理システムのロードと起動」(P. 109)で述べた手順にならって、クライアントパソコンで工程管理システムを起動します。サーバのデータベースの内容をクライアント側のパソコンで表示できることが確認できます。

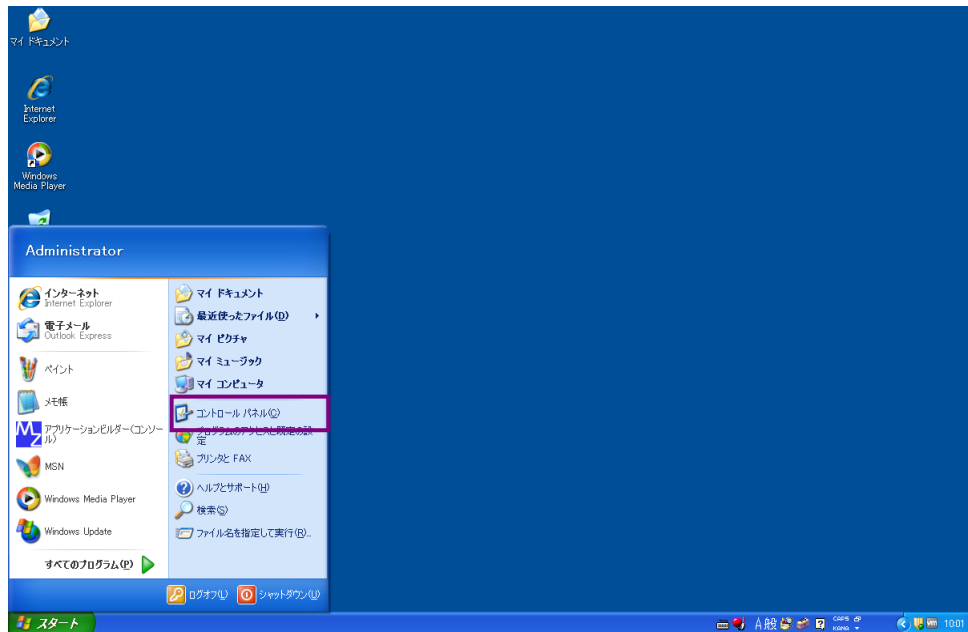


7-4 ファイアウォールの設定

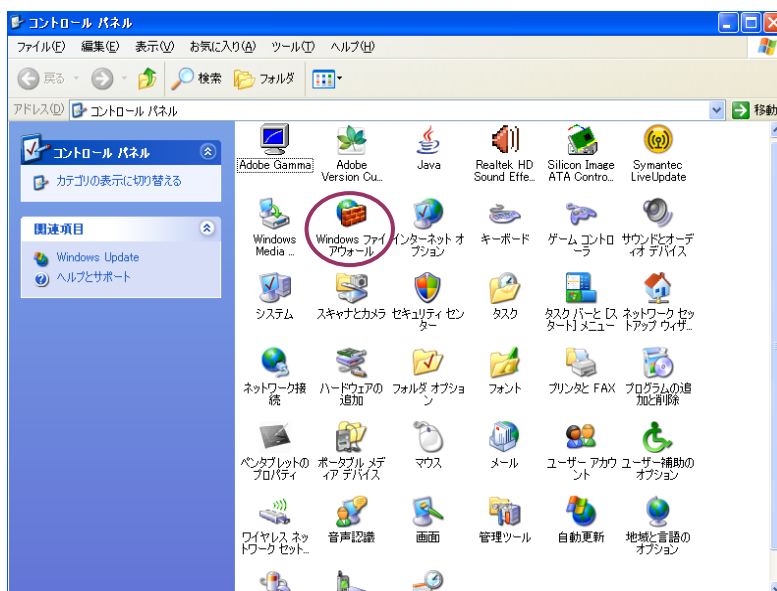
使用 OS が WindowsXP 以降の OS の場合、ファイアウォールによってサーバ側の MySQL への通信が遮断され、ネットワーク上でのデータ共有ができなくなることがあります。以下の設定を行うことにより、ファイアウォールによる通信の遮断を回避できるようになります。

※Windows2000 には、ファイアウォールの機能はありませんが、セキュリティ安全のため、ファイアウォールのインストールと設定を行うことを推奨します。

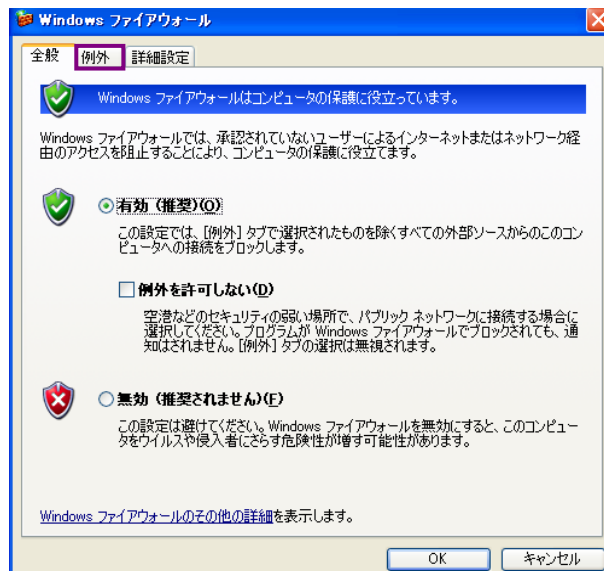
「スタート」→「コントロールパネル(C)」とたどり、左クリックします。



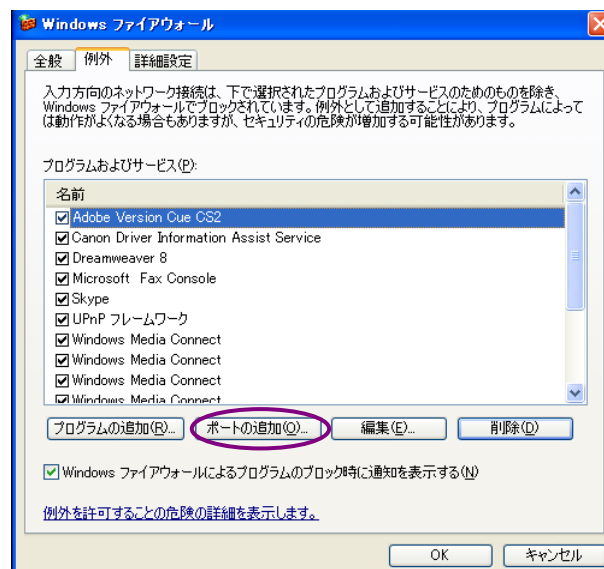
「コントロールパネル」ダイアログが表示されます。「Windows ファイアウォール」アイコン上にマウスポインタを移動し、ダブルクリックします。



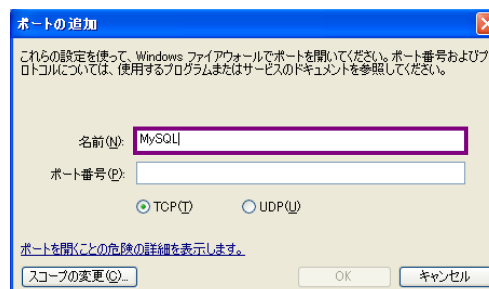
「Windows ファイアウォール」ダイアログが表示されます。〔例外〕タブを左クリックします。



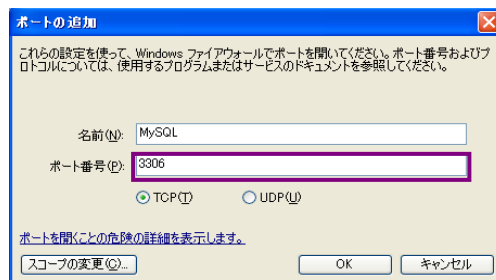
[ポートの追加(O)...]ボタンを左クリックします。



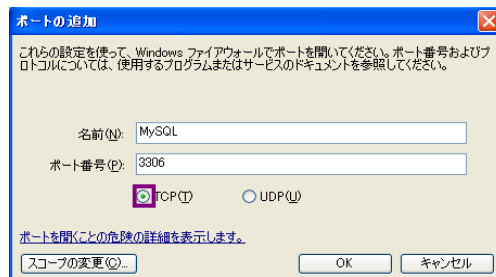
「ポートの追加」ダイアログが表示されます。[名前(N):] のテキストボックスに【MySQL】と入力します。



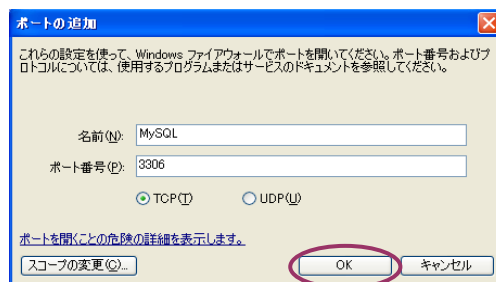
[ポート番号(P):] のテキストボックスに【3306】と入力します。



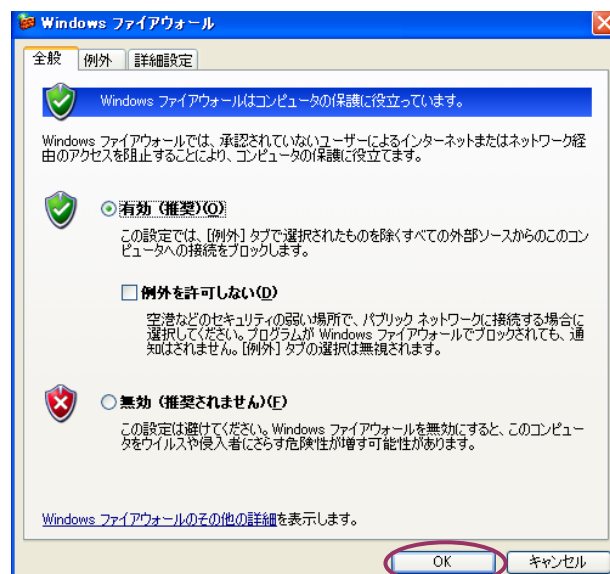
「TCP(T)」の左隣にある○印上にマウスポインタを移動し、左クリックします。



[OK]ボタンを左クリックします。

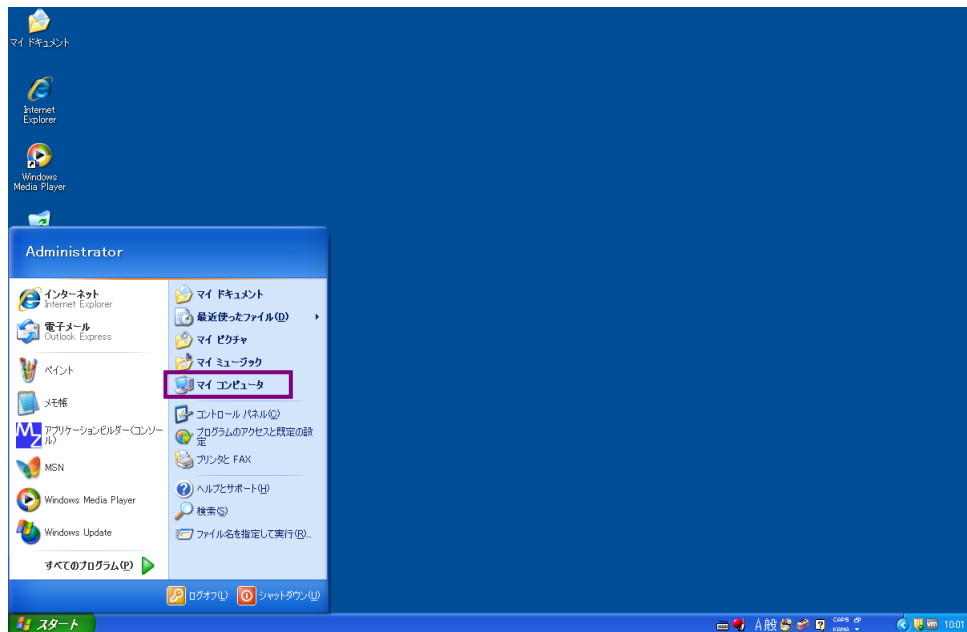


「Windows ファイアウォール」ダイアログの[OK]ボタンを左クリックします。以上の操作により、Windows ファイアウォールが有効であっても、MySQL が使用する 3306 番のポートは通信が遮断されることなく、利用可能になります。

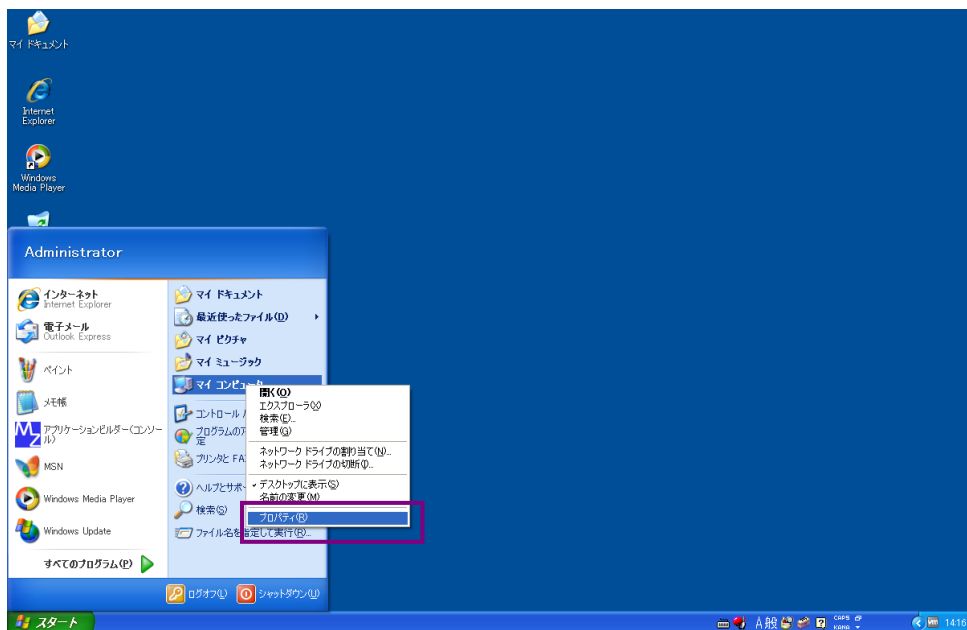


7-5 パソコンのコンピュータ名の取得

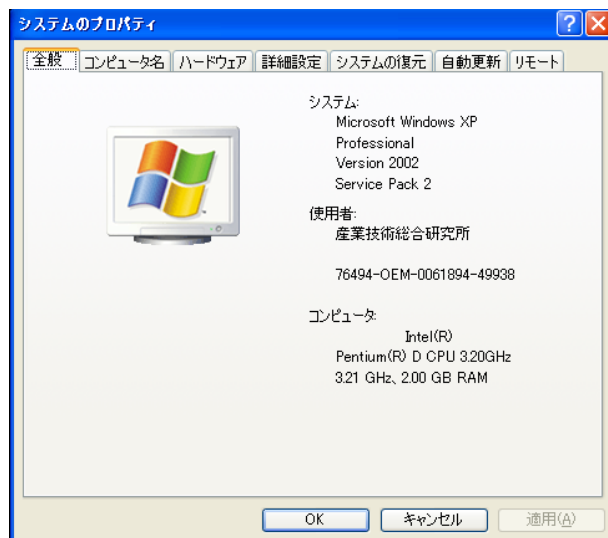
「スタート」を左クリックします。「マイコンピュータ」上にマウスポインタを移動し、右クリックします。



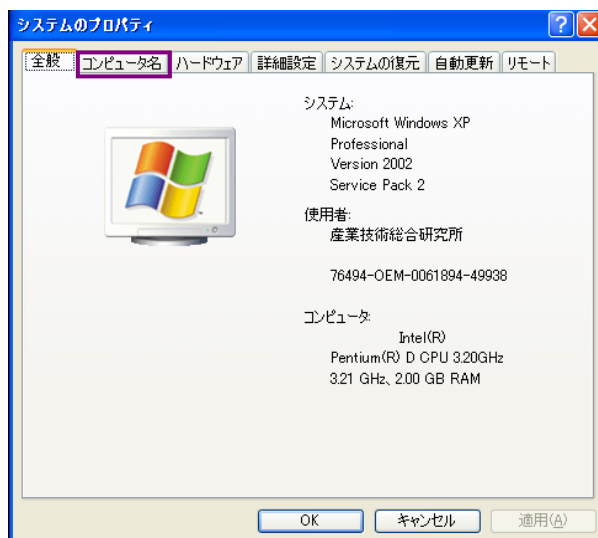
ポップアップメニューが表示されます。「プロパティ」を左クリックします。



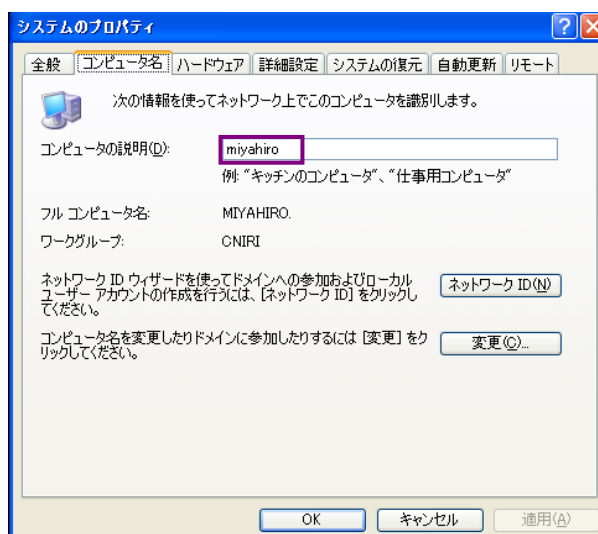
「システムのプロパティ」ダイアログが表示されます。



〔コンピュータ名〕 タブを左クリックします。



〔フルコンピュータ名:〕 項目の右隣に、コンピュータ名の記述があります。



☆MySQLのバージョン確認☆

「スタート」→「マイコンピュータ」→「ローカルディスク(C:)」とたどります。「mysql」フォルダがあれば、4.0.x をインストールしていることになります。

「スタート」→「すべてのプログラム(P)」→「MySQL」とたどります。「MySQL Server 4.1」の表示があれば、4.1.x をインストールしていることになります。

「スタート」→「すべてのプログラム」→「MySQL」とたどります。「MySQL Server 5.0」の表示があれば、5.0.x をインストールしていることになります。